380
37

34. 6. 4

380-37

小西榮三郎著

大相塲の來否及其特質

東京 利殖之友社發行

大正
8. 12. 20
内交

序

所謂、戰後の大相場なるものは來るのか、來ぬのか、果して其の大相場なるものが來るとすれば、其の時期は何時か、と云ふやうな質問が毎日五六通は必らず著者の許に舞ひ込んで來る。然るに、事業家として幾多の會社に關係を有し、自分自身が直接經營して居る會社丈けでも四や、五を算するやうな境遇の自分としては、是等多數の照會に對して一々回答する事は勿論出來ない、と云つて返事を出さねば相濟まぬやうな心地もする、即ち癪に障つた極、數日間徹夜して本書を著はし、大相場の質問が來たなら、本書を買へと云ふ返事を出させて居る、而して之は實に繁雜を防止する最善の策であると同時に、一面に

は金が儲かると云ふ所謂一擧兩得の策であるから、思はず失笑を禁じ能はざる次第である。

大正八年十二月

著者識

序かよ

大相場の來否及其特質「目次」

緒論……一
戰後財界の根本的變化……二
戰後の好景氣出現の順序……四
不景氣の容易に來らざる理由……六
所謂戰後大相場の遲々たる理由……八
大相場は徐々として來らん……一〇
一度は出ねば納らぬ大相場……一三
悲觀論者の陷る誤謬……一六
投機時代の特徴……一七

各種の勞働運動と大相場……二〇
我國の世界的膨脹、大相場の素因……二二
大相場は大危險を意味す……二四
平和の惡影響と好影響……二七
國民生活の向上と株式……二九
成金の活動と大相場……三三
戰後の軍備問題と大相場……三四
戰後の世界各國と我が經濟界……三六
結局大相場來らん(予の決論)……四〇

日露戰後の大相場(出現の順序及波瀾史)

自明治三十九年十二月一日至明治四十年三月三十日)大相場の出現と其波瀾史……(一—一〇二)

玄人の大相場觀

大正九年株式豫想……一
株式界の白營期……四
大相場の來否如何……九
朝待たるゝ大相場……一四
來るべき大相場……一七
相場活躍せん……二一

大相場の來否及其特質

小西榮三郎著

緒論

所謂、戰後の大相場なるものは果して來るものであらうかどうか、若しも來るものとすれば何時頃どんな風に來るであらうか、どのやうな前提の下に出現して來るであらうか、若しくは又、戰後の大景氣時代なるものは既に經過して仕舞つたのであつて、今にして之を待つは一種の空想に過ぎぬのであらうか。之は實に相場に對して興味を有する人々の凡てが知りたいと熱望する所の問題である。否曾に相場に關係を有する人々のみに止まらず、社會全般の各階級を通じて殆んど凡ての人々が知りたいと熱望する所の問題であらうと信ずる。斯の如く此の問題は爾く重大なる問題であるが、同時に

亦之を極むることも甚だ困難であつて、最も明白に正直に露骨に云ふならば、神ならぬ身の人間の智力に於ては徹底的に此問題に論斷を下すことは不可能であると云はねばならぬ。然り、此問題に就て斷定的に論斷を下すことは不可能であるかも知れぬが、偖、然らば此問題は絶對的に窺ひ知ることが出來無いであらうかと云へば、必ずしも左樣ではない。戰後に於ける世界の經濟狀態は如何であらうか、戰後の各種工業は如何なる順序を以て恢復するであらうか。又、金融の狀態は如何、物價問題の將來は如何、最近新設會社の激增して資金の此の方面に吸收されたる爲めの影響は如何等、財界の各方面よりあらゆる材料を蒐集し來つて之を綜合し、之れに依つて財界の將來を卜し、併せて株式界の人氣が如何に推移し行くかと觀測する時は、大體に於て其の大局を握る事が出來るのである。而して予が玆に極めんと欲する所も亦是等の材料に根據するものであつて、決して一片の臆測若くは根據なき迷信的の斷定を恣まゝにせんと欲するのではない。

戰後財界の根本的變化

御承知の如く日清戰爭後にも大相場があつた。日露戰爭後にはヨリ以上の大相場が有つた。而して今回の歐洲大戰爭に際しては更にヨリ大なる株界の大激變があつた。事實、我が株式市場は歐洲戰爭の開戰當時卽ち大正三年の八月に一轉機をなし、爾來今日に到る迄五ヶ年間と云ふものは波瀾重疊、否狂瀾激濤幾多の大波瀾を繰り返し來つたのであつて、此邊の消息は亦能く諸君の知る所である。併し此の相場の荒浪は最早既に收まつたものであるとは觀測することが出來ない。大暴騰か大暴落か、人各々觀る所は一樣ではないが、昨今の相場が既に平靜に歸したものであるとは何人か之を斷定し得やう。一面に悲觀說あり、他の一面には樂觀說あり、其の觀測こそ異なれ、之れからの相場に大波瀾ある可しとは何人も之を期待する所であつて、吾人が玆に大相場の來否及其特質を研究する理由も亦實に玆にあるのである。

將來を卜するには先づ過去を知らねばならない。故に先づ順序として過去の相場を見るに、大正四年春以來の上げ相場は五年末に一番天井となり、越えて六年の夏に到つて二番天井を打つて、其れから相場は順次下向きとなり、其れ以來の事は最近の事であつて諸君の能く知らるゝ通りの場面である

が、此の相場を大局より觀測するに、更に今後に於て尙一回高値を吹かねば收まらぬのではあるまいかと觀測される。最近卽ち大正八年十月中旬より十一月上旬へかけての東京大阪兩地の大新聞を見ると、何れも一齊に筆を揃へて戰後の大景氣時代は既に去つた。高値覺え、買漫性に陷つて居る多數の市人は今に悲慘なる憂き目を見るであらうと警告して居たが、何ぞ計らん、其時から今日(大正八年十一月中旬)の相場を比較して見ると、東株は五六十圓方引返し、最も悲觀された紡績株さへも四五十圓方引返して、相場記者をして財界の潛勢力の侮る可からざるもの有るを思はしめた。此の大事實は何を語るものであらうかと云へば、改めて申す迄もなく、我が財界が根本的に變化を來して、世人の想像し能はざる程度に發展膨張したる事を證明して餘りあるのである。

戰後の大景氣出現の順序

日本が戰爭前に借金國であつた事は改めて申す迄もない。所が先頃の戰爭で米國を除く歐洲の列强は悉く戰爭に依る大なる負擔をなしたるに反し、日本は案外にうまい仕事をして永年くるしめられた外債を償還し年來の借金國は一躍にして債權國と變じ、此の好景氣が株式市場に反影して最近の彼の大活況を見るに到つたのである。然るに此の株界の活況も戰爭が濟んではモウ長い事はあるまい、遠からず不況時代が來るであらう、と云ふのが悲觀論者の主張する所であるが、戰後の不景氣と云ふものが左樣に早く來るであらうと觀るのは絕對に誤りである。何んとなれば、戰後歐洲各國の生產力が復活すると云ふ事は取りも直さず物資の大缺乏であつて、物質の大缺乏は他國に對する需要の大增加となるのは數の自然である。自然商取引は繁忙になつて物價の大暴騰となり、戰後の大景氣となるのは殆んど疑ふの餘地が無い。而して今は實に其の道程にあるものと見るが至當ではあるまいか。物價を調節せねばならぬと主張する人もあるが、如何に法令や何かの力で物價を抑へ附けやうとしても此の世界的の物資の大暴騰は決して人爲的に抑壓することの出來るものでない。而して此の論據より推論して行く時は、戰後の大景氣時代は今現に來りつゝあるので、從つて株界に大相場の來る可きも亦疑ふ可からざる所であるが、唯茲に一大暗雲の存するは彼の勞働問題思想問題の趨勢の案外に侮る可らざるものあるの一事である。故に是等の問題が物價の異常なる騰貴を口火として爆發し、一種の

國家的破産を來すが如き事あるに於ては、株式界も亦一大暴落を演ずるは當然で、斯くては當然來るべき筈の又來らねばならぬものとして、萬人が折角期待して居た大相場も、夢の如くに消え去るやうな事が有るかも知れぬが、各國の爲政者も此點には細心の注意を拂つて居るし、殊に我が邦に於ては斯の如き危險の發生を豫想する事が出來ないので、從つて此の種の心配は先づ以て無いものと觀測して差支あるまい。

不景氣の容易に來らざる理由

戰爭中に一部の經濟學者は『戰爭が濟めば物價の下落時代が來る、之が爲めに平和後に一大恐慌時代が襲來するであらう』と主張した。之は一應尤もらしい說で多くの人の中には此の說に耳を傾けた向きも尠くないが、戰爭が濟めばどのやうな種類の物品が下落するか位の事は誰にも豫想出來たので、其等の事業に關係を持つた人達は既に既に其對應策を講じて仕舞つて居るから、一部悲觀論者の心配するやうな狀態は遂に現出されずに濟んで仕舞ふのではあるまいかと思ふ。八ケましい議論をするのも面倒であるから實例を以て立證して置くが、予の取締役として經營に參加して居る會社で東京アニリン染料株式會社(資本金壹百萬圓)と云ふのがある。之は戰時中には横山工學士と中小路喜三郎と云ふ人との匿名組織で經營されて居た事業であつて、戰時中には百割の配當をやつて居た。今日ならば實に暴利取締令で取締らるゝ程のものであつた。然るに一般當業者も學者も政府當局者も凡ての人々が染料は戰後には駄目である。凡ての染料所は戰後に破産するであらうと觀測した程で、此の東京アニリン染料所の如きも亦斯く觀測された一つであつたが、平和が近くと共に忽ちに局面展開策を講じて平和時代に適應するの施設をしたので、同會社は今日でも立派に對資本利益割合年四割位の利益を擧げつゝある。之は實に一實例に過ぎぬが、各方面に於て平和後に打擊を受く可く豫想された事業は夫れ相應に用意する所があつたであらうと信ぜらるゝが故に、一部經濟學者の主張するが如く斯の如き事業の打擊を動機として財界の一隅に恐慌の來るが如き事は萬々有る可らざるものと信ぜらるゝのである。恐慌々々と恐れるが、前回に述べたるが如く、世界的に物資の大缺乏があり、從つて商品の異動が盛んであり、物價が昂騰しつゝあるのに、今にして俄かに戰後の不況時代の近けるを說

く人々は、果して何を根據とするであらうか。斯く想ひ來る時は株界に戰後の大相場の到來する事を豫想するには相當の根據あるも、戰後の好景氣時代が既に頭を附けたりとの觀測には誠に根據なきを想はざるを得ない。吾人の主張を餘りに大膽なりと云はゞ云へ、吾等の主張には尙附加す可き幾多の材料が有るのである。其一つは交戰國民の死藏されたる資金の順次現はれ來りし事である。卽ち戰爭中には使はうとして使ふことの出來なかつた資金が交戰國民の懷中を出て次第に出廻りつゝある。是等も亦購買力を强むる一の要素であらうと思ふ。尤も一面には今度の戰爭が豫想以外の大戰爭で其のやうな蓄積のあらう筈が無いと云ふ觀察も出來るかも知れぬが、吾等は左樣には觀測しない。

所謂戰後の大相場の遲々たる理由

予は昨夜(大正八年十一月十九日)二三仲買店主と會見した。時節柄其の談話の中心點が所謂戰後の大相場に觸れて來たのは勿論である。所で其內の一人は『東株は所詮一千圓以上のものですね』と云ひ出した。東株一千圓說!?! 聊か突飛のやうではあるが、今回の戰爭以來、東株八百圓說なるものは

屢々傳へられたる所で、而も幾度か相場の其處迄達せんとしたるの事實は諸君のよく熟知さるゝ所であらう。シテ見ると今日の如く諸物價の暴騰の著るしき時代に於て、東株の一千圓說が傳へられたから迎、理論上聊かも不思議は無い筈である。經濟上の原則と云ふものは大體に於て變化せざるものである。シテ見ると戰後の好景氣時代が來る事も、其原則より推論して將さに然る可きであらうと信ずる。而して日露戰爭後の經濟界と今日の夫れとを比較して見るに、其の差の甚しきは雲泥も曾ならざるものが有る。然るにも拘らず、株式市場の熱度の日露戰爭後の夫れの如く爾く甚しからざるは何の爲めか、之れには幾多の原因が有るのである。其の第一は人々の經驗が其の人々の經濟上の智識を增進せしめた事である。卽ち日露戰爭後には世人の經濟上の智識が今日の如く進步せず、殊に當時の地方人の如きは株式に對して全然無智識の如き狀態にあつたが爲めに、無謀なる行爲を敢てする事が多かつたのであるが、今日の人々は既に日露戰爭後に於て苦き經驗を十分に嘗め盡して居るから、株式賣買の方法に於ても常に警戒に警戒を加へて高値を警戒して居ることで、之が容易に戰後の大相場を演出せざる第一の理由である。第二には銀行の警戒を其の原因として數ふ可きであらう。政府當局者

は再度迄日銀の利上げを斷行して銀行の警戒を促しつゝある。銀行業者自身も日露戰爭後の大波瀾に懲りて從來可なりの警戒を加へ來つたのに、かてゝ加へて政府の政策か之れに加はつた爲めに株式界はどうしても勢ひよく爆發する事が出來なかつたのである。然るに再度の値上げを突如として出しぬけに發表しても差したる効果なく、其翌日には東株二拾圓高、大株四十圓高を演じたるに見ても、如何に材式市場が大相場的氣分に充ちて居るかゝ窺はれよう。以上の二大理由の爲めに、戰後の大相場は來らんとして來る能はざるが如き狀態にあるが、併し斯の如く銀行業者も一般市人も警戒に警戒を加へて來た所に却つて面白味が有るので、之が爲めに銀行に破綻を生せず、投資者も亦徐徐綽々たるものある有樣で所謂戰後の大相場は極めて穩健なる步調を以て一步々々近きつゝあるのでは有るまいか。

大相場は徐々として來らん

歐洲戰爭以來の株價は勿論著しき昂騰である。財界の大膨脹を來せること、株秤の著るしく激增したること、數へ來れば其の發展に驚かざるを得ない、併し其の熱狂の度より見る時は日露戰爭發の夫れに比して極めて冷靜に過ぎはしないか。日露戰爭後にはまだ創立を終らぬ會社の株が七八十圓のプレミアムを附して賣買された事實がある。今日政府の政策がどうの、かうのと攻擊する人が多いが今日の時代にはあの位の政策が恰度よいのであらう。今の政府を攻擊し、今日の景氣を彼れ是れと論議する人が、試みに眼を拾年前の日露戰爭後に注いだならば蓋し思半ばに過ぐるものがあらう。日露戰爭後にはプレミアムで一躍成金になつた人も尠くないが、今日は左樣の事は滅多にない。財界一流のチヤキ〳〵した人物が顏を揃へた有望な會社の新株で何百倍の應募が有つたと云ふ株でも其のプレミアムは精々二十圓か二十五圓であらう。此の事實を日露戰爭後のプレミアムが五六十圓になつた時代に比較すると、昨今の株式界の案外冷靜に過ぐる事を發見し得るであらう。之を既設會社に就て見るに、日露戰後には鐘紡は三十七年の安値より拾倍の三百七八十圓を唱へ、東株の如きも百二十五圓より僅か一回の增資で七百八十圓となり、之を利廻りよりする時は四朱を相當とするの議論あり、斯くて四十年一月の大暴騰となつたのであるが、昨今は戰後相場とは云ひ條、其の利廻りは九朱乃至一

割、若くは一割五六分に相當するものもあつて、株が斯の如き利廻りに在る事は其の熱狂の度の未だ甚しく低きを思はしむるに余りあると思ふ。

斯く考へ來る時は、歐洲戰後の今日に於ても日露戰後の夫れの如く大相場は夙に來る可く、又來らざる可らざる狀態にあるが、而も尙大相場的氣分の濃厚となり來らざるは前回述べたるが如き理由の存するが爲めであつて、尙他の理由として一部の人々は之れに附け加へて定期建株の著るしく增加したる事が大相場の出現を妨げて居ると說いて居る。日露戰爭當時には一千萬圓以上の會社は幾つもなかつた。然るに今日では一千萬圓以上の會社は極めて多く、五千萬圓、六千萬圓と云ふ大會社が著るしく增加して居る。而して正株の數が尠くつて賣買數が非常に多いとなると勢ひ株不足となつて結局大爆發の動機を作るのであるが、今日の如く株種が多く株數が澤山では買占とか、品攻めとか云ふ策略を行ふ餘地がないから、結局日露戰後の如き沸騰相場を演出する事は困難であると云ふ主張である。或は其邊の事情も考慮の中に加へぬと大相場問題の眞相を捕へ得ぬかも知れない。併し、一方から觀測すると、株の數量が增加したよりもヨリ多く、財界の實力が增加して居はせぬか。加之今度は日露戰爭後の如く事業界が忽ちにして沈衰する事がない。相當戰後の事業も劃策されて居る。對外貿易も俄かに減少を見るやうな事はない。さすれば是等の事情が明確になるのを待つて株界が大活躍を演ずるのであらうと云ふ觀測の方が正しくはあるまいか。子は順を逐ふて此の問題の眞相を捕へねばならぬ。

一度は出ねば收まらぬ大相場

歐洲戰爭が始まつた當時は株式界も一時沈衰したが、愈々之は大丈夫となると株界も大分興奮して可なり無鐵砲な投機が各方面に行はれて、津々浦々の農村を擧げて株の賣買に興味を覺えしめたのは此頃(大正四五年)であつたが、斯の如くに熱狂的に興奮した人達も忽ちにして無法なる投機の危險である事を覺つて漸く打算的となり、最近に到つては投資者の態度も著るしく健實の度を加へて來た。同時に事業家自身も徒らに浮薄なる經營法を爲すの愚を悟り、斯る機會に於て會社の基礎を鞏固にし戰後に於ても狼狽せざる丈けの準備を爲さんと努力し來つた結果、事業界は極めて堅實に進展し來つ

たのであつて、ヨシ我が經濟界が循環榮衰するの理法に依りて再び平時の時代の業績に立ち戻るものとしても、今日の各紡績會社が明治二十四五年當時の如き甚しき窮況に陷る可しとは想像する事が出來ない。今後の各船舶會社が戰中に開拓したる勢力を俄かに失墜し其持船を持て余す事ある可しとは想像されない、大體に於て、我が日本も多年苦み惱まされた借金の心配を必要とせざるに到り世界に對する信用も次第に高まり、貿易市場も大いに擴大されたる今日である。而して內に於ては各種の平和的事業は勃興し、ヨシ勞働問題の喧しき點はありとするも之を他諸外國に比較する時は勞力の供給は極めて豐富である、四圍の事情の斯の如きものあるに、戰後の日本が俄かに事業上に打擊を蒙るが如く觀測するは大なる誤りではあるまいか、更に尙少しく具體的に觀測するに過去四ヶ年間に於て、戰爭前には殆んど沒落の悲運に陷らんとしつゝあつた會社の俄かに復活して基礎を確實にしたものがある。又普通の會社の戰爭以來其の基礎を確實にして莫大なる積立金を爲したるものが尠くない。或る者は四倍五倍の積立金をなした。或る者は財產の見積り方を內輪にして內容の充實を圖つた。而して是等の事實は其の當然の結果として、株價の標準に大なる影響を齎したので、假りに玆に拂込

資本金と同額丈けの積立金を爲したる會社が有ると假定する。さすれば其會社の株が積立金を爲す以前に百圓のものであつたとすると、積立金を爲したる後には當然貳百圓たる可きは極めて明白であらねばならぬ。卽ち今日の株價なるものは大體に於て斯の如くにして昂騰し來つたものであるのに、而も一部の人々が此の事實を無視し、唯單に世人の投機心が株價を根據なくして引上げたるかの如くに觀測するは大なる誤である。之を要するに、株界の前途は樂觀で、必らず一度は所謂大相場の出る所迄持つて行かねば收まるものではない。

悲觀論者の陷る誤謬

世界は常に進步しつゝある。人類生存の最大理由は世界の進步にある。而して經濟界も亦人類世界の主要部分である以上、常に進步しつゝあるの事實を否定することは出來ない。殊に經濟界の進步が戰爭に依つて著るしく促進さるゝの事實をも否定する事は出來ない。卽ち大正三四年より今年迄六ヶ年間に於ても各種の進步の促進さる可き時機にあつたが、而も戰爭中に於ては周圍の事情が無理に之

を抑壓して來たので、世は平和時代となつて此の壓迫の排除されたると同時に、世界の經濟界は驚く可き速度を以て其の進歩の行進を開始するのである。卽ち此の機會に於て貨財は增加し、各人の生活程度は向上し、物資の要求は殆んど制限なしに現はれて來るので、其の影響は蓋し驚く可きものが有るであらうと信ずる。絹や裝身具の需要が增加する、化粧品の需要が增加する、美術品の需要が增加する、食物は次第に贅澤になつて來る、砂糖や鰹節は使はなかつた地方人が之を使ふやうになる、と云ふ次第で、從つて是等の需要を滿す爲めには夫れ丈けの生產設備が必要になるから、從つて銅、鐵石炭、電力等の需要が激增する、旅行者が增して金の動き方が激しくなる、而して是等の物資の移動が循環的に益々人間の經濟的欲望を熾烈ならしむると云ふ風に、戰後の大景氣時代なるものは理屈上當然來らねばならぬ順序にあるのである。然るに玆に悲觀論者なるものがあつて、唯其の半面たる反動時代のみを强く見て、大局の觀測を誤りつゝあるは遺憾である。私の友人に極めて消極主義の人がある。其の人は東株が八十圓位の時に盛んに相場をやつた人であるので、今では到底手が出ないと云つて戰爭以來遂に其の好機を取り逃しつゝある。又其の人は電話が五百圓になつた時に非常な高値を吹いたものとして、其所有の電話を賣り拂つたので、今日電話が二千四五百圓になつて見ると、必要は必要であるが五百圓で賣つた電話を二千五百圓で買戻すのも餘りに馬鹿々々しいので遂に今日迄電話なしで忍んで居る。曾つて二百圓の郵船株を高過ぎると云つた近藤男は目先の見えぬ人であつた船成金の出來る前に其持船全部を金に替へた成瀨氏は目先の見えぬ人であつた。以上の人達は多く反動來を恐れて之を警戒するのであつて、戰後反動の來ることを認めて居る吾々は反動期を警戒する事に反對はしないが、餘りに其反動のみを恐れて、大局の觀測を誤らぬやうにしたいと思ふ。卽ち戰爭は一面に於て各方面の進歩を促すもので、此の五六年間に戰爭の爲めに各人の物質的要求が如何に抑壓されて來たかと云ふ事を熟知する人達は、今に於て所謂戰後の大景氣時代の當然出現し來る可き事を否定する事は出來ないかと思ふ。

投機時代の特長

予は昨夜(大正八年十一月二十日)矢ノ倉福井樓に於て開かれたる時事新報の招待會席上前の富强

世界社長高柳淳之助氏と、株式世界社長鈴木八郎氏と席を隣して兩氏と株界の前途に對する意見の交換を爲すの機會を得た。高柳氏は曰く

『今の財界の現狀を觀察するに、彼の日露戰爭後とは大いに趣きを異にして居る。事業界の人々も警戒に警戒を加へて今日に到つたのである。日露戰爭後の財界は極めて不眞面目であつたが、今日は不眞面目の分子が多くない。此點より觀ても財界の景氣は俄かに沈衰するが如き事は無い』云々

又鈴木八郎氏も同樣の意見を附して

『株式界の前途は何と云つても暴騰を免れませんよ、東株七百圓時代は蓋し餘り遠くはありますまい』云々

以上、兩氏の意見は偶然にも予と其の見解を同うするに到つた次第であるが、今日財界の彼の偉大なる膨脹を目前に眺めて誰か株式界の俄かに沈衰に期す可きを信ずるものが有らう。唯怪しむ、東都大新聞の多數が十月中、株式界再度の暴落を演じたるに際し、一樣に筆を揃へて株界の前途を悲觀し、最早確かに天井である、株界の活躍は今日を以て絶頂とする、高値覺え、買漫性に捕はれて悲慘なる憂き目を見るの愚を演ずる勿れ、と主張した其の根據の果して奈邊にあるかを。

當今は財界の膨脹期である。物價騰貴の時代である。物價騰貴の時代は最初貨物の騰貴があり、次に貨銀及證券(株式)の騰貴があり、更に土地の騰貴となつて一段落を告げるのである。而して斯る時代の特長として投機熱の流行が盛んになる、之が財界の原則である。試みに今、此の原則を目下の情勢に當てはめて觀測して見ると、今は第二期で即ち貨銀及證券騰貴時代の前半に位するのではあるまいかと思ふ。果して然りとすれば眞の大相場時代即ち株式大暴騰の時代は今現に來りつゝあると觀測するが至當であらう。

戰爭は物資の破壞であるが一面財界の膨脹である。而して不自然に膨脹したる財界は必然的に收縮し沈衰するは自然の理で財界の最も危險なるは此の時である。併し此の現象は極めて一時的であつて此の危險時代を經過した時に再び復膨脹時代が來らねばならない其の理由は斯る過渡期を經過した時に、信用の恢復と云ふ現象が來る。而して信用の恢復は即ち財界の膨脹を意味するので、銀行が事業界の過渡期である危險時代であると警戒した後に、警戒はして見たが案外思つた程の危險もなかつた

と云ふ事になると、信用の膨脹を來し、其の當然の結果として財界は再び膨脹時代に入るのである。此の理由順序を能く頭に入れて置くと大相場の來否及其の時期も略確乎とした目標を得るであらうかと思ふ。

各種の勞働運動と大相場

今度のやうな大戰爭の後には必らず各種の革新運動が起る可きもので、今現に起りつゝあるは諸君の目擊せらるゝ所であらう。露國は戰時中に革命運動が起つて壞滅した。獨逸にも略同種類の運動が起つて案外なる降服を餘儀なくされた。平和後には英米佛の諸國には各種の勞働運動が起つて爲政者を苦しめて居る。而して其の餘波は我日本にも及んで斷續的に各種の勞働運動が起りつゝある。或る一部の人々は此の現象を目して甚だ危險なりとし、今にも日本の國家が根本的に動搖するかのやうな說をなすが、之は當らない。勿論今日のやうな時代には政治のやり方一つで是等の運動が非常なる危險性を帶び來る可き可能性を有して居る。併し現に現はれつゝある問題は、聊かも危險なものでない、斷じて事業界が破壞されるやうな性質のものではない。今、各種勞働運動の目的とする所を概括して見ると、(一)八時間制の實行(二)勞働組合の組織が主なるものである。八時間制が實行されると收益が減ずると云ふ。之が爲めに勞働會議に於ける我が資本家委員の如きは汗だく〳〵で奮鬪して居る樣子であるが、結局するに八時間制は世界の大勢で、どうせ實行せねばならぬものである。武藤氏の如きも其位の事は承知せぬ譯でもあるまいが、急激に實施すると事業界が打擊を受けるから或る期間を置いて實ひたいと云ふに過ぎないのである。而して會議の結果も或る種の除外例を認めた樣子であるから、結局我邦に於ては或る期間を置いて八時間制を實行するであらうが、所謂其或る期間中に其れに應ずるの策も樹立する譯で、事業は之が爲めに却つて進步するかも知れない。又勞働組合の成立の如きも一部の事業家は案外に恐れて居る樣子であるが、勞働組合が組織された曉、之を善良に指導し開發する事さへ怠らねば、勞働者の自覺を促す結果となつて、却つて之が爲めに勞働能率が上り、成績がよくなると云ふ點もある、之を要するに戰後の我が日本には一大進步が來るので、國としての地位は恰も彼の英國の如くになるに相違ない。東洋の英國となつて東洋に覇を稱するに到る可き

運命にあると思ふ――と斯くの如き事を羅列し來つて、偖、此の問題が大相場の來否と如何なる關係があるかと云ふと、要するに、目下我邦に起りつゝある各種の勞働運動は決して一部の人達が憂ふるが如きものではなく、寧ろ事業界の進歩を促すものであると云ふ事情が各人に首肯される結果、市場の人氣は次第に良好に傾いて行つて結局、大相場に導くの原因をなす事となるので、之も亦大相場來の一動機と目す可きであらうと觀測する次第である。

我が邦の世界的膨脹は大相場の素因

何時の時代にも悲觀論者が多い。格別にも老人の跋扈する我が日本に悲觀論者が多い、之は老人のいらざる苦勞と云ふものである、予にも一人の老母がある。數十年來、最も深く予の將來を心配して呉れた人である。此の老母は予の十五六歳の時から爾來今日に到る迄、予が新しい進路を開拓せんとする事に反對して來た。自分は斯う云ふ事を始めようと思ふと云へば、一も二もなく其は危險である止めるが宜しからうと云ふ。併し予は此の老母に反對する事に依つてのみ、今日の成功を贏ち得たのである。予の子供達は遠からずして、予が年來實行し來つた如く、予の忠言に反對して彼自身の行動を開始するであらうと思ふ。斯の如く古き時代の人は、新時代の事物を適當に觀測する事が出來ないのである。日本經濟學者に悲觀論者の多いのは、日本の經濟學者が老人許りであるからである。併し如何に老人達が悲觀したから迚事實は事實として實現されて行くから仕方が無い。日本には明治三十五六年頃から悲觀論を續けて來た經濟學者がある。然るにも拘らず日本は偉大なる進歩を遂げて來たではない乎。日本人の活動する天地は日清戰爭前には內地にのみ局限されて居たのである。然るに夫れが臺灣朝鮮滿洲に及び、支那南洋露國に及び、今日では全く世界的となつて仕舞つた。今日本人は世界を相手として商賣をして居るのである。世界の日本と云ふ言葉は今日漸く實際的となつたのである、唯一つ遺憾なのは金の無かつた事であつて此點に到つては多年涙を呑んで來たのであつたが、今回の戰爭の結果として今や拾數億の正貨を有するに到り、更に數億圓の對外放資を有して居る。實に驚く可き財界の大膨脹ではないか。

次に吾等の閑却する能はざるは支那に對する放資である。戰後列强が支那を活動の舞臺とするであ

らうとは、何人も豫想した所であるが、事實斯の如く今日米國を始めとし其他諸國も眼を支那に集注せしめつゝある。對支放資に就ても一部悲觀論者は之を悲觀して折角戰時中に開拓した對支貿易も、各國が支那に於て各種の事業を起すに於ては之が爲めに萎縮するであらう、我が優越せる對支地位は冒さるゝであらうと主張して居るが、貿易と云ふものはソンナものではない。各國が支那に眼を注いで呉れると云ふ事は日本に取つては實に有難いので、各國が支那に事業を起して呉れゝば、支那に於ける物資の供給に任ずるものは卽ち日本あるのみで、日本は支那に接近して地理的に優越の地位にあるのであるから、支那が開發されれば、さるゝ程日本の對支貿易は盛んになるのである。此の天然の利益あるに加へて、日本が戰時中に基礎を固めたる對支事業は、列國の資本投下に依つて最も早く利益を受くるので、從つて內地に於ける各種の工業を發達せしむるに到るは明白である。此點から見ても吾等は斷じて我が株式界の前途を悲觀する事は出來ないのである。

大相場は大危險を意味す

予は前回に於て少しく貿易の關係を述べて置いたが、尙物足らぬ感がある故、玆に尙少しく研究を續ける事とするが、戰爭の終了した今日船腹は大いに增加し、列國は各種の制限を撤去し、戰爭中世界の貿易圈外に置かれた獨墺との貿易の途も開かるゝに到つた。露國の秩序は未だ恢復の運びには到らないが、之も永く混亂の狀態にあらうとは予想する事が出來ない。故に若しも露國の秩序が恢復するならば對露貿易も活況を呈するに相違ない、と斯く觀測し來る時は今後の我が對外貿易は實に有望である。加ふるに我が對支貿易は前段述べたるが如き情勢にあつて甚だ有望であるとすると、我が貿易界の前途は極めて有望であるので、此の點から觀ても大相場の實現は一點疑ふ可き餘地が無い。東株八百圓說を唱ふるものあり、更に千圓說を主張するものがあり、驚く可きは東株は二千圓迄行くであらうなどゝ突拍子もない說を持ち出す人のあるのは、要するに前來述べ來つたやうな材料を根據として居るのであるが、玆に諸君に向つて大聲主張して置かねばならぬ一事がある。其は外でもなく空前の大相場があると云ふ事は、一面より觀る時は空前の大暴落が有ると云ふ事を意味して居る。上つたものは必らず下るのは理の當然であるからである。ヤー東株が五百圓だ、六百圓だ、イヤ八百圓

だと買附いて居る内に、諸君は大分儲けるかも知れないが、儲ける味を覺えて來ると段々と大膽になる。買玉を增して行くと云ふ段取となつて、斯くて買玉が非常に增した時分に大暴落、大恐慌となる。成金一朝にして歩に返ると云ふのは此の時で、予の友人間にも日露戰後に一たび成金となつて今や元の杢阿彌たる人が二三ある。實に戒む可きは無謀なる投機であると思ふ。ある有力なる經濟學者にして『今度の大恐慌は日本より始まり漸次に世界に及ぶ、而して其の恐慌の度は日本が最も甚しい』と主張して居る人の尠くないのは理由ある事で、其の理由は日木が最も景氣が好くなるからと云ふにある。以上の說明に依つて諸君中に惑ひを生じた向きもあるかも知れぬ、何となれば大相場が來ると云ふかと思へば大恐慌が來ると云ふ。全體其の眞僞は何れにあるのかと。

予は此疑問に答へて曰ふ、『大相場も來るが、大恐慌も來る、併し、日露戰後の恐慌に懲りて事業界も爲政者も警戒に警戒を加へて居るから、大相場も急激に來ない代りに、恐慌も急激に來ないであらうかと思ふ。要するに、政府當局者が日銀の利上げとか、貿易の制限とか、各種の政策を徐ろに行つて、事業界に打擊を與へない程度に於て、大相場を抑へて行くのは益々相場を穩健に導いて行くもので、從つて又烈しい恐慌の來ることも或る程度迄防ぎ得るに到る譯である。現內閣大臣中には相場に對する經驗の豐富なる人が尠くない、故に、株式界から徐々に不良の分子を驅除して相場を穩健に導いて行くので、其處に非常なる面白味があるのである。

平和の惡影響と好影響

云ふ迄もなく戰爭は悲慘なる出來事である。故に戰爭の終熄して平和の回復されたる事は極めて喜ぶ可き現象である。然るに、平和時代が來ると經濟上に惡影響が來ると云ふのは妙な話であるが、之は有り得べき現象である。何となれば戰爭が今度のやうに永く續いた場合には、世界各國の經濟組織が戰爭に適合するやうに變更されて來て居るのに、平和が來ると再び之を破壞して平和時代の施設たらしむるからである。要するに平和時代の施設をすると云ふ事が既に破壞を意味するからである。更に分り易く云ふならば戰爭中には戰爭に必要なる品物が澤山に賣れた。故に軍需品若くば準軍需品を製造する工場が擴張され、新設されたのであつたが戰爭が濟めば是等の工場は必要が無くなるから閉

ちて仕舞ふ。すると是等の工場に働いて居た職工達は職業が無くなる、日本などでは斯うした現象も餘り著るしくは無いが、歐洲諸國では大變なものである。加ふるに戰地からは多數の勞働者が歸つて來る、通貨は回收される、物價は下落する、商人の投げ賣りが始まる、一般の商況は沈衰する、株式は暴落する、と云ふ順序になつて之が日本にどんな影響を及ぼすかと云ふと、斯の如き時代には當然輸出の大減少を來して、再び入超に苦しむ時代が來る。

以上は卽ち悲觀論者の主張する平和後の惡影響とは如何なる種類のものであるかを述べたのであるが、平和が回復された曉には、同時に復非常なる好影響の當然來る可きであつて、今は實に其の好影響の來りつゝある時であると思ふ。卽ち(一)各種の產業は戰爭の結果、從業者を失ひ勞力の大不足を感じつゝあつたのであるが、今や平和の時代は來り各種の產業は其の不足せる勞力の供給を受くるに到つて俄かに勃興しつゝある。(二)次には戰爭に使用されつゝあつた船舶は全部商品の輸送に從事する事となり敵國に捕だされて居た軍艦も釋放されて其或物は商船となつたが故に海上の運送が圓滑となり經濟界は之が爲めに非常なる活況を齎し來らんとしつゝある。(三)更に敵國との取引が解禁されて此の方面に向つての物資の移動が盛んになりつゝある。(四)歐米諸國に於ては漸次論功行賞が行はれつゝありて戰場より歸つた軍人達の資金の散布となり延いて購買力の激增を見つゝある。(五)各國の戰後財界の振興に致さんとする努力は非常なるもので以上の如き諸種の原因よりして經濟界は顯著なる活況を呈し、之が何れも株式界に好影響を齎し來るのは當然の事である。而して目下の現狀より觀測する時は悲觀論者の憂へとしたる、平和と共に各種の軍需品工場が閉鎖して、經濟界に惡影響を齎し來るであらうと云ふ懸念を必要とする時代は、既に〳〵巧みに之を切り拔け得たらしく、寧ろ其れと反對に戰後の好影響のみが著るしくなりつゝあるが如き現狀で、吾等は玆にも株界の前途を樂觀する材料を明らかに發見する事が出來やうかと思ふ。

國民生活の向上と株式

戰後に國民生活の著るしく向上するのは當然の現象である。之は戰時中下層民の生活が勞銀の騰貴に依つて高められた結果であつて、彼等は此の戰時中に高めた生活を戰後にも維持して行かうと努力

する。之を最近の現象に依つて説明すると彼の川崎造船所に於ける職工の増給運動が最も能く之を證據立てゝ居る。彼等が増給を迫つたのは決して生活が困難であるからではない。職工等に對して理解あり同情を有する點に於ては、我が日本の實業家中恐らく第一人者たる可しと稱せらるゝ社長松方幸次郎氏は職工が怠業をなせる際、其の代表者等と會見して次の如くに述べて居る。

『お前達の要求は決して生活難の爲めでは無いと信ずる。何となれば眞に生活難の爲めであるならば何故お前達の要求する増給案が上級者に厚くして下級者に薄いのであるか云々』

以上、松方氏の説破したる所は能く彼等職工の急所を突いたもので、つて彼等は決して生活難の爲めに増俸を要求したのではない。即ち彼等は戰爭中過分なる増給を受け、且つ種々なる名目の下に増賞金を貰つて居たので、彼等の生活は之が爲めに著るしく贅澤に流れて來た。而して彼等は物價の騰貴したる今日も、人情の自然として此の高き生活を維持せんと欲する結果此の要求となつたので、此の種の要求は今後續々として各方面に起り來り、事業家は止むなく之れに應ずるが故に、彼等下級者の生活は依然として高位を保つ可く、從つて彼等の購買力は依然として旺盛であり、延いては之れ亦財界の好景氣を維持する材料たる可きかと觀測さるゝのである。更に飜つて上流階級は如何と云ふに彼等は勢ひ過大なる増税を賦課さるゝに到る可く、最近思想界の潮流の漸く上階階級の專横を許さゞる傾向著るしきが故に、國費負擔の程度も何にかに附けて上流に重きに到る可きは明白であつて、彼等は一面に其の收益を恣まゝにする事不可能となり、一面復國費の負擔を大ならしめらるゝが故に、非常なる苦痛を感ずるかに見えるが、更に他面より見る時は其の所有する資產の收益の大増加あり、又金利の昂騰の多少増税の負擔を緩和する點もあつて、其の苦痛は左程ではあるまいかと思はるゝ。

ヨシ收入の増加が無くとも、彼等上流階級の人達が俄かに其の生活を引締め其の購買力を鈍ぶかしめて之が財界に惡影響を及ぼすのであらうなど云ふ懸念は、之を想像するだに不可能とする所である。之を要するに、國民の生活方面より觀たる物資の移動は當分の間益々旺盛を極むるのみで、此の方面に財界の前途を悲觀する材料は聊かも無いのである。殊に注意す可きは、今日の如く株式の趣味が津々浦々に普及して、株式を口にせざれば人に非ざるが如き時代にあつては、收入の増加を見たる各會社の從業者職工等も亦、其の生活の剩餘を以て株式の買買を試みんとする傾向の著るしき事である。

成金の活動と大相場

今度の戰爭で我が邦に新富豪を增した事は著るしい現象である、時事新報は五年に一回か、五十萬圓以上の資產家表を揭載して居るが、恐らくは次回には之を揭載するに紙面の狹隘を感ずるなる可く其の調査さへも不可能なのではあるまいかと想像される程爾く澤山の成金が出來て居る。

是等の成金は戰爭で唯金を儲けたやうに云ふ人もあるが吾等は左樣には思はない。世人は一概に成金と云つて大變簡單に取扱つて居るが、其實成金たるには相當の努力を要したに相違ない。さあれ成金たる程の人は大體に於て大膽な人である。彼等の眼中には財界の反動もへチマも有つたものではない、飽迄もやつつけろと云ふのが彼等の唯一の信條である。彼等は其の贏ち得たる豐富なる資力を以て、更に新しい方面に投資の途を開きつゝある。到る處に鑛山及び炭礦の買收が行はれつゝある。九州地方の炭礦にして廢坑に等しき程のものが悉く成金の手に歸して新しい活動を開始して居る。其內には隨分如何はしいものもあつて失敗に歸するものも尠くないが、案外な好成績を示すものも亦尠

くない、其一例を擧げて見ると、彼の有名なる福岡鑛業株式會社（資本金壹千萬圓）の石炭礦區の如きが其れである、福岡鑛業は御承知の船成金山小唯三郎氏の經營である、而して其の礦區は起業の半ばに大なる斷層に逢着して專門の技師連も全く見込のないものとして、匙を投げたのであつたが强情我慢の山本氏は『吾輩のやる事で惡いものは一つも無い筈じや、やれ〳〵、岩だらうが石だらうが頓着する事は無い、何處迄でも堀つて行け』と亂暴極まる命令を下し、之を强行せしめた爲めに、其斷層の先きに案外にも優良なる炭層を發見して今日の成功を收めたのである、以上は單に其一例に過ぎないが、斯の如く、成金連の勇氣ある事業經營法の爲めに今日迄絕望と見做されて居た事業にして案外にも活況を呈して來るものが尠くないのである、一時は其の救濟策なしと迄見縱られたる東北地方にさへも各種の事業が起りつゝある、殊に同地方に於ける鑛山熱の如きは誠に甚しきもので、尠しく見込の有りさうな地方には、續々と事業家が入り込んで新たなる事業を起しつゝある、更に北海道に到つては此の傾向は一層甚しいので、斯の如くにして到る處に新たなる事業は起り、新事業の起る所、必らずや物資の移動を誘起するのは當然で、斯くして所謂世の好景氣なるものが繼續して行

くのである、今日の新しい起業を見ると、勿論不眞面目な所謂泡沫會社も尠くない、併し、日露戰爭後の恐慌に懲りて一般の事業界には案外眞面目なる着實の氣分が横溢して居るから、其の反動も日露戰後の如き事は有るまいと思はれる、唯茲に一ッ問題とす可きは斯の如く、新事業が勃興して株式の種類が多くなつて、株式過多に陷る結果、大相場來を妨げる事なきや否やの一事である、卽ち日露戰爭後には今日のやうに澤山の會社がなかつた、建株の種類は極めて少數であつた、然るに株を買ふ人卽ち其の投資力は極めて旺盛であつたが故に、賣方は買方に株を渡すことが不可能となり、茲に市場は株不足となつて、結局大相場が來たのである、然るに今日の如く株種が多く、其數量も過多なるに於ては大相場は來るまいと觀測する人がある、之れも亦一理であるが此點に就ては更に稿を改めて立論する考へである。

戰後の軍備問題と大相場

戰爭終了後第一番に起つた問題は各國が戰後の軍備問題を如何に處理して行くかと言ふ事である、國際聯盟の主要なる目的も茲にある、有史以來最も悲慘を極めたる歐洲戰爭は濟んだ、世界の邦々は平和が來つたと言つて國旗を揭げて之を祝した、國民は幾年來の重くるしい空氣の壓迫から逃れる事が出來たと言つて祝杯を擧げたのである、併し乍ら各國の軍備は決して撤廢さるゝ事はない、今日に於ても軍備は實に平和を維持する唯一の條件である、戰爭の爲めに築かれた兵營は平和が來つても撤廢さるゝ事なしに却つて其破壞されたる所を修繕し、足らざる所を補ひ、以て平和の保障たらしめんとして居る、故に鐵類の需要は今日と雖も尙益々熾んである、其れに準じて諸種の物資を必要とするから物價は安くならないのみか、却つて非常なる勢ひで昂騰して行く、世界を理想化せんと欲する國際聯盟の手前もあるから、新しく軍艦を建造し、兵營を築造して他國の猜疑を招くが如き愚を演ずることは各國共に控へて居るが、併し、平和的の文明を促進するてふ美しい名前に籍口して鐵道が敷設される、自動車の數が增加する、飛行機が製造される、而して其等の數量は極めて夥しいものであらうと思ふ、又一面には一朝事あるの時直ちに巡洋艦たる可き商船の建造が盛んに行はれる、予は吾が郵船會社が政府と或る種の默契の許に、新しく造船を目論見つゝあるとは言たない、併し、郵船會社

が平和後に新たに大船舶の建造を企てたのは面白い事であると思ふ、而して斯の如き傾向は一郵船會社に限られたるに非ずして實に世界の國々を通じて企てらるゝ大事實たるを見逃すことが出來ない、是等の事實が我が財界に如何なる影響を及ぼすかと言ふと、新造船の爲めに幾多の材料を必要とするが故に、前段屢々述べ來つたと同一の原因結果の理法に依つて、當然物價騰貴と云ふ現象を招來し、更に、新船の增加は世界海運業の旺盛となつて、貿易の隆盛を來し、延いて好景氣の持續となるに相違ない、此外、陸海軍を通じて各國共に戰後軍器の改良に意を用ゐつゝある事は非常なものである、軍器の改良と云へば、古い軍器を棄てゝ新しいものを採用する事である、現に我が邦の如きは陸海軍當事者が全力を傾注して此點に沒頭研究して居るので、此の方面に於ける物資の需要も亦、極めて莫大なる數量である可く想像される、斯の如く各方面を通じて甚しき物資の需要あるに、如何にして今日の景氣が忽ちにして凋落するであらうか、吾等は到底悲觀論者に與する能はざるものである。

戰後の世界各國と我經濟界

財後の世界が如何に成り行くかは大相場を研究するものゝ是非〻極めねばならぬ問題である、今度の戰爭は全世界を通じて、各方面に各種の變革を齎らしたが、其內最も顯著なる事實は、世界が其の障壁を取り除いて、各國の距離が極めて接近したと云ふ事である、米國の經濟界の出來事が直ちに日本の株式市場に影響すると云ふやうな事は、古い頭を以てしては到底想像も出來ない事である、而も其の影響の銳敏なるは恰も東京と大阪の經濟市場の夫れと殆んど同一であると云つても餘り失當でない程である、故に戰後大相場の眞相を極めんと欲する人達は、先づ眼を海外の經濟市場に注がねばならぬと思ふ、就中、我が邦と最も緊密の關係に在るものは彼の米國である、世界列國中、今度の戰爭に於いて最もうまい仕事をしたものは米國である、が昨年予の滯米中、米國の新聞雜誌は筆を揃へて日本は戰爭の爲めに輕い負擔をなし乍ら、過分の利益を穫得したるが如き記事を掲げ『曾つては櫻の名を以て名高かつた日本は今や成金を以て著名となつた』など、如何にも大袈裟に言ひ觸したものだが、何ぞ知らん、日本の儲けた所は米國の夫れに比較する時は、其の僅少なること殆んど云ふに足らぬ程である、今度の戰爭に於て米國は實に世界第一の產業國となつたのである。戰後歐洲各國の移民

は南北亞米利加を指して殺倒しつゝある、最近米國より歸りたる駐日日本聖公會僧正マキム師は、横濱へ上陸すると直ちに往訪の新聞記者に語つて『近頃の亞米利加は以前よりかも大分野卑になつた、之は歐洲より各種の劣等國民が盛んに移住し來るからである』と云つて居る、以て如何に多數の歐洲移民が米國に入り込みつゝあるかを想像することが出來やう、斯の如く、移民を吸收し得る米國、而して之を消化し得る米國の產業の如何に偉大なるかは吾人の想像に餘りあるものがあると信ずる、斯く盛んなる米國の產業界は多數の移民を吸收し、其の移民は更に米國の產業界を勃興せしめて、米國の富源はいやが上にも開發されつゝある、斯の如くにして得たる米國の偉大なる富力は、遂に國內の投資を以て滿足する能はずして、其の餘力は支那及び露國に活動の天地を見出さんと努力するに相違ない、而して支那と露國とには米國人の手に依つて、日本人の眼を廻すやうな大仕掛けの鐵道建設事業が企てらるゝに相違ない、米國人が加奈太を通過し、アラスカを突破して西比利亞に鐵道を敷設せんと欲するが如きは、日本人より觀る時は誠に架空の妄想たるに過ぎない、併し、米國人は此の架空の妄想を現實の問題として實現せしむる能力を有して居るから驚く、日本人も今日は昔時の日本人で

は無い、支那に、西比利亞に、南洋に、濠洲に、盛んに世界的の活躍を演じて居るが未だ米國人には及ばない、此の驚く可き能力を有して居る米國人が支那及び西比利亞に大々的の企業を爲すに於ては東洋の天地は茲に全く新たなる舞臺を發見して、日本の經濟界の如きも恐らくは驚く可きの大發展を見るのでは有るまいかと想像される、日本の地位はどうしても歐洲に於ける英國であらねばなるまいと信ずる、予は確信して疑はない、我が財界の前途を悲觀するの聲は實に日本を亡ぼす亡國の聲である事を……

次に露國の將來は如何、露國の現狀は今尙混沌たるものである、何人も其の前途を豫測する事は出來ない、併し、窮すれば通ずるは天の理法である、吾等は露國が何時迄も今日の如き混亂狀態に置かる可しとは想像する事が出來ない、最近の外電も英國政府か露國の過激派と何等かの商議をしたやうに報じて居るが、列國も此儘見棄てゝ顧みざるが如き事はあるまいと信ずる、恐らくは西部地方は獨逸人の力に依つて開發され、國內は英米佛の力を籍りて復活し、西比利亞方面は我が邦の援助に依つて秩序を回復するであらうと信ずる、斯くて曩に聯合國との契約に違反して破棄した外債を再び承認

した上、更に聯合各國より借金をするより外、露國が恢復する途は無い、而して此の露國の要求に應じ得るものは獨り米國有るのみである、斯く考へ來る時は、今後露國及支邦に於ける米人の活躍は誠に目覺しいものが有るであらうと思ふが、此の米人の活動が更に又、我が邦よりの物資の供給を必要とするので、若し米人の此の活躍にして吾人の予想の如くに實現し來るものとすれば、我が經濟界も亦驚天動地の大活躍を見るであらうと信ずる次第である。

結局大相場來らん——予の結論

予は以上、各種の方面より各種の材料を蒐集し來つて、之れに予一流の觀察を下し、更に之を經濟上の原則に充てはめて、我が財界の前途を批判し、結局我が經濟界の前途は樂觀の外なき以所を述べた、斯く財界の前途を樂觀するに於ては株式の市價は尙甚だ低きに居るので、樂觀論者の期待する大相場は所詮一たびは必らず來る可きものであるてふ結論に到達し得た譯である。

併し大相場の有ると云ふことは其反動も亦大なりと云ふと同樣で、大相場の後には必らず復驚く可き大暴落ある可きを豫期し、株式界に出動せんと欲するものは、此の邊の懸引に迂遠であつてはならぬ。

悲觀論者はモウ大相場などは來ないと云ふ、併し、吾等は左樣には信じない、今の時代を解剖して見ると戰爭後の小反動期を既に經過して、株界は之れから後、活況を呈す可き順序となり、大相場の出現を今や遲しと待ちつゝある狀態に在のであるが、世人の期待しつゝある大相場が思ふやうに來ないのは、要するに政府當局者がヤレ日銀の利上げであるの、ヤレ綿糸布の輸出制限であるの、ヤレ公債の發行であるのと、盛んに株界の爆發を壓迫抑制するの政策を取りつゝあるからである、併し、經濟界が大活躍を演せんとするは吾人が前段述べ來りしが如く實に世界の大勢である、政府の政策は一時之を抑制することは出來ても、到底抑制し切れるものではない、來る可きものは所詮來るのである、然らば其の時機は如何、予は今、此の如き問題は出版の時期を的確に知り得ざる、而して時期に制限を附せざる本書の如き著書に於て之を斷定するの極めて不適當であるを思はざるを得ない、故に此の種の問題は予の主宰せる雜誌『利殖之友』誌上に於て、時に應じて之を發表する事として茲には

單に大相場の來る可き事のみを斷定して置く、更に具體的に其の理由を略述して見ると次の如くである。

一、戰後には（目下の狀態）第一に日用品の不足が甚しくなる、故に之を補ふ爲めに各種の工場が必要となるので、茲に好景氣の持續を見るに到る。

一、次に各國の政府は鐵道、船舶、道路などの建造改築を企てる、軍器の改良、兵營の修築を急ぐ、故に茲にも物資の移動を促す原因がある。

一、各國共に植民地の經營に努力し之れに資金を投下する、而して植民地の開發と同時に本國より物資の供給が盛んになつて經濟界が景氣附く。

一、其他各方面を通じて人類は極度の力戰奮鬪を餘儀なくせられ各國民の活動が烈しくなるので各種の工業は益々盛んになる、故に當分財界の景氣は衰へる事が無い。

一、一部の悲觀論者は今後日本は生產過多に苦しみはしないかと懸念するが各方面より觀測して其の心配は斷じて無い。

一、之を具體的に立證して見ると、（イ）內地の石炭は益々不足を告ぐる一方で若しも八八艦隊が成立するやうな場合には九州炭は全部之れに用ゐて尙足らざるが如き有樣である、以て石炭の如何に不足しつゝあるかを想像する事が出來やう、（ロ）鐵類の足らぬ事は事新しく云ふ迄もなく、（ハ）洋紙類は今尙大拂底である、（ニ）紡績は從來機械の輸入難で未だ需要の百分の一をも生產して居ない狀況である、（ホ）造船能力も決して過大なりとは信じられない、（ヘ）生糸の需要は戰後大いに增加す可き傾向にある、其他一として生產過剩に苦しむ可しと想像す可き材料は無いので要するに戰後の好景氣時代は尙持續す可きものと觀るの外ない。（完）

利殖之友社調査部編纂

日露戰後の大相塲

出現の順序及波瀾史

日露戰後の大相場

出現の順序及波瀾史

十二月一日

出直り

今新市發會の市況は、さしも千三百五十萬圓の大受渡の無事結了せし後とて人氣憑しからぬ節ありしが、而も本場は尙ほ某商店の處分玉東鐵、鐘紡等に尠からず現はるべきを氣構へられ、立會鼻炭礦東鐵、郵船等の一二圓を始め前半諸株は概して幾分の引緩みを免れざりしが、瓦斯株が滅切氣配立ちて、一躍六圓方の奔騰を演じたる頃より、頓に樣替りの狀況となり、以下總て强硬の步調を生じ、就中富士瓦斯、麥酒は三四圓高を告げ、東株も八圓方の飛躍となり、愈よ立直りを叫ばしめ、後場へ移りては阪地高旁た人氣益す引立ち、郵船デキの一二圓高を序幕に諸株一齊高を示し、殊に麥酒は第一第二、第三共、九三との合同成立を喧傳されて一躍十二三圓の暴騰となり、市人を驚倒せしめたるが獨り東株は增資確定說を逆に買方の利有續出に却つて同新の六圓安を呈したり。

後場の沸騰は大體十一月限の大受渡しも無事結了したると、十二月限の大喰合ひも双方の乘り換へにより漸次減少すべき模樣ある等に加へて、神商店の始末著きたるに安心して强氣一齊に買出たる事

又は大阪高等に因れり

	寄附	高直	安直	引直
東株	四四九、九五	四四〇、〇〇	四四九、九五	△八、〇〇
同株	四〇四、一〇	三九九、五〇	四〇四、一〇	△九、〇〇

十二月三日

暴騰

格別新材料現はれたる譯にもなけれど、發會氣直りの氣先、人氣强硬に本場は炭礦の一圓高を始め以下概して手堅く、殊に京濱は割安唱へと賣方の踏み物に六七圓の暴騰を演じ、其他富士紡、東紡は三五圓乃至五七圓方の暴騰となり、麥酒は又々十二三圓の奔騰を現はす等著しき好況にて、東株も一躍十圓餘の騰貴を見、後場に入りても引續き氣丈に、炭礦は更に新舊三四圓の昂騰を重ね以下諸株も概して手堅き步調を變へず、東株は益す好況にて遂に先物四五十圓臺に引上げ、新株が利有りに小緩たる歲末の大關門を眼前に控へたるにも拘らず、月越しの金融依然緩漫にして四圍の事情亦何等の變化を見ず、傍ら內外貿易は引續き順潮にして去月下旬も又復尠なからぬ輸出超過を示せるが如き、斯る形勢を以て押し行かば一陽來復後の市況は無論高かるべしとの觀念が、漸く市場に勢力を加へ來る

と同時に、氣迷ひ浮き腰の人氣は今や押目となれるものゝ如し、而して當月限の成行に對する市人の懸念漸く薄らぎ來れる抔、又氣丈の一原因たるを失はず、斯る事情により大保合の裡にも漸次底を固めつゝある氣味にて休日越しの形勢は愈々侮り難き足形と見られたり。

	高直	安直	引直
東株	四五一、五〇	四四九、九五	△一、五五
同新	四一三、五〇	四〇四、一〇	△九、四〇

十二月四日

區々

大體强硬の含みながら、朝來は一寸一息の體にて本場は諸株總じて利有の賣物に伸び兼ね、就中、新炭礦の一二圓安、麥酒の三圓餘安、富士紡績の四五圓安等目立ちたるが、一般の上には高下區々にて、獨り東株のみは前日の逆にて、新株は六圓高となり、引尻の氣配を良好ならしめ、後場は此氣先大阪高と相俟ち、利有賣の一順と共に又々好勢に轉じ、就中、富士瓦斯、麥酒等は本場落したる以上に反撥し、東株は益す買人氣を昂めて、親株四五圓新株更に六圓方の躍進を示したり。

依然金融緩漫にして十二月限の始末も左して憂ふるに足らずとの人氣は、今や市場に勢力を生じつ

ゝあると共に、久しく之により抑制せられし人氣とて、忽ち其反動を惹起せしものゝ如し、加之ならず春高の見越しは之に連れて市人間に勢力を作りつゝあるなど、旁々にて昨今の相場は日毎益々底を固め形勢益々好調子に向へるが如し。

十二月五日

好調

春高の見越し、益す市人間に昂まり來りて、期近に賣方の踏出でたると、新規の買物を加へて、市況滅切好況に、本場は炭礦の一二圓高、新瓦斯、製紙、富士瓦斯、精糖、肥料、商品、米穀等の各一二圓乃至三圓餘の昂騰を始め、さしも伸力遲々たる東鐵の當中兩期が一躍三四圓の奔騰を示したる等頗る好調にて、東株も又復一躍十二圓の暴騰に本場を打止め、後場は此氣先立會鼻は依然手堅き成行きなりしも、東鐵が市有見越しの賣物に狙はれて、脆くも二圓方の頓挫を告げたるが氣緩みの動機を爲し、横電、郵船、東洋抔之に連れ幾分の下押しを示し、以下工業株も總じて氣緩く、就中、富士紡、東紡、鐘紡、麥酒等の如き、各一二圓乃至三圓餘の下落を示し、東株亦利喰に制せられて舊株六圓安を示したるが、新株は之と反對に買狙はれて二圓高に打止めたり。

昨今の諸株は日毎上直に引戻しつゝある處、尺進寸退の勢ひとも稱すべけれど、大體は尙ほ大保合といふを適當とすべし、左れど大保合の裡にも侮り難き含みを存し、稍もすれば一活躍を呈し兼問敷潜勢力あるに似たり、要之市人の人氣が今や春高見越しに傾むきつゝあるが爲なるべし。

十二月六日

高下區々

依然時機待の體にて、本場は概して小高下區々に止まり、僅に浦賀船渠が別項の事情の下に買物を集めて一躍四圓の暴騰を示したるが注目せられたるのみ、後場は大阪の高報を入れて、立會鼻諸株は手堅く、就中京濱は一二圓方引返し、東鐵は本場押したる以上を戻し、船渠は更に二圓四五十錢方の昂騰を告げたりしが、瓦斯以下は人氣緩みて概して軟調を呈し、獨り富士瓦斯新株の一圓高を除くの外、他は何れも五七十錢乃至一二圓方の低落となり、殊に鍾紡は二圓方、東株は總會の模樣面白からずとて利有を喚びて、親株一二圓安、子株六七圓方の崩落となりたり。

六日の市況は諸株高下區々の成行を呈したるが其前日來高かりし諸株の押したるは、固より利喰醬みと見做し得べく、引緩みし株類の反對に高かりしは押目買の現はれしに據る。

東株の特に安かりしは、前日來隨分と高位に擡ぎ上げたるの反動として、相場の呼吸上、此位の擡しは當然の理數と稱して妨げなし、然かも氣丈なりし市勢の頓とボゲしは豫て增資派より樂觀して買進み居たりし處、總會に於て彼等が期待せし程の香ばしき事なかりし爲め、厭氣を起して賣退きたるものならんと。

十二月七日

低落

依然として無材料ながら、面白からぬ足取りにて本場は立會鼻の鐵株、郵船、電燈等は小高下に、獨り富士製紙が該社と王子其他との大合同あるべしとて俄に買物を喚び一躍八九圓の暴騰を告げたれど、以下は之と反對に、富士瓦斯第一、第二及び東紡舊新等は各一二圓乃至三四圓の下落を示し、以下精糖は一二圓安となり、他は概して小高下に、東株は現物市場設立の噂さに買方の嫌氣投げを喚びて舊十九、新十四五圓の崩落を演じ、後場も引續いて不勢に炭礦は新舊共に二三圓安を告げ他も五八十錢乃至二三圓の低下を來し、製紙株さへ本場の奔騰に引替へ忽ち四圓安を招くに至り、紡績物も三四圓安く、東株は更に新舊五六圓安を重ねる等慘々の商狀なりき、

七日の株式市場は存外の挫折を來たし、諸株概して一二圓乃至三四圓の崩落を告げ、中にも東株の如きは親株二十三圓、子株十八圓方の暴落を演じたるなど、滅切不勢に陷りたり、斯く崩落を告げたるの原因としては、別段有力なる安材料の湧出せるにもあらざりしが、前日來東株の崩落に痛く人氣を挫き期近物に買方の賣退き續出せると、同時に今更の如く期近の大取組案じより吾れ勝ちに賣退きたると、斯くる機會を待ち構へ居たりし地場黑人筋等の透さず賣叩きを行ひたるに、地體浮腰の場合丈け脆くも斯く崩されし次第なり。

東株が前後兩場を通し舊二十三圓、新十八九圓方の大暴落を現はしたりしは、實に近來稀有の大波瀾なりき、之れが原因としては左なきだに前日來增資問題に對して一部は疑惧の念萌せし折から、今度愈々現物組合總會の決議に據り、現物取引市場新設せらるべしとの風說高きより、買方の壓氣を生じて狼狽的に賣退きたると、豫て客筋に買はれ居たりし地場の玆處ぞと下直賣成に叩き崩しを行ひたるが爲なり。

十二月八日

氣締り

依然新材料なく、本場は諸株總じて伸力添はず、卽ち炭礦、東鐵、京濱、郵船、東洋等の諸株以下瓦斯、電燈、各紡績類、麥酒等總じて五七十錢乃至一二圓の小高下に止まりしが、何分、此邊は强弱双者の警戒强くして遲々たる足取りを示し、東株も落付きたるが、後場は漸く押目狙ひの買物を喚起し、且つ軟派の遲れ走せ利喰に、相場は底入れ跳返しを告げ、概して五七十錢乃至一圓方引戻し、東株に移りては、愈よ頃來叩き過ぎの反動を惹起し、親株六七圓、子株十一圓方の奔騰を演じ一寸氣直りと見られたり。

前日來の崩落も大體に於て新規屈强なる安材料の現はれたる譯けにあらずして、唯々高直の利有當みと東株の端なき挫折とに脆くも挫けたる迄の事なれば、八日の本場中は前日の餘勢を受けて尙氣重かりしも、何となく下澁り落付の色を示し、後場に至りては愈々氣直り模樣となりて、別記の如き引戻りを告げたり。

前日は現物市場新設云々の噂を機會に黑人連の下煽りたる爲め脆き暴落を現はしたるものゝ、這は少しく狼狽に失せるの觀あれば、人氣の落付くや否や、親六七圓、子十一圓方の跳返しを見しは賣過ぎの行動として敢て怪しむを要せず、勿論該株は今後も右現物取引新設問題の如何に據りて又意外の波瀾あるやも知るべからざれど、市場の多くが既に認可でも爲られし如くに騷ぎ廻りしは、些か早計ならずとせず。

十二月九日

日曜　休業

十二月十日

本場　高

今休日越の市況は、別に高材料現はれたるにあらねど、休日前の氣配と、大阪止高を加へて、商狀手堅く、本場は炭礦の一圓高を始め、東鐵の一二圓高、鐘紡の四圓高、富士紡の三四圓高及び東株の十三圓高等を頭に、爾餘の諸株も概して五七十錢乃至一二圓高を示して滅切好況に轉じたるが、後場は再び行惱みとなり、炭礦以下諸株共、概して幾分の下押しを呈し、此間特殊の高材料を有する東鐵の一二圓高を示せると、京濱、商品の各二三圓高を告げたる、及び紡績類の强硬を失はざりしが、特筆に値せるのみ。

歲末大節季を眼前に控へたる昨今、經濟界の大體に左して變りたる事なく、且つ緊縮すべく見られたる金融も比較的緩和しつゝある等旁々にて、市人の多くが暮高を見越し稍々買心地を生じつゝあるが故に昨今の相場目覺しき活躍こそ演せざれ、益々强硬の步調を固め諸株底堅き足取を示しつゝあり

十二月十一日

區々

人氣引立たず、諸株小高下區々ながら大體に於て鈍狀を示したり、卽ち本場は新炭礦の一圓餘高を序幕に、横鐵、浦賀の十錢高及び京濱、商品、製絨等の各小一圓高を告げたる抔、騰貴の重なるものなるが、下落の方にては瓦斯、紡績等の各一二圓方と東株の三四圓安を重なるものとし、後場は大阪前止の不味と本場引際の不味とを移して、前半段の諸株は概して不味の成行を呈したるが、左りとて下直には直待の買物潜める爲め無碍にも落し得ず、麥酒立會頃よりハタと氣締りを加へ、殊に商品に至りては亦格段の强味を以て先物百十九圓臺に引き上げ、東株は二三圓の引戻しを示したり。

十二月十二日

依然小高下

特殊の事情ある株式の外は依然たる保合範圍を出で兼ねたり、卽ち本場は概して三五十錢乃至七八

十錢の小高下區々迄にて、僅に東鐵、富士瓦斯第二、麥酒等が各强氣の買と弱氣の踏みにて一圓餘の昂騰を呈したると、商品が例の事情にて一曜三圓高を示したるなど特筆すべき部類にして、東株は押し過ぎの反動にや四五圓方を引返したり、而して後場は大阪の不勢を移してか、諸株は何れも幾分の下落を示し、就中、京濱が脆くも七八圓の暴落を告げたる、東株が親の九圓安、同新株の四五圓安等は亦格段の不味にして、獨り商品株は浮動株乏しき折柄强氣の買進みと、賣方の踏みにて又々六圓方の奔騰を演じたり。

昨後場の形勢は稍々小崩れ模樣に見られたるも、依然四圍の事情に變りたる事なく、高低何れも只管場面の事情より來るものとて、尙ほ當分は大保合の範圍を脱し難き風情なり。

京濱株は增資確定したるも、海岸線延長の到底許可せらるべき模樣なきより、買方の嫌氣投げ物續出し、爲に本日は本場に懸け脆くも七圓方の暴落を呈せり、而も尙ほ一段の下落を免れ難き含みあり き。

十二月十三日

前安後高

日露戰後の大相場

依然たる無材料に、場面の氣迷愈よ深く、本場は不勢に諸株概して下押し、殊に郵船の如きはヂキに、定期に玄人筋の聯合的賣抑へもありて又格段の不味を加へ、又々小一圓の低落を示したるが、獨り例の商品株は既記の事情の下に、又々六圓方の暴騰を告げしが、後場に移りては依然として引立たず、左りとて無材料にて下直には買物の潜める關係上が無下にも落し得ざる形況の下に、立會臺は概して不味なりしが、後半に移りては案外氣直り、富士製紙、富士紡等は格段に氣締り、鐘紡は二圓高を告げ、商品は更に三圓高を重ぬるに至りて、東株も親四圓、新七圓高と減切好勢裡に散會したり。

本場の形勢より見れば、或は一頓挫も示し兼間敷含みなりしも、後場は後半の諸株に於て忽ち戻り足を示せり、斯の如きは大體大勢を左右すべき材料無きが爲にて、一高一低共に場面の事情に因れるが爲なり、要するに好材料の出でざる限り、或は當分大保合を脱せざるべき含みなり。

十二月十四日

區々

昨今の市場は材料に依りて左右せらるゝことにあらずして、寧ろ日々の場面の事情より來る相場なるが、今本場は前日の不勢に反して氣配減切立直り、諸株總じて幾分の引戻りを告げざるはなく、就中、富士紡、麥酒、下野紡の如きは押目待の買物と、手仕舞とにより、各一二圓乃至三四圓方の騰貴を示し、僅に京濱が右と反して既記の事情により、賣物多く、又々一圓安を告げたるを異とせると、東株が賣買證明法實施後の不況を氣構へられて、新舊共五六圓方の下落を示したにあるが、後場は本場引際の此不況より人氣復又不味に傾き、小口買方の嫌氣投げと利喰の賣物を呼び出して炭礦の一二圓安を始め以下概して引綾み、殊に紡績株、商品株は各一二圓方下押され、東株は更に五圓安を重ねるに至りたり。

取引法改善の一端として見るべき農商務省令第三十三號賣買證明書添付の一事は、却て市人の多くに誤解せられ、此方法實施の結果取引減少すべしと爲して、東株は端なくも十圓安を呈せり、併し仲買人中の所謂呑屋なるものこそ之により大打撃を蒙らんも、取引所は幾多の呑屋が餘儘なく市場に委托者即ち客の注文を附けざるべからざれば取引の上に手數と面倒とが生ずるも取引減少の憂ひは理由なきに似たり。

十二月十五日

強含み

日露戰後の大相場

矢張り無材料の爲め、場味次第の有樣にて人氣定まらず、本場は諸株總じて小戻りを示し、中にも東株は一躍小十圓高を示し、鐘紡、下紡、東紡等の各二三圓高を見たるは、格段の好勢と稱すべく之と反して商品は頃來棒上げの反動として、五圓方の下押しを示し、後場も續いて氣締り、炭礦以下汽船株は好味に、富士紙は合併含みに押目待ちの買物ありて一圓二十錢方上げ、紡績概して一二圓方高く、其他は小高下區々の成行なりしが、東株は利喰に親子共、二圓方下遣ひ、市況は尙ほ放れの時機に向はざる風情なりし。

四圍の事情に左して變りたる新材料無き爲め、株の大勢は依然大保合の範圍を脫する能はず、言ひ換ふれば高きも安きも、殆ど一立會毎に交代にて、同じ軌道の往來に過ぎざるを昨今の市況と爲す。

省令を誤解して、一時東株を悲觀したる人氣漸く去りて、昨後場の落付を見たるが、本日は悲觀の反動のみにはあらず、却て省令は將來に於て株式取引の信用を增し同時に賣買の增加を來す所以なりと認むる者多き結果か、本場一躍小十圓方の刎ね返しを告げたり、而して現物市場設立一派の目的の到底貫徹せらるべくもあらずとの人氣も、亦幾分の高原因を爲せしに相違なけれど、大體省令より來れる騰貴となす方適當なり。

商船は久しく下値に沈睡し居たるも、昨今に至り漸く頭を擡げ來るを見る、而も本日の如きは珍らしく先物三十圓臺に回復したるが、這は曾て大阪筋が頻りに當所に賣物を發し居たるに、昨今該社の發展計畫ありと云ふによりて之により賣過ぎの反動を呼び起したるものなるべし。

十二月十六日

日曜　休業

十二月十七日

好調子

今休日越しの市況は、當限受渡は未曾有の多數を見越さるゝに關はらず、愈よ金融緩和の結果は圓滿に受渡を了し得らるべしとの見解有力となり、何となく買氣の萠せる風情あり、諸株概ね好足取りとなり、本場は鐵道株、汽船株稍や好味に、橫倉は一派の買占策ありて、二圓三十錢方上騰し、其他瓦斯、富士紙、北麻、日麻は小一圓高を示し以下紡績は落付き、麥酒は利喰に一圓方安かりしも商品は增資に大株主間に決定せる爲め、蒐集手段愈よ其手を擴めたる風情あり、東株は强弱双者の持重に何等の動搖なかりしも、底意は全般を通じて手堅く、後場は一段の好味を加へて、諸株一齊の好足取りとなり、鐵道株、汽船株擧つて氣締り、中にも東武は一圓六七十錢上進し、京濱は片野一派の好機

を利用して買瀬切りたるに一圓三十錢を引上げ、横倉は又々別項の事情を含みて一圓三十錢方騰貴し富士紡一圓五十錢、東紡三圓五十錢煽られ、押目買の氣勢漸く強かりしが、東株は尚ほ機の熟さゞる爲め乎、安外靜穩の商狀を續けて散會したり。

大阪各取引所にては施行延期の訴願書を提出するやに傳へられしが、之を移せる次第にもあらざるべけれど、當地の各取引所間に於ても頻繁なる手數を要する爲め設備の完備する迄實施延期を願ふ內意ある由、政府の眞意は當取引の危險を豫防する策にあれど、之が爲め特有の迅速主義を沒却する樣にては現物市場の前途憂ふべき次第なりと或重役は語れり、此等の含みにや、目下は各取引所株共其影響餘りに多からず、暫時見送りの商勢なるが果して如何に成行くものか見据付かざりし。

	高直	安直	引直
東株	四四三、六〇	四四八、五〇	× 四、九〇
同新	四一一、〇〇	四一五、〇〇	× 四、〇〇

十二月十八日

上進

引續き商勢漸く活潑に、大手連は受渡期日切迫の爲め、自己の懷ろ勘定を土臺に大抵見送り勝なりとは云へ、マバラ提灯連の買戻しは頓に多きを加へ、又之に乘ずる黑人連の買進みもありて、場面中々賑ひ、諸株總じて昂進したり、卽ち本場は炭礦親子共當限二三圓高、先限一二高に續いて、鐵道、汽船、電鐵株一圓より五三十錢高く、京濱は會社側の一部より押目を逆に買來りしより二圓方昂進し横倉も同じく二圓方上進し、紡績株は鐘紡を中心に、空賣連の買戻しに一二圓乃至五圓方の上足となり、商品は獨り小二圓方ボケたれど、東株は親新共三五圓高を告げ、後場も一層氣味ぢ良好に、一二特殊の株式を除く外好調を辿りて炭礦は親に小三圓新に四圓と昂騰を重ね、以下富士紙は一圓六十五錢高、紡績株は手詰買に一圓より二圓方引上げ、獨り商品は一部の策略賣に五圓方暴落したれど、東株は更に四五圓高を示して省令延期訴願の談判、委員間に進捗したる意味を現はせるなど、人氣漸く引立ちて見へたり。

十二月十九日

引尻安

受渡期日の切迫と共に、小口の賣り埋め續出して氣味益す良好に、本場は炭礦先づ三圓强の上足を

見せ、續て鐵道、汽船、電鐵株等區々ながら好氣配を捨てず、小樽木材市場に現はれしが當期寄附と引直との差十九圓放れたる百六十九圓先限百九十六圓と引けたるが、初商内とて直頃定まらず以下紡績株は益す昂進の足取りとなり、三圓乃至六圓强の上進となり、其他雜株區々に、寶田石油は中限二百圓寄の二百九十圓てふ大暴騰に先限寄附の三百圓引直二百二十圓てふ大暴落を見せ亂暴を通り越して狂暴の相場と評するの外なく、米穀は六圓高を示し、商品は當中五六圓安の先物同事を示し、又東株は親は三期を通じて十圓高、同新四五圓高を告げて愈よ現物不認可と市場殷賑見越しに裏書したるが、後場は前場の上げ足に反して、早くも利喰の餘地あらば手仕舞はんとする振合を示して、諸株區々ながら概して不味を呈し炭礦先づ一圓方下押し、鐵株は不勢に、之と反對に電鐵は稍や好勢に、東鐵の二圓三十錢高を中心とし、東電は增資含みと東鐵高を承けて三圓九十錢高となりしが、紡績株は大阪高に係はらず三圓乃至一二圓の下押しとなり、以下頓に鈍味を加へて東株は親子共四圓强の引緩みに終り、恰も本場と反對の現象を見せたり。

十二月二十日

小鈍し

利有急ぎに諸株區々の裡にも頭閊への氣味あり、本場は炭礦一圓六十錢安、同新三四十錢高以下、東鐵は底堅く、富士製紙は當に三圓五十錢、先に七十錢安を告げ、紡績株は富士紡當限一圓七十錢安鐘紡四五圓高より、東紡、下紡、富士新一二圓高となり、石油株は前日突飛の反動か三五圓下押し、東株は續て買方の薄利喰ありて親は四五圓安なりしが、新は當中十一二圓安、先同事の引跡手堅き含みに終り、商内は手詰め乘替へに殷賑を極め、後場は漸く氣迷ひを昂めて、炭礦は稍や戻り足に、東鐵は中期一圓七十錢高、先七十錢安、京濱小一圓安、其他雜株區々に、富士紙は二圓强跳ね、鐘紡は當五圓、先一圓七十錢安等高下區々ながら概して鈍狀に、取引所株は格段の事なく散會したるが、先づ以て保合の範圍を出でざりし、

十二月廿一日

前安後高

前日氣迷ひの味を承けて、特殊有利の見越しある二三の株を除く外、本場は諸株概して小緩み、即ち炭礦は一寸戻り氣味の鼻を猛烈りし煽に爲め、更に新舊二圓方引上げしも、以下の諸株式は概ね小甘く、就中京濱は一圓三十錢方挫けたるが、木材は增資決定を看に會社筋の上煽りに六圓餘突飛し富

士紡も增資含みと格安を買はれて二圓强の騰貴を告げ、商品も又々一息と共に買占策に促がされて七圓四十錢の突飛となりしが、他は鐘紡の小二圓安より、東株は直待ち利喰の爲め、親に二圓の引緩み見せ、大體軟弱を呈し、後場は稍や立ち直りて、炭礦の一圓、同新の四圓餘上進を重ねたるを始め概して手堅く、只だ京濱に又も一圓八十錢落したると、石油株が當限受方の嫌ありて十八圓暴落したる、商品が三圓餘挫けたる等を除いては見るべきものなく、畢意竟保合に經過したり。

十二月廿二日

昂　進

マバラ腰弱連の投物一段落と共に、朝來は又々春高見越の買物を喚起して、順境に向ひ、本場は炭礦新舊共愈よ高く、約二圓高を告げ、東鐵當限の一圓七十錢安ありしも、先限は却つて小締り、以下電鐵、汽船區々ながら好味に、日本煉炭は當に六圓高、中に五圓てふ變態を見せたが、會社の繰りたるべく、日麻は增資含みに五圓高を示し、富士紡は旣記の事情と割安を買はれて、當十五圓中十三圓、先七圓六十錢同十圓方の突飛となり、紡績株は何れも一二圓方引締り、寶田石油買方の嫌氣投げに四圓四五十錢方ボケ、商品は二圓を上げ、東株親新共七八圓高なりしが、後場も買人氣愈よ强く、諸株を通じて殆ど突喊的昂進の商態にて、炭礦は親に七圓、新に三圓高張り、鐵株は何れも小强く、京濱は三圓四十錢上煽られ日煉、木材は買方の嫌ひに三五圓方落し、瓦斯は買乘替に當一圓安、先小二圓方高く、同新は拂込みを氣構へてか二圓五十錢方昂進し、以下の數株は左して變らざりしが、東株は引續きての味を含み、且つ市場の隆盛を買はれてか、親に三圓、新に九圓方引上げたり。

朝來强弱供マバラ腰弱連を振落した故にや、春相場を見越し頗る盛況にて、それに轉賣買戻も受渡間際として益々行はれ、市場の般賑此上なく、午後零時半に本場を了り、後場は二時半より六時頃迄も費すといふ有樣、他取引所の寂寞なるに引換へ、商內玉高非常の多數なりしが、金融緩和の狀況、前逐思ひ半には過ぐることあるべし。

十二月廿四日

納會奔騰

歲末納會の市場は、金融の締り居るに拘はらず昂進より一轉して、奔騰の足取りとなり、掉尾の活躍を演じたり、卽ち炭礦は親に七八圓、新に六七圓を昂騰し、會社側の買物と新規買夥しきものあり之に次ぎて東鐵は、三圓强上進して、先限百圓の新直を切り、其他鐵道、汽船、雜株等此の好氣配を

移して何れも氣丈に、瓦斯、電燈株は三四圓方の騰貴を呈し、紡績株は更に奔騰の足取りを示して富士紡五八圓方、東紡六圓、鐘紡四圓の飛躍となり、麥酒は增資の議、愈よ進捗せるを看に各種共、六圓方突飛し、東株は例の氣構へと、此場面の般賑とに愈よ買物を集中せられて、實に親十八圓强新に二十三圓の奔騰を演じて、益す前途の樂觀を謠はしめたり。

△後場休會　市場般盛、玉高非常に嵩みたる爲め帳薄整理其他の都合上、後場立會休止の止むなきに至りたり。

何人も餅搗き相場として兎角强弱共利喰を急ぐ振合相見へ、根が財界其他四圍の事情より推究しても相場の前途あしからん筈はなけれど、歲末迚高持合の範圍を脫する能ざりしが、妙な時に妙な動機を生じ、本日の受渡が圓滿なりとの見込が立つと同時に、双方共春高を見越して居るものだから、弱氣が焦れ出した虛に附込んで何處迄もと强氣が追究的に買乘せ〳〵〳〵來た故、相場は猛然として昂進に續く奔騰の商態となり、掉尾の市場に大激戰を演じつゝある次第なるが現に暴騰せる諸株を見るに買氣材料は目下發生せるものにあらず、又配當率增加も嘗てより知れ渡つて居るのだから、今更ながら格安なりと慌てゝ買進み來た次第にもあらざるべく畢竟するに金融緩和の情勢が何となく春　見越しより買原因を誘ふて來たものなるべく、それに一方に於ては大藏證券借換策等が反對に金融の順潮を示して居るから、右樣の成行となつたものなるべく、併し來春は果して此足に續ひて上げ來るといふことは直が直丈に春高なりとは言へ一寸見分け難く相成りたり。

頃來の市場は歲末に近きつゝあれば、金融の關係上或は挫折もあらんかとは、黑人筋の觀察なれども事實は然らずして連日上向きの一方にありたるは人氣は春高見越の氣配の潛伏せし故にもあるべく然るに昨日の暴騰を呈したるは、金融市場の事情も如何に歲末と雖も悲觀すべきにあらざるより、一般人氣が春高を見越て買崩したるにあるべきが諸株を通じ買腕優勢にして先づ炭礦の奮は入山の二千枚足らずを賣り叩きたるも金三、十、金との買ひ物にて、七圓六十五錢高を告げ、其新の如きも場面總買ひの有樣にて、六圓四十錢高となり、東紡の如きは更に一層の好氣配となりて、約六圓三十錢高當期は二十圓餘の暴騰を告げたるが實に目覺しき商態なりき。

十二月廿五日

受渡高

當十二月限の受渡高は、總株數十八萬九千六百九十株、此代金二千九十二萬四千八百五十圓にして一株平均値段百二十圓八十五錢四厘なるが、實に未曾有の受渡高にて如何に金融緩漫なりとは云へ、此大取組が無事圓滑に消化されしに至つては受方の勢力强きを想見するに足らん。

十二月廿六日

尙昂進

當限受渡前の奔騰は渡方責めの一點にありとすれば、當限受渡の濟みたる今日、賣買双者の共に相疲れ居るべきを以て、一先づ落付を順序とすべき筈なるに、是は又蓋を開けたる今本場の市況は意外にも又一歩を進めて昂騰の足取りを示し、一二利喰に下味を見せたる外は、一般に春高を見越しての買物依然として輻輳し、卽ち炭礦新は利喰の爲め三圓五十錢の下押しありしが、未定の拂込みを買ひ來りし前日の上足に對し、此位の味は當然なるべく、以下東鐵は既記の事情を買はれて四圓高を告げ、京濱は受渡前叩かれし反動として四圓五十錢高となり、其他雜株、鐵道株、汽船、電鐵株等氣配中々侮り難く、瓦斯、富士瓦斯引續き好材料の含める事とて、何等の躊躇なく四五圓突飛し、鐘紡、下紡續て好味に、麥酒、石油株二三圓方引締り、東株は總會後の成行、仲買委員會の結果等何等の支障なく、夫れに現物取引所に就ても、特別取扱方に關する心算成れりとかの見越にて、俄に買氣を誘出し、親に三十圓、新に十七圓と大奔騰し、親は遂に五百圓を拔くこと殆と十五圓と云ふ呼直にて散會したり。

十二月廿七日

區々

前日引際の相場は、意外の激戰にて足取りよりすれば、今納會は掉尾の一振あるべき筈の處、根が春高を見越して上げたる相場故、餘りの棒上げは却つて居心惡しきと見へ、高低區々の場面となり强弱共多少警戒の模樣を現はしたり、尤も中には格段の材料あるものは稍や氣調の商態を見せしものなきにあらざれど、値が値頃丈に左迄の大變動なく却つて炭礦、紡績諸株、東株の如き、前日來暴騰續きの株は概して落付き加減となり、恰も春高氣構へに對する一息入れしものゝ如く平穩に納會の閉場を爲したり、而して諸株共概して一圓內外の高下區々なりしが、特に目立ちたるは京濱の約十圓高を告げたると、橫電の四圓五十錢、木材の五圓五十錢安、瓦斯の三圓五十錢高、富士紡の五六圓安、東紡の三圓五十錢等なりとす。

明治四十年　一月四日

發會大暴騰

日露戰後の大相場

戰後財界の膨脹に伴ひ、我が株式界は、異狀の騰貴を重ね來りたる揚句ながら、舊臘來財界の緩和は資金の益々閑散なると相俟つて、一段の順境を呈せるより、世人は、何れも春高見越しに一致したるが、愈よ蓋を開けたる當發會の場面は、豫想通りの好調に始まり殊に東京瓦斯株が、一躍十圓高を現はすに及んでは、手を振る者自身すら、顧みて建札を眺めて、呆るゝ計りの光景にて、以下の諸株は一齊に大活躍を示し、亂高とも大突飛とも、形容の外にて、屠蘇機嫌の夢中相場とも評す可く、立會鼻諸株の新甫は、中限に比して、概して四五圓鞘なりしに紡績株に至つては、實に十圓の大鞘を附したるを見る、以て其狀景を知る可く、市人は擧つて、末恐ろしき相場なりと評し合へり、尤も新規賣買は甚だ薄く、唯だ、舊臘中、安値を買ひ込みたる連中の利喰玉が目立ちたるのみにてありし。

格別特殊材料の孕めるにあらず、只だ日露戰後經濟界の順調か、昨年來の好況を馴致したる矢先、舊臘來資金の閑散は益す顯著に、且つ四圍に何等惡材料を認められざるより一般春高見越しの人氣が期せずして、いま發會の市場に勃發し、弱氣筋の恐れて、聲息を潛めたるに反し、强氣側一派の突喊的に買煽りたるにあり、左れば市場は、利喰の外賣玉皆無とも云ふべき有樣にてありき。

	三月限 新甫引値	二月限 四日引値	二月限 二十七日引値	比較 △高 ×安
東株	五五八、五〇	五三八、五〇	五二三、九五	△ 二四、五五
同株	五四二、八〇	五〇一、五〇	四八一、五〇	△ 二〇、〇〇

一月五日

臨時休業　發會の賣買殷賑大暴騰の結果本日は卽敷徵收の都合に依り、臨時休業を行ひたるが、卽敷は格別澁滯なく納入せられ、氣配一層の良好を示したり。

一月六日

日曜　休業

一月七日

亂調子

休日前、屠蘇機嫌に擔ぎ上げたる市場も、餘りの突飛に、買心地や惡かりけん、買方利喰急ぎの商狀を告げ、北海炭礦、富士瓦斯紡、東京瓦斯新株、大日本製糖等諸株は三期を通じて、賣物輻輳し一般端株類も概して下押しとなりしが、之に反し、東京鐵道、東京瓦斯中限、鐘紡中限、東株、京阪電氣等諸株は、材料見越しの思惑買ひ入り込みて、奔騰の勢を告げ、就中、鐘紡は去年十月以來の大混戰を極めたり、要するに、區々の商狀に終りたるも、賣買殷賑、商狀も健實の節ありたり。

	七日引値	四日引値	比較 ×印安 △印高
東株	五六九、〇〇	五五八、五〇	△ 一〇、五〇
同株	五六七、〇〇	五五二、八〇	△ 一四、二〇

一月八日

低落

今朝の場面は、頓に落附きの商況を示したるが、買方が喰退かんとする機を看取して、有繋に玄人筋は此處ぞと許り、叩き廻はりしより、諸株殆ど低落の歩調を呈し、一二鐵道株の小高かりしを除いては、他は何れも小安く、氣配頗る揚らざりき。

新年の株式

戰後經濟界の膨脹と順境が產み出したる株式市場の繁榮は、人をして殆ど狂熱せしめ、而も灼熱火中にある市場は、果して那邊に至りて底止するや、殆ど捕捉する處なく、將來は措て問はず、未曾有の賣買取引殷賑に、其準備なき東京株式取引所は、本場一立會にて、時間の餘裕すらなく帳簿の整理も覺束なしと云ふに至つて、殆ど連日後場の立會を休止したる狀況なるが、當時斯界老功の或人は左の如き觀察を下せり、曰く

新年の株式は、富豪の賣繋ぎも、巧者筋の賣壓へも、頓んと刹目之なく、全く室町の世とは相成り申し候、然り、室町の世に候間、全盛時と雖も、決して安泰靜隘ならざる可候、內、財政の方針、兎も角も相立ち、外、面倒なる國際の交涉なく、貿易は順にして、資金の供給潤澤なり、工業會社の事業の成績、亦近年無比の好調なりとあつて、之れが株式の下落すべき道理、毫も之れ無く候得ば、市場の殷盛偶然とは申し難く候得共、靜かに場面を觀視せば、素呂盤を定規として賣買するものは、所謂南風競はず底にして、人氣を土臺に、人氣を商內し、空想を基礎に、空想するものゝ、勝利を制しつゝあるの狀、歷然たるものあり、斯る狀態が、果して恆久的に持續すべきものありや、戰時以降、九億萬圓の巨資を國內に散布したる祟りが、容易に此邊の程度に治まるべき筈もなく候へ共、砂上に建立されたる家屋の崩壞し易きが如く、人氣の上に生み出されたる相場の堅實なるべき譯なく、屢々崩落すべく候へと、去れど、室町時代に兵燹絕へずして、十三代も續きしにも似て戰時散布されたる資金の源流渴涸する迄は、幾度にても 砂上に家は建てらるべく、換言すれば、高値覺へにて買取り來り候はんなれば大體其含みにて掛引然るべきか

室町時代なりとは、素呂盤の桁を脫ずしたる株式なるが故に、砂上の家とは、空想の上に造られた

る相場なるが故に申し候、金融の緩慢なるは事實に候はんなれども、三四朱に低落すべき見越しありや、紡績業を始めとして、一般工業の盛況なるは、現實に候へ共、需用の無限に增加せざる限り新設增資して過度の供給を高めても、尙ほ依然盛況を持續し得べきや、斯かる道理なき事は、何人も知悉し居るにも拘はらず、增資の上に增資を試みるあれば、市場之を歡迎し其將來を空想して三四朱の低利廻りまで買進んで怪まず、曰く、炭礦株は一割五分の配當なり、百六七十圓は如何にも割高なれども、横濱電氣の四朱内外の配當にして、百圓面の相場に比すれば、割安なれば、二百圓然るべし、曰く、新炭礦株の時價の利廻りは四朱以上なり、富士瓦斯紡績株の二割二分の配當あつて、二百一二十圓搦みの割安なるに如かず、曰く、鐘紡株は、子株を孕めり、富士瓦斯舊の價格を合すれば三百七八十圓なり、去れば、鐘紡株の二百六七十圓は、同株に比し、百圓方の下鞘なれば、買ひに安心なりとて、賣買の根底たる金利の標準を外にし、時價を尺度として產み出したる相場に候得ば、決して砂上の家ならずとは申し難く候、砂上の家は崩落し易く、素呂盤の桁を脱れたる相場賣るより外なきが如くに候得共、水流、岩石に激して奔騰し潮勢の流れに遡つて向上す、人氣の勢力も亦斯くの如く、新春の場面は三井平沼諸戸村井諸氏に大賣物を注がれて、却つて逆上し居り候現況に候得ば、目先容易に干潮時代にならざるべく候得共、頃日來の大鞘を、何處まで買ひ續け得らべきもの歟、熟考の價値あるべく候。

一月九日

引返し

前日低落の氣先ながら反撥力侮り難く、朝來は、再び押目待ちの買と、場面師、目先連の利喰買と合したる爲め、忽ち好氣配を呈し、見る〳〵相場は引締りて、殆ど引返しの桁を放れて、昂騰の足取となりたり、卽ち汽船、電鐵、其他の端株に至る迄、何れも手堅く、紡績株は前日の反動に一拳高直迄跳ね返し、取引所株の如き、全く奔騰の商勢凄まじく僅かに石油、木材の數種が不昧なりしのみ。

一月十日

跳上げ

前日に引續き、買氣旺盛、軟派の踏退きと、地方來客筋の飛付買とに依りて、諸株一齊高の步調を呈し、鐵道株を始め、汽船株、炭礦株等何れも高く、郵船、東洋汽船は上走り、横濱電氣は大暴騰を演出し、紡績株、取引所株等、何れも著しき進境を現はし尙ほ一段の昂進を豫期せられたり。

一月十一日

漸進

市況引續き好調、前日の如き、奔騰の足取りにはあらねど、玄人筋の思惑買と相呼應し、客筋の買物優勢に注がれ、諸株共、更に一齊に昂進を重ねたり卽ち公債は、海外高を入れて氣締り、鐵道株は稍や落附きしも、船株は東洋汽船、郵船共に高く、端株も、總じて好況を告げ、取引所株は殊に好勢を現はしたり。

一月十二日

亂調

氣配稍や鈍かりしも、材料を含める株は依然好況を捨てず、全體の上より見れば暴騰の足取りとなりしもの尠からず、市場は亂調を以て散會したり、卽ち場面は鐵道株、汽船株區々に、電鐵株全く區々に、電燈、瓦斯は下押し、休日越しの內氣配は高きもの稍や警戒の氣味に、安きは直往待ち控へ居ることゝて、强弱區々の場面ならんと觀察せられたり。

一月十三日

日曜　休業

一月十四日

下落

休日前亂調の氣先、人氣は頓に高値警戒となり、諸株に對して一齊に利喰賣物の續出となりたるより、何れも不況を呈し、就中鐵道株、電鐵株、汽船株は引續き暴落を重ね、其他の端株も皆安く紡績株も總べて下押し、取引所株も東新の手堅かりし外、何れも不況に終り僅に二三特殊株の株式が手堅かりしのみ。

	十四日引直	七日引直	比較 ×印安 △印高
東株	六六〇、〇〇	五六九、〇〇	△九一、〇〇
同新	六四一、五〇	五六七、〇〇	△七四、五〇

一月十五日

反撥大

前日直頃警戒より引落したる相場も、賣物の一巡と共に今朝は再び押目待ちに買進まるゝに至り、大相場の波瀾を發揮し、斯くては再び出直るべしと唱へられたり、即ち劈頭の鐵道株は、關西株の利喰押しの外總べて高く、横濱電氣は更に十二圓の奔騰を演じ、郵船、浦賀船渠は五八圓の突飛となり横濱倉庫は突如二十七圓の大暴騰を現はすなど、又々狂熱的に買煽られ、其他一として高からざる株とてなく、東株は三十九圓、新五十三圓高と實に凄まじき爆發を演じたり。

一月十六日

臨時休業

前日の波瀾にて、計算整理の都合に依り臨時休業、

一月十七日

續て高し

前日の高値を見て、今朝は强氣の利喰玉夥多なりしも、而も新規買甚だ優勢にて、一般に上足を示し汽船株、炭礦株、電鐵株等何れも伸力强く、就中、横電は三十三圓方の大突飛を演じ、紡績株にありては、東京紡績の二十五圓十錢高あり、全く狂熱とも云ふべく、一として安き株なく、取引所株には、東株舊四十二圓、新四十六圓の奔騰を重ねて、實に七百圓を拔く事四十圓に及びたり。

一月十八日

落附

狂騰を重ね來りたる市場も、新規買の一段落と共に、頓に利喰急ぎと化し、一二特殊株を除く外、

概して不味の成行を示せり、即ち鐵道株は。稍や氣丈なりしも、京濱に至つて小鈍く、郵船以下の諸株は入山採炭の暴騰以外概して直下の形勢と轉じ僅に東株が掉尾の活躍を演じ親に三十九圓、新に三十四圓と突飛を現はしたるにあり。

△入山採炭暴騰　同株が三十九圓方の大暴騰は例の再增資說と、之を目途とせる、川崎銀行一派の買占的買玉入込みたるにありしが何等かの魂膽を含めるならんと噂されたり。

△紡績株利喰押し　鐘紡の如き、大阪市場が三百二十五圓てふ、珍直なりしに拘はらず、遂に三百圓臺に吹き出でざりしは、全く買方の警戒的賣物に抑へられたる次第にて、其他諸株の不味なりしは、何れも此種警戒に制せられたるなり。

△東株更に躍進他株の不味に似ず、親に三十九圓、新に三十四圓の又も突飛を重ねて、舊株は當に八百圓の壘を摩するに至りしが、强氣側は、尙ほ現狀より打算して將來の樂觀を懷き、資本增額より生ずる子株權利一日五八萬圓の利益なれば優に十二三割の配當を爲し得べきを以て千圓亦格安なりとさへ唱へつゝありき。

一月十九日

休會

帳簿整理の都合にて立會休止せり、內氣配は良好にして、買氣毫も挫折せざるが、畢竟、各銀行共資金の回收頻繁にして、金融益す緩和の情勢あり、且は借替へ外債の有望說等を氣構へたるものなるべし。

一月二十日

日曜　休業

一月廿一日

買疲れ

新年發會以來天井知らずに好況を重ね來りし市場も、漸く直頃警戒となりし折柄、二日間の休日は買方の狂奔を鎭むる解熱劑なりけん、一般に警戒心を昂めて、一二材料含みの株式を外にしては、何れも低落の步調となり、機を見るに敏なる玄人筋の賣物と、滿腹を越せる買方の投げ出しと相俟ち氣配は殆ど惡化の狀況となり、場面は立會鼻東鐵、成田、商船新の小堅きを除きては、總て不勢に、東株の如きは頃來の猛勢に引換へ、急轉直下七十五六圓安を演出し、尙一段の下押しを期待さるるに至りたり。

奔騰又狂騰、漠然猛然買ひさへすれば、思ふが儘、利の乘りたる相場も、遂に極まる處なかるべからず、市人は買ひながらも、一度直頃に想到せば內心警戒の念なきを得ざりしが、而かも從來己れを疑ひながら買はざるを得ざりし相場とて、此種買物が連日嵩みたる折柄、相場は漸く行悶へ氣味を示し、且つ仲買人に對する警戒と、堅實なる仲買が、新規買玉を拒絕せる方針とは、二日間の休日と相俟ち痛く灼然せる買氣に警醒を與ふる處ありたりけん、飛附買は殆ど影を潛め、却つて買方の利喰やら、高直を摑みたる慌て投げやら、新規賣物の添加となりて、買氣は全く地を拂ひ、更に、今一段の下押は到底免れずとの人氣を生せり、斯くて人氣の轉換著しきものありき。

氣配險惡と共に、東株に至りては、急轉直下、舊株七十五圓餘、新株四十五圓の大崩落を現はし、買方をして寒心せしめたるが、發會より約三百圓も棒上げしたる相場とて、强氣より見れば、意外ならんも、一度人氣が衝動せる以上、市場のバロメートルたる、此株としては此位の暴落も亦免れ難き當然の現象なるべし。

東株	二十一日 引直	七三五、〇〇	十四日 引直	六六〇、〇〇
同新		六九九、九五		六四一、五〇

△印高 ×印安 △七五、〇〇 △五八、四五

一月廿二日

再暴落

過般買過ぎの反動は、更に激甚を極め、軟派の追擊益々急に、小口買方亦一散に投げ退きたる爲め場面は又々總崩れとなり、就中炭礦の二十圓安、郵船、鐘紡の各十六圓安、東株の六十圓安等は際立たる崩落にて、市場は春光全く地を拂ひて、轉た凄慘たる有樣なりし。

大阪仲買連の恐慌と、突飛の猛進に對する反動安とは、賣方の嫌氣投を餘義なくしたる機に乘じ、大手持株連の大賣繫簇出したる爲め、相場は案外の處迄下走り、遂に低落に續く暴落の足取りとなりしは、氣配の轉換と評する外なく、格別新規目新らしき材良が生じたる次第にもあらず。

一月廿三日

小戻し

前日の大暴落に追證金徵收の爲め、立會時間遲延して、午前十一時開市したるが、軟風益す市場を

風靡したるも、偖て實際上には軟派も追擊の手を控へ、却つて一先づ利喰を得策とせる買物續出したるを以て、場面却つて小康を呈して、諸株小戻り、目先戻り足と認められたり。

一月廿四日

氣締り

一寸灰計拔けの體にて、暴落に對する前日の小戻しは、未だ伸び足らずとさへ一部には唱へられし程にして、諸株を通じて氣締りの狀況を示したるが、後場東株は却つて下押し、引際不味の商狀にてありき。

金融の狀態は、歲晩と差したる變化もなく、他に新規材料出現したりとにあらざれど、一度灼熱せる買氣を警醒せられたる市場は、漸く警戒心を強めて、相場が暴落せる丈けに却つて買手控への狀況を示し、左りとて賣方も前年來の經過を見ては容易に手を下し得ず爰許落附きと共に、强弱睨合の姿とはなりたり。

一月廿五日

大暴落

前半段は區々ながら落付模樣を示し、炭礦、東鐵、郵船等はボケ氣配を現はしたれど、關西、横鐵横電、帝商等は一二圓乃至五七圓方上足を呈し、他の諸株は概ね小高下迄に、場面落附氣味にありたる處、正午休憩後立會に入るや、氣配全く一變して、諸株殆ど大暴落の足取りを示し、紡績株及び取引所株其他端株に至る迄、急轉直下殆ど止る所を知らざる商態にて、斯く桁外れの始末故、氣崩れと稱する外、取り立てゝ云ふべき材料とてあらざりしも、大阪安と東株不氣配を見越し投物續出したる鼻を弱氣腰入れて叩きたる結果、氣崩れを演じたるなり。

一月廿六日

續て低落

前日大暴落の後を承けて、格別新材料もあらざれど、不味の大勢挽回し難き風情となり、賣方は益す優勢に賣叩きたるより、諸株共又々概ね低落を重ね、中にも關西、炭礦、日麻、漁業、米穀等諸株は四六圓方の低落となりしが、此間紡績株のみは手堅く富士紡、鐘紡は二四圓方の昂進を示し、下紡

は八圓方の昂進を現はしたり、而して賣方も直頃丈けに此上一抔の押は如何あらんとてか、立會の進行に伴ひ聊か警戒の節も認められたり。

一月廿七日

日曜　休業

一月廿八日

底　聢　り

今休日越し、當限落の市場は、大波瀾の濟みたる後とて、强弱共氣乘り失せて、一昂一低閑散の商態なりしが、併し投物と利喰の一巡せる今日とて自然灰汁拔け氣味に頭を擡げて、低意手堅く引締り模樣を告げたり、而して諸株中騰落の重なるものを摘記せば、小樽木材が前日三十圓暴落したるに對して十五圓を引返したるを最とし、鐘紡は前日の押目が格安なりと見て、又々鈴木一派が買逸りて四圓餘高を告げたると、京濱、麥酒第三、米穀等が何れも反動的に四五圓内外引返したる外は概して一二圓内外の小動きに止まりたり。

呼直は順序上强張りたりしも、市場は近來稀なる落付商況にて、諸株共新甫待ちの形勢相見へ、從而立會時間も僅に二時間餘りの短時間に、一瀉千里札を飜へし了つた等は珍らしき不振の商内といふを得べし。

東株	二十八日 引	二十一日 引	×印高 △印安	
	五九〇、〇〇	七三五、〇〇	× 一四五、〇〇	
同新	五七一、〇〇	六九九、九五	× 一二八、九五	

一月廿九日

受　渡　高

當一月限受渡高は株數十三萬四百株、代金千七百八十九萬五千七百六十圓にして、此一株平均値段百三十七圓二十三錢七厘なり。

現今の如く暴落後の株式に對しては銀行は前途の雲行を慮り、且つ歳晩に際せること丶て幾分貸出手控の模樣もあり、旁々警戒を加へつ丶あるは金融界自然の情勢にして、從而買方は受株より來る遺り繰り算當窮乏の形跡あれどもコハ相場の一斑を知れる側面觀にて、買方の差金以上の金額は買株を受取るべき上に於て困難を感ずる見越しあるものは、已に轉賣投げ出しの手段を採りたることが暴落

の一要素となり居るを以て、此受渡間際に來て狼狽すべき筈なく、此處で安直にも係はらず引受けんとする者は、來月高直まで充分持耐への出來得らるべき心算ある者のみなるを以て、些の困難あるべき筈なく、又一方渡方は現下順境に立ち居る際とて、現物が當限より多く不況にある場合に假令空賣運としても落附けるものは其差金丈にても利するを得べく、況や正株持の者に於てをやにて兎に角渡方萬歳の時なる故此方面に困難のあるべき理由なく、結局受持は、外觀よりも一層無事に結了し得らるゝこと勿論なりと稱せざるを得ず。

一月三十日

孝明天皇祭　休業

一月卅一日

又も崩落

一度大暴落を演じて以來、人氣は動やもすれば悲觀に傾かんとせるに際し、政府の投機熱を壓迫する手段頗る巧妙に過ぎし爲め、銀行家の警戒中々嚴重なりとの事を看とし、地場連が此處前日來の手傷を癒さんとて、相場が相當下値なるに拘はらず、更に盛に打叩きし爲め、公債を除くの外は又も氣崩れ足漸まじきものあり、一として高きものなく、東株新の如きは實に七十六圓方の大暴落を演じて四百圓臺へ低下する等、腐れ人氣市場を風靡し買氣絶無に陷りたり。

特記すべき材料とてなけれど、受渡の市場何となく面白からざる際に取引所法案の改正通過說等を振廻はすと同時に、一方日本銀行が大藏大臣の內諭を受けて株券に對する擔保貸出を警戒すると同時に、各有力なる銀行も此轍を覆み、東株百圓郵船六七十圓と下直を附け初めた等が事實に於ける買方の恐慌となり、押目は買氣滿々たるも控へ見送りの虛に乘じ、賣方一齊に利有の繫ぎ物を以つて被せし爲め、昨日の暴落を再演せしものにて玆に至て去る二十八日の引返へしは愈々戻り足の相場と定まりたり。

大勢斯の如く非なる以上は相場は未た立直るべき時機に至らず、從而場面は尙一層の不況に陷るべく、又一方には證券賣買信托會社等市場の氣配を挫くべき材料頻々と現はるゝを以て、極端なる悲觀論者は前月來の盛況に引換へ或は門前雀羅を張るの寂寥たる形況を現はしはせぬかと說くものあれども、纔而來月の金融界を考ふるに舊節季を過ぐれば又々緩和となるは旣定の事實に相違なく、且取引法改正の運命も未だ以て確たる豫算あるにあらず、それに各種事業界が固定資本を吸收するには少なくとも三四ヶ月の間ありとすれば人氣立直ると同時に各銀行も自家の營業上警戒を解く已を得ざるに出づるを以て、是に至つて諸株は又々好況を呈し來り將來は必ず過去の隆盛を繰返へすの時代ありと

說く者もありたり。

二月一日

更に暴落

今や頽勢如何とも挽回に由なく、暴落又暴落殆ど拾收する能はざるの悲境に陷れる如く、今發會の市場も些の買氣さへなく、相場は恰も急坂に玉を轉ずる如き形勢にて、滔々として暴落を重ね、買方は袖手傍觀唯だ啞然たる許りなりし、而して周圍の事情はと云へば、金融の緊縮は極度に達したり。

二月二日

引戻す

前日東株新の押尻に何となく手堅き節見へ、且又例の買大手連が好押目と睨んでか、弗々買つて入りたる噂さありしが、本日は郵船立會を境とし朝來例に依り兎角不味なりしに關はらず、同株立會は至つて猛然買占派と利喰買玉盛に入りし爲め、氣配全く立直り、引戻しの勢力中々盛にして、利有に

新規に怖々ながら新規客筋の買玉も尠からず、或は前日の暴落が一時の底となりて、此邊より引戻しはせぬかとの感じもあり、諸株概して小戻りを呈し、就中、紡績、實田、東株等は三五圓乃至十圓方引返したるが、而も新東株は再び叩かれて八圓安と矢張り引尻の味は不面白からぬものありたり。

相場は詭道なりとの言葉あるが、今朝の場面は此律に格守せる振合ありて、機を見るに敏なる買屋の大手連が此處なりと見てか、郵船に紡績株に人知れず押目を狙ひて買出でたると、地場黑人筋より盛に利喰買を急ぎたるにて意外の引返し相場を見せたるなり。

場面の大勢は、郵船を境として、朝來炭礦より東京鐵道迄は總て氣配擧がらず、前日の不味を受けて、又々大暴落もあらんかの模樣なりしが、東鐵に至り期近に桑金丸山本等が千枚以上の大買物を出し、此買手が例の買當り屋の手筋と見たる市場の人氣が稍や立直りの種子を胚胎し、郵船に至つて左迄の買手なきにも關せず忽ち買煽つて先期三圓高と擡ぎ上たる爲め、之より氣配全く立直り戻りか直りかは後の問題なれども、瓦斯電燈紡績株等利喰買と新規買とが一致し凡て好況を示したり、尤も引際東株新が例の取引所問題の爲め氣迷の模樣を現はし八圓方下押しせしため、郵船直等も傍杖を喰ひ引跡頗る不味の形勢にはありたり。

或株通は評して曰く、未だ地方廻りの買連が引續き好押目と見て一方に追數を入れつゝ底直を買廻つて居る所を見ると、此等を振落し了らぬ内は相場は未だ一杯の下押あるべく、從而高値覺への小成

金連が投げ盡した後にあるざれば、眞の氣直りは難かるべし、併し一方に從來頗る强腰なる買大手が弗々押して覺悟して東鐵に郵船に鐘紡に買玉を入れて居る所を見るとそう計りも言へぬ味が見へる、强弱共存外疲れが來て居る現今であるからシカと算定はなり難けれど兎に角休日越しの暗闘で戻りか或は不味の持合となるかは豫め判することを得べし云々と。

二月三日

日曜　休業

二月四日

續て戻す

休日前小戻しの足に續き、地方の小成金連が此處氣直りの味と見てか、高直覺への買玉を入れたる爲め、全體より見れば一寸引返しの模樣を示し、稍や戻り足の形勢となり、諸株概して三五十錢乃至二三圓高を呈し、就中炭礦、麥酒は五六圓高、富士瓦斯新は小十圓高を現はしたるも、之と反對に精糖、親東株等は六八圓安を示したるもあり、爰許如何とも評し兼ねたる節ありて、前途は先づ以て捕捉し難き商狀なりし。

	四月限四日引直	四月限一日引直	比較 △印高 ×印安
東株	五一五、〇〇	五一七、〇〇	× 二、〇〇
同新	五一三、五〇	五一〇、〇五	△ 三、四五

二月五日

崩落

前日來の足取が或は氣直らんかに見えて、而も兎角重く、伸びんとして何處となく行惱みたりしが果然今朝來は買方賣退きの機に乘じて、弱氣の賣叩きに遇ひ、場面總崩れの模樣と化し去りたり、尤も中には二三思惑買の爲め强張りたる株なきにあらざりしも、夫等は僅に數ふるに足らず、到底大勢を如何ともし難き形勢に陷り、目先尙一段の崩れ免れ難かるべしと見越さるゝに至りたり、而して諸株は總じて一二圓乃至八九圓内外の低落とはなりたり。

朝來又も氣崩れを演じたるに就ては、噂さに依れば買方が銀行より頭金の請求に堪へ兼ね投出したると、名古屋方面より權利株の投物盛に入り込み現物市場を崩したる不味の氣勢が、定期に影響せると、且又大阪安との早耳筋が盛に下煽りを試みたる等、如上三原因に依りて崩れ立ちたるものゝ如く

一面議員の醜連が種々の材料を振り廻はして買氣を殺ぎたる旁た、小成金の下落相場に懲りて、自ら慌てゝ投退きたる抔彼是相合して益す崩落の足を促進したるものゝ如し。

二月六日

氣迷ふ

立會前の氣配は更に一段の崩れ足ともならんかと見られしも、有繋に買大手は炭礦に東鐵に引かれ腰を覺悟しながら、弗々買玉を入れたると、例の長袖連の運動が製糖に、東株に稍や不成功の臭ひありとの報、何處となく市場の一隅より起りしを以て、區々ながら、亂調の商態を現はし、此等の玩弄的材料に關係なき諸株は、場面瓦落相場の跡とて氣迷ひの風情を脱せざりしも、立會の進行に連れて稍や强味を加へ、殊に東株は、取引所法改正問題の立消へ說と共に一躍舊新共六十六圓方の跳返しを現はしたり。

二月七日

氣直り

前日來兎角暗雲市場を蔽ひ、直らんとして迷ひつゝありし原因が小口買方の投げと、一方長袖連の糊弄策に依るものなりとせば、兩者共市場の人氣より取り去られかゝりし今日、相場は活物故何時迄も下に彷徨ひ居るものにあらず、果然本日は利喰の鼻を底入れと見たと押目買盛に現はれ、夫れに大物に向つては、大手の難平買もあり、諸株共何等の躊躇する横樣もなく、少なきも一二圓多きは三五十圓の引返しとなり、全く氣直りの商態を見せ引跡尙底强き好氣配を呼びて散會したり。

或場面師の談に曰く、本日の直りは一時のものか、或は眞の氣直りかに就ては頗る難問である、金融界云々の說は暫く措いて場面の手口から見ると、炭礦に東鐵に、郵船に、鐘紡に、ウンと氣を入れた大口の買物は皆無であるのにも關らず三五圓より十四五圓方も引廻つて居る裏面を見ると、昨日の買方は此邊底だらふと見た客筋の重に入れ玉であつて、賣方が四面の悲觀材料の稍消えかゝつた今日また戻りと見ても一段の上足あるに違ひないと觀察して手控へて居つた際であつたものだから、相場も自然弱腰となつて、此處迄擡げ來りたるものであらう、して見ると大手の買方は却て前日來の不昧の氣先に出で、今は傍觀の位地にあるので、地場賣方も存外疲れが來て居るから、其割に賣込む餘力がないと見へる、結局本日の直りは氣配から來た相場で、玉の多寡から割り出された味でない、從而何か有力の悲觀材料が現はれゝば此氣配は挫けるに相違ない、以上の成行であるからして、目先は此味であるから、必ず一杯上直はあらふけれども、高直覺へで無暗に素人連が買進むと、遂には又喰は

される味が見へる、どうしても一旦崩れた相場であるから、前高直迄擡げるには幾多の波瀾あるべく尙多くの日時を要するものであるから、手一杯に糸を出して仕舞ふと繋ぎの附かなくなる場合があるので、買乘せるにしても先づ一時の直りを見て警戒を加へつゝ進む方が萬全の策ならん。

東京株式取引所にては豫て增資計畫中なりが愈々七日の委員會に於て千二百萬圓に增資の件を可決し新株は仲買人に若干宛分配するを以て一般割當は一株に付き一株七分位の豫定なり。

二月八日

好氣味

前日の立直りが眞正のものか、將た又一時的のものかは別として、久しく抑へられし氣配が、一場立直りし以上は、目先此足に續いて幾分引上ぐるは當然の順序とも稱すべく、本日の場面は區々ながら好氣配を捨てず、卽ち鐵道株、炭礦等は何れも一二圓內外の引締りを見せ、電鐵は概して不勢に就中、橫電六圓九十號安の如きありたるも以下の諸株は大體に於て好勢を續け、僅かに精糖の四圓五六十號安が目立ちたるのみにて、東株の如き親の軟弱に反して新は十六圓高に引け、市人は漸く騰落の岐路に迷ひつゝありたり。

市場は前日の直り人氣に刺擊されて、幾分好氣配にありたるも、偖て賣買手口を見る時は眞の大手は買氣を萠さぬものと見へ全く見送りの風情にて、小口の手筋のみに買氣を見せたるなれば此分にては眞の氣直り相場とは受取り兼ねたる節あり、而して何故に斯の如く大手が眞の買氣をば出さずに僅にても利が乘れば、直に賣退くならんかと云ふ原因は、畢竟日本銀行始め各有力の銀行が前途金融緩和の見込みあるに關せず未だ以て警戒を解かぬ裏面には他に解き能はざる理由ありと認めざるを得ずてふ觀察に依るが如し。

二月九日

下押す

一兩日來立直らんとして遂に牙へ切らず、兎角頭重き節ありし處、今朝來は此の躊躇せる虛に乘じられ、一二强含みの株式を除く外は場面總じて不味に陷りたるが、去りとて强て賣玉出でたりとにもあらで、只々薄商內の結果强弱共嫌氣を萠しての結局、此下辷りを招きしものと解せられたり、而して諸株は概して一二圓內外を押され、富士紡鐘紡及び新東株は七八圓方を下押されたり。

伸びんとして行惱み、押さんとして下滯り、餘儀なく持合の場面を現出せし昨今の市況は、例の如

く底に大玉の喰合ありて強弱睨合の結果より生せる次第にあらず、一時激發せし投機界の人氣が其反對に前日來の暴落と共に俄然鎭壓し、各人が先づ　息入れての意氣計らず一致し、それに金融界の事情も面白からざる形勢あることは、既記の如くなるを以て、旁々此不味の持合を示したるものに相違なく、市場は嘗て煙にに捲かれて三月限を喰合せたる玉の消化に汲々たる有樣故、先期は只乘換等の爲に商内出來ざる而已、新規は凡て見合せの始末となり、戻りとも直りとも名を附するに足らざる場面となりたるなり。

二月十日

日曜　休業

二月十一日

紀元節　休業

二月十二日

暴　落

休日二日越しの市場は遂に保合放れとなり、諸株全く下放れて、高きものなく、殊に紡績株、取引所株の如きは意外の大暴落となり、今一段の下押しあらんかの風情なりしが、要するに此大暴落は久しく奔命に疲れて睨合ひたる末、買ひ方が嫌氣さしたるに際し、從來手を嘗中に附け居る連中が先づ乘換して置かんとの消化策より割り出されし逃げ路を、黒人連の戻り足に續く直はなき所にあるならんとの賣乘せに遇ひ、旁た存外の底落となりし次第なるべし。

本日暴落の原因は當中限の賣退き物と、乘替とに主因を措き、之に乘じて新規猛烈の賣叩きに遇ひたる爲めにて、要するに曩日一度崩落して以來機運の熟せざりし爲め暫く挑み合ひたる末、漸く强弱氣疲れして見當附かなくなりたる折柄、二日越しの休日を越へて如上の動機に端しなく崩れ立ちたるものゝ如し。

	十二日引直	四日引直	比較
東株	五六二、〇〇	五一五、〇〇	△四七、〇〇
同新	五四八、〇〇	五一三、五〇	△三四、五〇

△印高
×印安

二月十三日

小反撥

格別の材料もなきに前日の暴落の變が激甚に過ぎたる爲め乎、今朝來は人氣の落付と共に軟派の利有買と、目先師の押目買を喚起したる爲め、諸株區々ながら概して小戻りを呈したるが、蓋し暴落後の相場の律として當然の現象なる可し、而して、暴落の概略を記せば炭礦は小鈍かりしも、鐵株類は小高下區々に、船株郵船一圓二十錢、東洋二圓四五十錢の跳返しを見せ、以下の雜株は區々の小高下なりしも、入山採炭の如き足も輕く十八圓九十錢を突飛したるあり、紡績、人肥邊の諸株は殆ど見る可き變化もなく、僅に寶田石油に六圓三四十錢安、米穀に二圓高を見るべきものとせるが、東株に至りては前日の下げ方が激甚なりし丈けに親株三十八圓方、新株四十三圓方の反撥高を演じたり。

二月十四日

好氣配

前月小戻りの足に續き、賣方が一寸警戒の念を生じ、買退きを試みたる矢先き、此機を隙さず買方が期近を賣つて先限へ乘替へ買を出したる爲め、場面稍や好氣配を呈し、徐々ながら上向き初め、殊に瓦斯、紡績諸株、東株の如きは稍や引返しの模樣に三四圓高を告げ、今一息きにて殆ど氣直りとも見るべき商態なりしが、併し暗雲尚ほ市場より去りたりとにあらねば一般に氣乘りばせざる方なり。

氣遣はれたる舊正月もも無事に過したると一方證據金引下げとは場面をして振はしむべき好材料となり爲に立會前より幾分の活氣を呈せしめしが、果然諸株共二三圓乃至四五圓方の高直を現はしたり。

二月十五日

不勢

本場は前日の好氣配を承け手堅く始まり、立合鼻は炭礦に、東鐵に郵に總て好況にて或は氣直らんかの風情も見へしが、有繋に大勢は未だ如何ともすべからざるが爲めにや、紡績諸株に至りてボケ初め、引尻東株等頗る不況の成行となり結局區々の商狀に終り、後場に移りては更に　段の不況に陷り主要株を始め凡て高きものとてなく、僅に富士紡新に一寸味を見せたるも、一旦挫けたる大勢亦如何ともするに由なき有樣にて、東株の如きは小二十圓方も崩れ、目先尚　杯叩かれんさの狀況に大引したり。

本日の商狀を概觀すれば立會初めの好調は前日の氣配を承けて多少高直覺への新規買附を喚起し、又賣方の買埋めもありて聊か立直りをなし來れる折柄、紡績株に至つて前日來他株に比し稍や買過ぎ

の狀もあり、買方の腰弱連が一先づ此邊にて喰遐き置かんとの底意より利を急ぎるこ乘じて都弱氣筋の賣叩きたる爲め、脆くも二三圓安を呈したるものと知らる。

二月十六日

小高下

賣らんか何等悲觀材料なく買はんか何となく頭重き風情あり、旁た市場は又も氣迷ひに陷り、本場は炭礦に一圓上足なれば、東鐵に五十錢辷り、郵船は二三十號の小戻りに止まる等、殆ど特筆に値するものなく、以下の諸株亦かくの如き狀況を辿り、東株に至りて漸く前日下げの盛り返しを見せたるが、後場は愈よ時機待の眞相を發揮し、僅かながら本場に高きは安く、安きは小締りの商況となり、端株の如きは相場出來不申にて何等見るべき手口もなく、直幅一圓搦みの焦附に終りたり。

買方は休日明を待つて漸々資金の回收と共に氣勢を挽回せんとし、賣方は思惑上今一杯の戻りを待つて叩かんと氣構へ、先々此場は手控へんとの氣合が强弱の底意に見せるものから、場面頗る閑散、折角の二立會も續くれば一立會よりも時間が早く了らんかの風情にて、焦附不況の商勢なりしが此分では休日越しに一腰入れた喰合あるべく所謂時機待脱合ひの姿とも之を評せん歟。

二月十七日

日曜　休業

二月十八日

軟化

休日前一寸立直らんかに見へしも、人氣は再び滅入りて、今本場は至極く氣乘薄閑散に、場面總じて高いものなく、炭礦の一二圓安を始めとし、東鐵、郵船、紡績類下辷り、東株の如きは十三五圓安となり、後場は益す不冴へとなり、總て小甘き成行を重ね、東株の如きは又々小十圓下押したるが、斯くなり來りては、呼直は捨て置いても下向く傾向を有し居るは、自然の趨勢にて、場面頗る嫌氣味ぢにてありたり。

相場が氣直らば大に腰入れて買入れんと待ち構へ居りたる客筋も、地場連が賣人氣の逆を廻はりて賣叩きの思惑に出でたるより、頓に手控へ、却つて從來の買玉を手詰め遐きたる抔は軟化の因とも見られたし。

何分にも一部者が結托して種々の口實を設けて肴を作り、之を種に相場を操らんとする爲めに、相場は伸びんとして伸ひず、又下げんとして下げず、殆ど日和見相場となり了せる爲め、誠に無活氣に眞の腰入喰合を爲すの念失せて、偏に議會閉後を待たんとす狀況を示したり。

	十八日引直	十二日引直	比較 △は高 ×は安
東株	五七五、〇〇	五六二、〇〇	△ 一三、〇〇
同新	五七二、七〇	五四八、〇〇	△ 二四、一〇

二月十九日

低落

前日來の不味不勢に人氣益す銷沈して、今本場は益す冴へ兼ねの場面となり、殊に受渡も追々近づき來たると基に、當限の解け商内も買方より埋め始めたれば、連れて先限迄不勢に傾きたる結果、市況全く崩れて低落の足取りとはなり、隨分採算上格安のもの迄三四圓安く、景氣上げの横濱電氣の如きは寄附二十五圓安を見せたる程なるが、後場は漸く底入氣味にて尙ほ不勢ながらも格別押されし株もなかりし、而して低落の度は前後場を通じて諸株は概ね一二三圓内外の下押しなりしが、重なるものとしては前記横電の十九圓七十錢安と、新東株の十九圓十錢安にて、其他は紡績、麥酒、鴻東株、京濱等の五八圓方下押したるにありき。

格別材料としては悲觀すべきもの現出したりとにあらねど、大勢が一時の金融界より見れば、多少緊縮の傾向を實體上に現はし居る證據は、銀行が未だに警戒の手を弛めず、殊に權利株等に向つては全然、玉石混視して一顧も與へざる杯、存外金がなき現況となり、正金が不融通の株と替りたる點は勢ひ定期市場の思惑を抑制すること著しく、而も爰許迫々月末にも迫り來りしと共に勢ひ己むなく、從來買附のものに向つては差金の損にて投出すてふ成行となりたるにて、斯くて幾度か直り氣味に見へて直らず存外底を破つて又下底を造り行く現象に陷りし有樣と解せられたり。

二月二十日

又崩る

本場は前日後場の底入れ模樣を承けて朝來小堅く、炭礦を始め電鐵株迄は小締りを見せ、恰も一寸引返しあらんかにありたるが、以下立會の進行に連れ、漸く氣まづく、殊に大阪紡紡の早耳旁た益す不勢に傾き、紡績株の如きは富士紡十三圓安、鐘紡四圓安と云へる有樣にて、製糖が五圓も押せば日

油に六圓跳ね、引尻東株に至りて、二十圓强も下辷る等五里霧中に彷徨せる亂調に陷り、後場は投げと賣方利喰の戰にて場面頗る賑ひ、中々の商内高なりしが、相場は全く氣崩れの歩調となり直の如何に係はらず爭ふて投げ來りし結果、殆ど收拾する能はざる程の不勢となり、前後場を通じて之を前日に比較する時は、實に諸株共概して一二圓乃至五八圓内外の一齊安を演じ、特に東株の如きは親に四十三圓五十錢、新に三十八圓方の崩落を重ねるに至り、愈よ面白からぬ形勢とはなりたり。

何等悲觀材料なきに、愈々出でゝ愈々妙ならざる昨今の相場は、單に人氣作用より來る不味とのみ稱し難く、全く買の根底破壞より來れるものにて、言を換へて云へば、即ち株對正金の缺乏てふ第一商客の不足より來りし姿なれば、斯くなりては市況殆ど收給すること困難の風情なるだけ、前途も甚だ寒心に堪へぬ次第にてありき。

暴落又暴落とて、立會ふ毎に期近の高直に喰合ひたる追敷を取らるゝ事とて、買方は益々懷ろ工合の悪くなる計り、左れば迚背負込みたる株の流通は利かず、斯くなりては勢ひ直の如何に拘はり居る譯に行かず、續々として、投出しを餘儀なくせられたる爲め、直頃としては隨分格安のもの迄も下爛りの商勢とはなりたるにて、而も頭腦に先入主となり居る買癖は容易に除去せられざるまゝ高直覺へにヒド工面して買はれ、此の買はれたる玉が更に又第二、第三と連續として投げ退きの破目に陷り相場を崩す動機となること故、昨今の買方の苦境は誠に氣の毒にも動きの取れぬ態度にあり、而して本日の崩れも亦實に如上に原因す。

二月廿一日

引尻暴

月末に差迫れるに連れて、期近を賣退き、先物に乘替へるあれば、一方には底と見ての新規買もあり、將た又利喰も加わりて、場面の混亂名狀すべからず、而して本場は比較的好氣味に立會はれ、炭礦に安ければ、東鐵郵船に締り、富士紡に押せば、鐵紡に上げ、商品に叩けば東株に小戻すてふ一定の主義も歩調もなき商狀なりしが、後場は立會初めは此氣味を移して、炭礦に、東鐵に一二圓高を見せ之に續いて小戻しもあらんかの場面なりしも、原因か單に賣方と利喰よりせる上足丈けにや、誠に力なき模樣なりしを、鐘紡に至り此邊投げ出すべき機と見たる强氣の商ひ振が拙劣なりし爲め、忽ち地場賣方に乘せられて全く暴落の商態と化し、製糖挫けて百十五圓臺に落ち込むあれば、商品は十圓安、米穀、東株新は各三十圓方の暴落とはなり、又も買方覇り目に祟り憂目を見せられたり。

試に二十日に於ける各期の喰合高を掲ぐれば

二月限　十四萬二千二百枚

三月限　二十五萬三千四十枚
四月限　十四萬八千四百九十枚
總　計　五十四萬三千七百三十枚

然り而して、中限の未だ消化されざること、如上の成行なるを以て、高直喰合玉兇れの狀知るを得べく、此玉か何れにか解けざる間は到底面白き勝敗を見る能はざるべし。

二月廿二日

大崩落

今朝の場面は全く恐怖狀態に陷り、總投げの形勢轉た慘憺たるものあり、立會鼻炭礦に底と見たる大手の買玉入りたる爲め小堅かりし外は以下の諸株は如何なる安直だも、思ふ儘の直段にて買附けらるゝとも稱すべき程の商勢にて、唯だ受渡を氣遣ひ投げ退くの一點なるを以て横倉あたり大崩落と變じ、紡績當限の如きは一割以上の利廻り迄叩き込まれ、上げの算盤玉に上らざりしと同樣に、下げも愈よ格安の關門を通過したるが、有繋に製糖あたりより底と見たる利喰と些少ながら新規買も見へたるより聊か下げ止り風情を示し、引尻東株は連日崩れ足の逆に二三十圓方も戻し一寸眞の底入れにあ

らざるなあきの節も見へたり、但し低落の重なるものを擧ぐれば、諸株以下船株、雜株等に至る間は横電、浦賀船渠の各六圓三五十錢、入山採炭の三圓五十錢安の外は概して一二圓内外安に、横倉の八九十錢安以下は概して三六圓内外安にて特に、木材の十六圓、富士紡舊新の二十七九圓、東紡の十八圓、麥酒の十三圓五十錢安等最たるものにてありたり。

斯の如き暴落にて即敷追敷等の急なる爲め、後場の立會を休止したり。

二月廿三日

區々不勢

一度軌道を脱しれる相場、挽回するに由なきもの乎、本場は炭礦、東鐵等の大物すら强氣の頑强にナンビン買あるに係はらず、思惑叩きに壓せられボケ氣味を免れざる矢先、郵船に至りて受渡の難關を看に、猛烈に逃げと叩きの嵜みたる爲め、當限十五圓臺、先限十七圓臺の呼び直迄打挫け其他の端株も、浦賀の如きは又增資とかにて小締を見せたるも、大勢は崩れ氣配を放れ難く、一撫に打叩かれ後場は幾分立直り氣味にありて、富士紡の如きは有力の買玉肩替りして入りし爲め、十三四圓奔騰し跡續きて好況なりしが、製糖に至り高かるべきと見て、投物引際に現はれしより又々氣配亂れ、取引

所株殊の如きは、前日と反對の呼直を示し、二十圓强打ち込まるゝに至りて散會したり。

本日の場面は投げと新規買との混戰にて投物は大阪を初め、各地方の注文が月末に差迫まりて受株に困難し、且つ追敷も這入らずと云へる處より、仲買自ら處分せるもの多かりし模樣なりし丈け、下煽りの度も夫れ丈け激しく、新規買は採算上より見て受株の決心にて買ひたるもの多き模樣にてありき。

二月廿四日

日曜　休業

二月廿五日

引返す

休日前小戻しの足を受けながら、朝來炭礦に一寸續物途切れし鼻を投げの爲め、三四圓押されたるが、東鐵に至り手堅き續物入りしより、氣勢直り郵船續て三四圓と先限は跳ねしが、當限は尙下向きに、紡績株は月末故利喰を急ぐ賣手仕舞もあり且又投物も加はりて又々下押したるが、跡製糖、石油皆戻り足を見せ、東株新は小十圓も親との下鞘を買つて出で、後場は愈よ當限に對する投物が一巡丁りしと見へ、直頃が直頃なりとの新規買附も尠からず、賣方の利喰も交りて、場面總じて引返し模樣を呈し、特に樂觀材料ある日油の利喰賣の爲め下押し氣味ありし外は、諸株皆好氣味となりたるが原因は肩替りせる新規の客注文ありたる外なかるべく、兎に角昨今の氣味より見て漸く一寸戻り足を見せて底入りなるやに思はしめた。

	二十五日 引直	十八日 引直	比較 △は高 ×は安
東株	五一四、〇〇	五七五、〇〇	× 六一、〇〇
同株	四九八、〇〇	五七二、一〇	× 七四、一〇

二月廿六日

氣直る

前日後場の底入れ氣味は、果して眞の底入れにて高直に賣繋ぎ居たる大手筋が、愈よ打算上利喰しつゝドデン肩替して買廻はり來れる爲め、今朝來は滅切好況を呈し、炭礦、東鐵、紡績類、東株等の大物を頭に其他の端株に至る迄、全く足取り立直り來りたるが、當限に對し、此の受渡間際に至りて盛に買玉を附け居る點を見れば、單に鞘取り相場のみにてなく、正しく實物を吸收せんかの手段と見て不可

なかるべく、斯かる成行になりては、此引返しは容易に落すまじく、目先一段の好況あらんと見越されたり、但し重なる相場を擧れば、關西以下鐵株電鐵株等は概して二三十錢乃至圓方高く、東鐵と人山採炭の三圓高が頭にて、以下立會の進行に連れ愈よ手堅く中間の諸株にありては、木材、電燈の各五圓高瓦斯新株及び東紡、鐘紡、下紡、製絨、麥酒各種、人造肥料等の各四圓內外高と、富士紡舊新の八九圓乃至十圓高、及び寶田、日本石油の十圓乃至十一圓方騰貴したる米穀、商品の各五圓餘引返したる等目立ち、最終の東株は實に舊株に三十一圓、新株に二十四圓方を跳返したり。

△後場休會　例に依り受渡準備の爲め

△愈よ立直る　前月の底入れ確に、本日は總べて立直り來り、相場昧確かなりしが、右は相應日數もかゝり且つ充分に運びたる折柄、月末に際して愈よ投物も出盡したる爲め、利有筋の買物やら、新規買を喚起したる爲なめり。

△期近高の理由　場面の成行に徵するに、前日來とは正反對に當中限の相場高く、先物は其割に伸び兼ねたるが、右は卽ち當中限に利喰買退きが續出せるに係はらず、先物は强氣すら月が替つたら又々賣らるゝ處あらざるかと依然として兎角心配勝手控へたるに基因せり。

二月廿七日

當限受渡高

月初十八萬餘株の玉か、暴落後新規買方に肩換はりされたる爲め、一方に投出すあれば、安直を一方にて拾ふといふ現況、高直玉の消化された割合に總數に於て減せざるに、平均價額の存外下位にあるに依て見ても、其內容を知るに足るべく、從而買方苦境の昨今にも係はらず、受渡も無事に決了し得らるゝ內情を察知すべし、總數左の如し。

總株數　十三萬四千二百株

總價額　千四百四十萬二千七百七十圓

平均直段　百七圓七十六錢五厘

△二月限受渡標準直段

日本鐵道	九十四圓	同　新	六十二圓
關西鐵道	五十二圓	九州鐵道	七十七圓
炭礦鐵道	百三十五圓	同　新	三十七圓
東武鐵道	六十四圓	總武鐵道	七十七圓
同　新	四十一圓	房總鐵道	三十圓

成田鐵道	四十二圓	京釜鐵道	三十二圓
横濱鐵道	四十七圓	北海鐵道	二十九圓
博多灣鐵道	二十七圓	東京鐵道	百一圓
小田原電氣	三十二圓	横濱電氣	百四十四圓
横濱電鐵	九十六圓	阪鶴鐵道	三十八圓
日本郵船	百十八圓	東洋汽船	大十圓
大阪商船	二十七圓	同　新	十五圓
浦賀船渠	四十六圓	新通運	三十圓
帝商銀行	三十六圓	横濱火災	三十一圓
入山炭礦	百十一圓	新王城	三十四圓
日本煉炭	四十三圓	横濱倉庫	四十六圓
小樽木材	九十六圓	東京瓦斯	百四十二圓
同　新	百二十六圓	東京電氣	九十五圓
北海製麻	七十二圓	日本製麻	八十三圓
富士製紙	七十五圓	同　新	三十二圓

富士紡績	百六十圓	同　新	百六圓
東京紡績	百五圓	鐘淵紡績	百八十七圓
下野紡績	七十八圓	東京製絨	六十六圓
第一麥酒	百二十七圓	第二麥酒	百一圓
第三麥酒	八十八圓	大日本精糖	百十四圓
人造肥料	百五圓	同　新	七十二圓
寶田石油	二百五十一圓	東京米穀	二百十五圓
商　品	百二十八圓	日本石油	百九十二圓
東　株	五百四圓	同　新	三百六十七圓

△受渡株總數內譯

鐵株　四萬九千七百五十株

此代金四百二十二萬三千百四十圓

平均直段八十四圓八十八錢八厘

雜株　八萬四千二百七十株

此代金千二十萬九千六百三十圓

平均直段百三十一圓二十七錢

二月廿八日

昂進

既に買方の討死も了りたる跡とて、續て好氣配に一方安直狙ひの利喰退きに對する新規黒人筋の買建もあり、大手の注文買もありて今本場は一段の好況を告げ、此際尙鐘紡の如きは、期近に實株を受けんとする買玉入り、二十圓餘の高直を現せる等、前途は兎も角、場面頗る買氣旺盛を呈したるが、後場は遙がに幾分落附の風情となり、新甫待ちに商内一向氣乘りせず、高きも一二圓、安きも二三圓の歩みを往來し、凡て重きが如く將た底堅きが如き商態にてありたり、尙ほ前後場を通じての重なる騰落を記せば、鐵株は概して一二圓内外の騰貴にて炭礦新、小田原電、京阪等は各三四圓方を上進し雜株にありては、入山採炭の六圓高、日麻の八圓方、横倉の四圓五十錢高瓦斯の五圓高等を最とし、紡績株は一齊に好況にて、當士紡四圓餘同新、東紡は七八圓方、鐘新は三圓方の昂騰を示し、以下諸株は麥酒、日油の五八圓高の外は概して一二圓の引締り迄に、取引所株は東株舊十二圓、新十八圓の騰貴にあり。

一般に豫期されし通り、相場の落附きと共に、今度は賣方の方より利喰を誘ひし爲め、本日の株式は先づ以て上景氣と申す方なしが納會丈に新規の注文少なかりし爲め、後場は至つて薄商内にて眞の氣味は現はれざりし。

三月一日

發會後場安

去月納會立直りはしめたるものゝ、郵船デキ引尻の不味に連れ、再び氣迷ひに陷りたる市場は、今發會果して如何と見られたるに、蓋を開けたる本場は案外沈靜にて稍や小締りを呈したるが、併し何となく頭閊ゑの模樣相見へ、殊に郵船の如きは僅の賣物に押えられ、下鞘を叩く等が此以降の諸株に對する買氣を殺ぐの原因となり、紡績、東株等其先期に至つては踏み込んでの買物なく、場面全體が恐々ながら戻り直を作らんと警戒しつゝ進むかの風情見へ、云はゞ發會早々白け切つたる市況にありしが、果然後場に至りて買方の賣退き物續出となり、氣配甚だ引緩み、今迄緩み今迄手ぐすねしたる弱氣の賣物も待ち切れぬまゝ弗々注がるゝ狀況に立到り、諸株總じて引緩み、殊に東株新の如きは先限小三十圓方も暴落を告げ目先尙一段の鈍氣配含みに散會したり。

	五日限發會引直	三月一日引直	二月二十八日引直	比較△高×安
東株	五五三、〇〇	五四五、一〇	五五五、〇〇	× 九、九〇
同新	五二八、〇〇	五二三、一〇	五四〇、〇〇	× 一六、九〇

三月二一日

暴落

相場は人の意表外に出づるが常態とは云へ、前日來早くも戻り賣に傾きたる市場は、本日も投げと新規の連發的賣物に打叩かれて、又々暴落を重ねるに至り、卽ち本場は炭礦、東鐵、郵船の五六圓安紡績株の十圓安、東株の二三十圓安東株の二三十圓安等を頭に一齊に下這ひ、殆ど高いものなき有樣にて、殊に先物に對する賣叩きの如きは、最も猛烈を極めたりしが、後場も尙ほ同步調を改めずして炭礦を初めとし、以下數株は不勢を重ねたるが、東鐵立會に至り、郡制廢止案に對する議會の經過、政府に好望なりとの早耳入りし爲めにや、大手のナンピン買と押目狙ひのマバラ提灯買を誘ひて、續いて郵船に至る迄聊か氣配立直らんかの風情なりしも、如何せん當限玉凭れの不味が附いて廻り、兎もすれば投げ退かんとする模樣見ゆるものから、横倉、瓦斯邊より賣方に足を掬はれ、又々ボケ初め紡績、東株等愈よ不況に、直のなき所迄叩き込まんかの商勢となりたり、但し諸株低落の度は一圓乃至五七圓内外なりしが、特に目立ちたるは各紡績株、麥酒、製糖、石油、商品等の八九圓安と、東株覩の三十四圓五十錢、同新の十九圓方暴落等なりき。

市場の最も懸念したるは、本日の郡制廢止案にて、若し政府敗るゝとせば、少なくも内閣の一角に瓦解の色敢て見へざるにもあらず、左れば旁た財界の反動又計る可らすと云へる氣構へと、又一面には黑人連の戻り賣方策が、遍く世間に知れ渡りし以上は、寧ろ躊躇する間も與へず、戻らざる内に叩かんとする意氣、合せし爲め例の最近問題を看にして續退くと同時に、被せて賣叩きし結果に外ならぬものゝ如く、旁た地方銀行の警戒も亦解けず、外債成立近々内にありとするも、偖成立後の金融が事業の進捗と共に緩和の程度如何との氣遣ひもあり、四圍の事情も餘り面白からぬ等を氣構へたる次第たるべし。

本日の下落は實に强弱共意外に感じたる程なるが、蓋し斯く慘憺たる場面を演出したる理由としては、相場が相當高直より打叩かれ居る爲め、最早底直たるべしと信じて買ひたる者も、實は危惧を懷き居る爲騰貴する場に、少し位惡材料現はれても相場に影響せぬ、其反對に好き事柄がありても響かず、惡材料は非常なる影響を與ふる結果を生じたるにて實に此好適例たるなり、而して朝來の場面にありては前日の不勢にも係はらず、貿易は出超なり、倫敦に於ける本邦公債も引締りたり、此等を氣構へ

多少上向きに寄附きたるが、定期の立會に移り見ると、頓と買物薄にて、特に炭礦は立五商店の大買物も途切れし處へ、入丸商店より處分株らしき賣物僅かに三五百枚現はれたるが導火となりて、忽ち七圓方の下落を現はし、市場の慌て加減非常なるものあり、何か安原因なかる可らず、郡制廢止案の爲めに内閣が動搖し居るにあらざるなきか、萬一左る場合には財政方針も異り來て、外債の成立も覺束なかるべしと云ふがあれは、其外債は倫敦の金融事情と内閣の運動なりとするも、容易に成立するものにあらずと唱ふる向きあり偖ては前夜の元老會飲も何か有意味ありと吹聽せらるゝに至りて、恰も一大虚を吹へて萬犬實を傳ふる狀況に陷り、戰々競々たる買方は吾れ先にと投げ出し始めたるより京濱の如きは十圓方も下落し、東鐵の如きは會社筋の買物引續き現はれたるにも關せずマバラ投げに七圓方も引落し、郵船も六圓方叩かるゝと云ふ調子にて、一時當り屋たりし鈴久氏の資産は非常の打撃を蒙りしならんを以て、同氏の買持に係る物は先廻りして賣りに若かずと賣叩く手あれば、一時客と自己とにて處分したる株が、納會前の戻りに安心し居りしを慌てゝ賣繋ぎたる向もありて、富士瓦斯の如きは實に三十圓方の暴落を告げ、其他鐘紡株は有力筋の買注文と新規買に格別下押しはなかりしも、雜株類は處分やら下煽りやらにて散々に悪く、東株も鈴久氏の買持ちありと云ふを目標に黒人筋に煽られし爲め三十圓近くを落したる杯全く大氣崩れの狀況を現はし、後場も不勢に辛くも、東株が聊か落付きたるのみにてありし。

三月三日

日曜　休業

三月四日

又崩落

休日明けなれば、或は一息入れて何程かの引返しもあらんかと、一般に豫想されたるに反して、朝來の市況は更に一般の慘況を演出し、買方は算當も利率も徹塵顧る遑まもなく、來る日も來る日も退敷責めに責めらるゝものから、唯一散に投げ退くの有樣に陷り、今本場も一として高き樣なく東株新の如きは、實に五十圓方も下辷つて四百五十圓臺となれる杯、轉た凄慘たる計りに、後場も尙ほ下辷りと迄行かず、僅かに大手買方のナンピン買と軟派の利小々入れに區々高下と迄に、辛くも鈍狀に支へたるのみなりし、而して本後場を通じての重なる相場を記せば、東株の四十圓五十錢、同新の六十圓安を最篁頭に米穀の十九圓、炭礦新の十四圓五六十錢、富士紡績の十二圓方、寶田石油の十圓十錢安を始め炭礦舊、東武、京濱、瓦斯新、富士紡、鐘紡等の各七九圓安あり、爾餘の諸株も何れも一三圓乃至五六圓方の崩落にてありき。

	五月限四日引直	五月限一日引直	比較△高×安
東株	四七九、〇〇	五五五、〇〇	× 七六、〇〇
同新	四四九、〇〇	五四〇、〇〇	× 九一、〇〇

三月五日

引戻す

本場は弱氣配に始まりたるも立會の進行に連れ、漸次引締り歩調となり、後場は頓に引返しの足取りを示したり、即ち本場は一般に鈍狀なりしも品に依りては利喰買に突張りしものもありたる爲め、炭礦、東鐵、郵船等投物途切れざるに係はらず、同事氣味に支へたりしが、横倉、入山邊より買手少き爲め又ボケ初め、瓦斯の如きは三五圓も辷りしが、鐘紡に至り、利喰買あり、下澁りの商態となりしものから、跡續ひて稍一息入れたかの風情相見へ、東株新の如きは先限十圓高を現はして散會したるが、後場は外債正に近き内に成立せんとす報、的確になりたる矢先、多少の戻りはあるならんと投玉の手控へしものから、利有買と鞘取り主義の新規買附も尠からず、相場は見る〳〵引返しの引返しの足取となり、炭礦、東鐵、郵船等續て三四圓方上張り、富士紡は十圓强、東株の如きは二十圓方上走り、目先尙此足に續き幾分の好望あらんかの商況を示したり。

三月六日

前高後安

前日引返しの氣先を承け本場は續いて好氣味に、諸株概して五十錢乃至一二圓方の上げ足を示したるも、場面は存外の薄商ひにて、僅に紡績株に乘り替へやら、投げやらにて賣買稍や賑ひ下這ひとなりたると、東株が舊新共買手中々盛に一二十圓高となりたる外は特記に足るものなかりしが、而かも之とて何となく繰つり的の好氣味と認めらるゝ節あり、果然後場に至りては又々投物を誘出したるより、相場は脆くも崩れ出し、中々前場の上幅所ろになく、又も一層の下辷りを呈したり試に主なる騰落を記せば、炭礦以下諸株は概して一二十錢乃至一圓内外の高下區々にて、横電の三圓安、横倉の二圓十五錢高、富士の五圓十錢、同新の七圓六十錢安、東紡、人肥の各二圓安、米穀の三圓安、東株の舊六圓、新十四圓十五錢安等を目立ちたるものとす。

頃來の暴落又暴落に、逍がの買方成金筋も到頭買瀨切り得ずして、從前のナンピン買と逆に今や投げ退き又投退きて小窮境に陷り、殆んど死屍累々の有樣となりたるが、前日の暴落も例の鈴木氏を目

標的に打叩かれしものなりと云ふ。

三月七日

小高下

仕手の見送りに場面は一息の體を示し、本場は諸株共概して昂低二三十錢より一二圓揺みの小動きに止まり、只引尻東株のみが、五八圓方の下辷なりしが、後場は尙氣乘薄ながら投玉の手控へと共に、場面は稍や買崩し、諸株相當の小戻りとなり、概して五十錢乃至二三圓方の上足を示し、東株は前場に打叩かれし半ばを引戻したり。

本日の市況は保合ながら、兎角氣乘りせぬ樣子にて、恰も大風一過せる跡を荒野の如き感ありしが右は買方の疲勞と、賣方としても餘り從來の下げ方凄まじく、此邊の追擊は一寸考へられ、且つ目標としたる買方も略ば場臺に討死したる今日なれば聊か拍子抜けしたる點もあるべし。

三月八日

暴落

前日一寸戻り味を見せたると共に、忽ち又も投物を喚び出し、朝來は又々慘々たる商狀と化したり即ち本場は、東鐵の如きは市會と關連せる重役筋とも覺しき買物一鱗、高等各店より盛に出でたるに拘はらず、五十錢方不味に、炭礦、郵船は二三圓安く、鐘紡の如きは四圓强の下辷となり、東株は一二十圓の下押しとなりしが、其他の諸株も殆ど高きものとてなく、市況大に滅入り、後場は玉凭れと銀行警戒の噂さ愈よ傳播せられて、場面師が此機に乘じ、投玉に相次ぎて打叩きたるより益す崩れ立ち、炭礦、東鐵、郵船等は更に各四五圓强、紡績は五八圓より十三五圓、東株は又も二三十圓方打叩かるゝに至り、諸株總崩れの足取り物凄く目先挽回は殆ど愚か絶望的底投げ相場那邊に至りて底止するや測り兼ねたる光景の裡に散會したり。

後場愈よ崩落となりたるに就ては、外債成立の報に接し、幾分騰貴すべしと見做されたる相場が、本場毫も騰貴せざる程、然く底弱き相場は賣方針の一點より外なかるべしとせる、目先師の賣と、客筋の投物を猶豫し居りたる仲買店の斯る場と相伴ひて、堪らず投げ出し來りたると、且は折柄處分株と覺しき注文、炭礦杯に現はれ來りて、忽ち五七圓安を現はしたる等、彼此相俟ちて益す人氣を阻喪せしめて遂に以下諸株も忽ち總崩れの不況を演出したるものゝ如く、東鐵杯は會社筋の買物ありたるにも拘はらず尙且つ不勢を示したり。

相場が斯くの如き暴落を示せる上は、ヨシ客筋に投げ出す意思なく共、仲買人の手にて、それ〳〵

處分すべき玉は、尙ほ相當に多かるべく、押目と見て買取りたる强氣筋も、かくの如き暴落の場面に接して、今一段の押目を待たんとて買控ふべきが、故に相場も今一杯下押し免れざるやにあるが、兎に角、當限の投げは一寸注目に値せり。

春初諸株が高直、又新高直を付けたる當時にありては、定期の建株中百圓以上の株式の種類は二十種以上にありたるが、本日の暴落に依りて今や僅に炭礦、京濱、郵船、入山採炭、瓦斯、富士紡、鐘紡、麥酒、寶田、米穀、東株の十一種を數ふるのみに至りたり、以て如何に相場の激しかりしかを知り得べし。

三月九日

低下

引續き不勢に、本場は炭礦投物四五圓安となり又々崩れんかの商勢を示したるも、東鐵に例の買玉入り込みたる爲め辛ふじて同事に引けしより、郵船は頗る混戰の結果、先限一圓七十錢高となり、之れより以下氣配稍や立ち直り、鐘紡は當限安の先限四圓高と云ふ乘替への爲か、將た屑替し買玉入りし爲か小戻りの商勢を示し、引尻尙一跳せんかの有樣なりしが、精糖に五六圓安を示せしより、東株も遂に挫けて、親六圓新十八九圓と下辷り又々區々ながら氣味頗る不良に本場を打止め、後場は、一寸落付きしも大體不味に、本場落せしものは高く安かりしものは引返して、結局本後場を通じ、高きものにては炭礦新、横電、京濱等の一圓乃至一圓四十錢、高安きものにては瓦斯の三圓二十五錢安、同新株の四圓六十錢安、麥酒の四圓六十錢安、日油の七圓安及び東株の十四圓、同新の三圓安等が重なるものにしてありたり。

三月十日

日曜　休業

三月十一日

引返す

本場は立會鼻の諸株は不味に、炭礦に投げ切れざる手あるにや、手堅き買物あるに係はらず、ポケに了りしより、續いて東鐵其餘波を承け稍や不味なりしが、郵船に至り何等の悲觀材料なきに五朱以上の利廻はりは此堅實なる株式に對し、格安なりとの人氣、何處よりともなく場の一隅より起り、揚目買相應に入り、一寸小締りたるより以下瓦斯、紡績、諸株精糖等鈴久一派會社筋の投物前日迄終了

せる結果、所謂怨み相場とも云ふべき足取にて、盛に新規買物入り、四五圓より十圓方引返し、東株も同じく此氣味の下に親四十圓、新一二十圓と頗る強硬に跳ね返しを見せて本場を終り、後場も尙ほ強固に、炭礦、東鐵等小締りの商態を現はし、場面頓に買崩しの人氣となり、續て瓦斯、電燈等好氣配なりしが、紡績諸株に至りて本場の上足激しかりし爲め乎、例の小口投物を誘ひて再び小綫以下漸く氣勢昂らず、東株は舊二十圓强、新二十圓以上引落して再び引尻混沌として散會したり。

今本場、特に戻り足の强かりしは、所謂相場界に於ける怨み相場、面當て相場とも云へるものにて前日後場にて、成金隊長鈴久氏一派の投げ物が悉皆出盡し、大隊長すら討死したる相場なれば、自然場面師の買付きし處へ、新規の買注文が之と共に入込みたるに依る也。

本場三五十圓方跳ね上げたる東株が後場忽ち二三十圓の挫折となりたるは、當中限に丸上、金と等鈴久氏筋の投物らしき玉が現はれたる爲め先廻りして、遮二無二賣り叩かれし爲に外ならず。

	十一日引直	四日引直	比較	△印高	×印安
東株	四三六、〇〇	四七九、〇〇	×	四三、〇〇	
同新	四〇九、〇〇	四四九、〇〇	×	四〇、〇〇	

三月十二日

鈍狀

近來の場癖として、保合の後は必らず下押といふ商態なるが、今本場も亦此例に洩れず、前日の保合に行惱む味を見せしと思ふ間もなく、又々小口連中の諸株を通じて好戻りと見て投出し來れるものから、弱氣場面師の乘ずる處となり、遮二無二打叩かれしより、炭礦、紡績等諸株二三圓乃至四五圓方の下押を告げ、其他諸株も總じて不味に、東株も十五八圓方下辷りたるが、左りとて此際新規に打叩くべき程の材料發生したりとにもあらざれば旁た、單に軟派としては買方の投げ足を掬ふのみに止まり、後場は復もや投げの途切れと共に例の場癖に洩れず、押目狙ひの買物入り込めると、弱氣筋腰弱の利喰ひ廻はれると共に、直に氣味ぢの小堅き節を見せ、相場は五八十錢より多きは一二圓方の引返しとなり、東株の如きは六圓より十圓方の返しとなりたり。

三月十三日

小戻す

本場は前日小戻しの氣先、續いて買物入り込み、炭礦の二圓高より以下、東鐵、其他電氣株等小一

圓高なりしが、郵船に至り、先物へ相當買物入り込みしものから氣配又もやボケ始めて、續いて瓦斯紡績株等一二圓安となりたるが、製糖、麥酒等は小堅く、東株は鈍氣配を移し四五圓安となり區々に終りたるが、何分小高下區々の小相場の事故、格別注目を惹きたる商内もなく、氣乘薄閑散裡に本場を終り、後場に移りても立會鼻は餘り氣乘らざる風情なりしが、近來の相場は言ふ迄もなく、直が充分下位にあること故根が買たくて堪らぬ場合なれば投げが止まると共に、直に上張り來るは當然の成行にて、後場は早くも諸株を通じて手堅き買物入り込み、相場は見る〳〵上進し、炭礦、東鐵、郵船は一二圓方引締り、紡績株は五六圓、東株は一躍二十圓方の暴騰となり、前逸尚ほ高からんかの形勢の下に後場を散會したり。

三月十四日

續て戻す

前日來何等かの思惑上、手嚴しき賣叩きありたるに係はらず、一方には底と見て是に對抗せる買物簇出せるものから、相場は些々たる故障を物ともせず朝來更に立直りの形勢を呈して、本場は炭礦、東鐵、郵船等小締りの商態を示し、殊に瓦斯、紡績株等は強弱取組の表面に綾ありとかにて、二三圓乃至五圓方騰貴し、其他の諸株も總じ手堅く、東株亦之と關聯して盛に買玉入り、親十七圓强と跳ね返し、恐々ながら場面買崩しの氣配ホノ見へたるが、後場に移るや再び警戒的躊躇の振合を生じ、相場は諸株を通じて三五十錢乃至一二圓搦み往來し、中央に一線を劃するも、其凹凸を知るに苦しむてふ商態となりしが、只引尻に東株に至りて本場の昂低か響きたるものと見へ、其上げ過ぎの感ありたる東株親は十一二圓を下落したるに反して新は六圓高に打止められ、尚賣氣旺盛の裡にも底意手堅き節を窺はれたり。

三月十五日

形勢良好

形勢漸く良好に、當限の喰合も大分消化され、殘る大半は肩換りせる眞の受手となり、從つて投玉の始末も一段落となりたれば、直段は充分下位にあること故、人氣一轉して買模樣となりしより、相場は小運びながら下向けるものなく、郵船の如きは二圓高となり、紡績、製糖は三五圓高、東株は六七圓高に本場を終り、後場は一層氣配を强め只僅に紡績株が割合に伸び惱みたるのみにて、其他の諸株は眞の買物を誘へる風情に總て手堅く、前後場を通じ京阪、郵船、横電各紡績株等は五七圓高に、

東株は親十一圓、新十九圓高を告げて目先一般の强味を想望せられつゝ散會したり。

前日の見直しに次き、朝來更に形勢立直りを呈したるに就ては、過去金融界が益す緩漫の趨勢を示しつゝありしに係はらず、株式の下落したるは、單に買過ぎの咎めにて、投物續出の爲め下押したるにあらば既に投物も一巡し、直頃も低くなりたる昨今、下げ止りの味を見ては買ふより外に途なしとの念が期せずして一致したる爲めなるべし。

三月十六日

不勢

前日の上げ方が多かりし爲め乎、今本場は早くも利有の賣物を喚び出し、且は此鼻戻りと見たる賣物も相應にあり、連れて買方腰弱連の投退きもあり、立會鼻の炭礦、鐵株等は尙好味を失はざりしき東鐵、郵船邊より相場漸くボケ初めて、紡績諸株、製糖何れも一二圓方の下押しとなり、東株は殊に賣叩き猛烈にて小十圓方も打込まれ、全然前日と打つて變りたる商狀となり、後場は稍々落附の狀況を示したれど、尙ほ小口買方の嫌氣投げに不勢を免れず、炭礦、東鐵、郵船、紡績等總て下歩みとなりたるが、鐘紡は續て買玉りしと見へ先限は却つて一圓高となり、製糖、東株親は一二圓な高りしが、東株新

は本場下げ過ぎの爲めにや、先限は五十錢となり、一寸一息の體に散會したり。

三月十七日

日曜　休業

三月十八日

又も崩落

今休日明けの市況は依然たる買方警戒の折柄、外電の財界恐慌等を氣構へ、一層買手を控へしより折角持堪へたる高直買待ちマバラ連中も、未だ立直る相場にあらずと見越し、弗々投げ始めたると機を見るに敏なる軟派の賣出でに、又もや不勢の商狀の呈し、立會鼻鐵株、電鐵、郵船等の諸株は小高下の區々ながら、概して不味に以下立會の進行に伴ひ、漸次不勢を增し、紡績株は一二圓方の下押しを示し、引尻、製糖は六圓方、東株は十圓、同新十五圓方打叩かるゝに及び軟風市場を蔽ひて本場を打止め、後場は此氣先大手連中の賣叩きに出づるものありしかば、場面愈よ總崩れの形勢に陷り、炭礦東鐵、郵船等の四五圓安を始め、紡績株は三五圓安となり、他も一として高きものなく、場面最終の東株の如き、舊株四十圓方崩れ、同新は三期を通じて遂に三百臺に逐ひ込まるゝ等、場面慘々の成行

きにて、斯界は愈よ歐米金融界の恐慌を其儘移したらんかの有樣を現はしたり。

休日明けは幾分好足取を現はすならんかとの說もありたる事とて、朝來の不勢に次ぎて遂に大瓦落を演じたるは、買方の大打擊は勿論、賣方も寧ろ意外の感に打たれし程なるが、之が原因としては別項砂糖商破綻云々の說を主因とし、歐米金融界の恐慌が豫め人氣の根柢に恐怖を與へたるものゝ如し。

東株	十八日 引直	四〇九、八〇	十一日 引直	四三六、〇〇
同新		三八七、三〇		四〇九、〇〇

比較	
△印高	
×印安	× 二六、二〇
	× 二一、七〇

三月十九日

不味

前日の崩落より左らぬだに低位にある相場とて、直頃より見れば今や買の餘地綽々たるものありとは云へ、元來相場の常として高きは買附き易く安きは兎もすれば賣たき實狀とて、崩落に對する事情も大概知悉されたるに係はらず、朝來の場面にも尙ほ悲々しき買人現はれず、依然鈍氣配を重ねるのみにて、本場は炭礦東鐵の重き商狀を始め諸株概して活氣乏しく、僅に瓦斯の一圓高と、製糖株が反動的に當中五六圓方、先限一圓方を引返したるが聊か人意を强くしたるに止まり、後場も概して氣重く、只炭礦東鐵に連日引かれ腰の買大手が、ナンビン的に買乘せたる爲前者二三圓方後者一圓方の强味ぢを示したる計りにて跡は復も引立ち兼ね、紡績株二三圓、製糖株二圓押込まれたる抔誠に腑甲斐なき立會振りにて、前後場を通じて諸株は小高下區々ながら、紡績類、麥酒、石油、米穀等は四七圓方、東株は小二十圓及び同新株は五圓方の下押しを現はしたり。

前日砂糖商破綻を氣構へて、風聲鶴淚的に崩れ立ち立たる市況も、其眞相の遍く知れ渡れるに連れて人氣稍や落付き、朝來の場面は先以て小高下區々に支へたるが併し餘程怖氣附き模樣に、朝場は炭礦に大澤商店を初め、谷、長等の賣物あり、同株は四圓方も下放れに寄附きたる程にて、跡二三有力者の買に辛くも二十錢に喰止めたるも、東鐵にして尙二圓安を免れず、郵船と雖も島商店小千枚を買來りて僅か五十錢の引締り直に經過し、此立會頃より例の不渡手形一件が、關係銀行第一、第三、第百、二十、東海、三井、川崎の七銀行にて夫々仕末を附けたること明に知れ渡りたるに拘はらず、僅に落付たる迄に過ぎず、後場も立會鼻こそ、不時向ひの人氣を示したれど跡立會の進行と相俟ち、又々漸次嫌氣勝ちの狀況となり、結局相場はマダ〳〵眞の立直りは前途遼遠と頒かしめ、畢竟飽く迄尾花も幽靈に見ゆる怖氣付いたる人氣と窺はれたり。

三月廿日

又も低落

昨引尻の小戻りに聊か氣を持ちて、本場は炭礦、東鐵等に一寸買氣を見せしが、大勢の不味は如何ともすべからざるが、再び場面賣人氣に支配せられて、郵船に至りてヂキの低下と相伴ひ、忽ち二圓四五十錢方を打ち叩かれ、人氣は愈よ又も崩れ立ちて以下紡績類は一齊に四五圓乃至七八圓の瓦落となり、精糖は稍や灰汁拔けの體に小一圓高を示したれど、以下の諸株は概して不勢を辿り東株は一際崩れて親八圓より、新十二三圓の下運びとなり、形勢愈よ險惡を加へ、後場は此氣先を承け、益す混亂し下辷りに先づ炭礦の六圓安、東鐵の四圓安等を始め、買方手控への虚に乘じたる軟派の突喊猛烈を極めたるも、富士瓦斯紡より前場の打込みが激しかりし反動を起して利有買續出を動機に氣勢一變を呈し、紡績類は各三四圓方の上向きとなり、精糖一寸小甘かりしも、東株の如きは利有と押目買混然として湧き、親は一躍二十圓を突飛し新亦十七八圓方を跳返し、場面は立會鼻と對照して頗る亂調に散會したり。

本場立會は立直り氣味にありたるものゝ、些々たる砂糖商の破綻事件にて慘々に叩き込まれたる矢先、大藏省證券の利率一厘方の引上げにて又々慘々に叩き込んだるは本場の實狀なりしが、併し一度市場を離れ、人氣を放れて考ふる時は誠に馬鹿々々しき程の次第にて、前日の砂糖商の不渡手形と云ひ、本日の利率引上げと云ひ、誠に以て些々たる事情に過ぎざるに、一旦怖氣附いたる場面として相場上には針小棒大に響くものから、我慢に我慢、辛棒を重ねたる買方一派は遂に餘儀なく投げざるを得ぬ破目となり、仲買に於ても處分せねばならぬ事となりたるにて、相場としては止むを得ざる次第なるべし、而して後場引際東株が二十圓跳ね返したるは適ま以て人氣が落ち附きたるを證するなり。

三月廿一日

前高後安

前日後場引尻の下止り味を承けて、本場は軟派の利有と、押目待の新規買現はれたる爲め頗る氣丈に立會はれ、早くも炭礦四圓、東鐵二圓、郵船小二圓、紡績四五圓より一二圓高と、恰も前日引落せる半ばを引返したるが、鐘紡先限は戻せし足とて其前に伸びず、同事に引けし處より聊か氣重の商狀とは化し、東株立會は早くも戻りと見ての投物ありて親新共に十三圓餘又々挫折したるより、滅切氣

味を悪化し折角戻りたる相場も、打壊され後場立會に移りては又々一齊安の形況となり、炭礦よりかけて紡績株迄は、總て一二圓搦みの下同きとなりしが、原因は買方の小掬ひとも見るを得べく、投玉は手控へ居りて現はれざる爲め、相場は未た戻せし丈け崩さゞりしが、此呼吸を早くも見て取りたる賣方は東株新に至りて前場不味の底直を喰ひ廻はし、四圓方小戻し、目先味あるやの値に惚れさせて、投物を誘ひ出さん策戰を取りしものゝ如し。

本日東株の下向けるは、格別新規惡材料を見出したる譯にはあらざるが、三期を通じ金丸商店の賣出たる結果にして、之れは月末買方の處分物なりと稱せられたり。

三月廿二日

春季皇靈祭　休業

三月廿三日

不　勢

愈よ當限受渡期日に切迫して、受方の困難を見透さるゝものから、軟派は爰許ぞと計り叩き込まんず氣勢を示し、買方は益す逡巡癖易の體あるより市場は氣重く、本場は際立ちだる投物なきに係はらず、諸株は一二圓乃至四五圓方の下押しとなり、特に東株の如きは親七圓、新十三圓の不勢を呈したるが、後場は商内存外氣乘らず、場面は全く氣迷ひ氣味に陷り、利喰と轉賣との羅り合にて繰りたる玉は見受けられず、從つて相場は區々に炭礦、東武に高ければ郵船、紡績に安く、精糖、東株に小戻しあれば、麥酒、米株に下押せる等總て一二圓より三四圓の直幅を小往來し、賣方は明け〳〵の處分玉を待つて一擧に敵陣を衝かんとするやの振合にありたり。

郡制廢止案が貴族院にて否決せられたるを見て、市場にては好箇の賣材料と取囃されしが、其觀察たるや曰く、該案の否決は勢ひ原内相の進退に係り、原内相の辭職が事實とならば、ヨシ内閣の運命に迄關係せざるとするも特に東鐵株の如きは内相と因緣深きを以て尙一層の悲運に陷りはせずや、果して然らば左らぬだに悲境にある株式界は其影響を免るべくもあらざるべしと云ふにありたるが、之に反して某黑人は事實味の良き相場ならば斯くの如き事が影響すべき筈もなく、却つて之を機會に反對に買注文が現はれねばならぬ筈なりとも稱せり、尤も市場の不況に付ては買方の恐怖容易に去らず買取る氣勢を失し居る爲めと、當限に對する小口ながら投げ殘り玉が、處分株として弗々現はれたるが人氣に影響したるに外ならぬ有樣なり。

三月廿四日

日露戰後の大相場

日曜　休業

三月廿五日

又低落

本場は一般に尙ほ一ト崩れを豫想されたるに反し、案外底聢りの商狀を呈し、炭礦、新東鐵、郵船等は小締りは告げ、以下の諸株にも格別投物とも見らるべき纏りたる玉は見當らず、僅かに瓦斯、紡績邊より夫れかと見るもの當限より中先限に多かりしが、鐘紡は却つて同事氣味の小堅き成行に製糖小三圓上張り、東株は十圓搦みの下押しとなり、相場は區々に本場を終りたるが、後場は本場引尻りの昧より見てか、頓に買方の怖け投物を誘出するに至り場面は再び慘憺たる形勢に陷り、炭礦、東鐵を始め、殊に郵船の如きは當先共九十圓臺へ追込まるゝ等散々の成行となりしが、立れてはならぬと買方大手が聊か投げ手を控へ加減となりしより、紡績諸株に至つては三四圓安と幾分崩れ氣配を見合せたるかの模樣を示し、東株に至つては親十五圓、新六圓方の下押しのみにて散會したるが、畢竟するに投げ玉の多少に依りて相場を打込むべき直幅の淺深を定むるかの如く、投げ玉さへあれば、一方は之に對する利喰買が重なるものなれば、其利喰の程度如何に依りて低落の度合を左右され得べき場面

となりし振合なり。

	二十五日 引 直	十八日 引 直	比較△は高 ×は安
東株	三六五、〇五	四〇九、八〇	× 四四、七五
同新	三五四、〇〇	三八七、三〇	× 三三、三〇

三月廿六日

崩落

受取り得ざる期近の買持玉が殘留せる限り、到底市況の回復思ひも寄らずとは頃來の市場に於ける一般的人氣なりしが、果然連日の場面は斯くの如くにして、而も受渡に切迫すればする程此傾向を强め來り、今本場の如き又々諸株の一齊安を現はしたり、而して立合鼻の一氣は殊に不良に炭礦の四圓安を始め、鐵株類は何れも三四圓方打叩かれ、只だ中段東洋汽船、商船邊より以下紡績株にかけて聊か下押しの度を弱めて瓦斯新の五圓安を除き他は四六十錢乃至一二圓方の引緩みなりしも、後半麥酒製糖、石油株等は何れも四五圓方打叩かれ、取引所株が頃來打續いての低落に辛くも四五圓安に止めたるは幾分買方に對す打擊を輕からしめたる如きも、素より此邊燒止りとは受取り難き市況にて、市

場は尙ほ來るべき崩落を豫期する如き狀態に陷りたり。

相場の動搖激しかりし爲め、即敷、追敷の間に合はざると、立會時間が長かりし爲めとの理由より後場は臨時休會となりたり。

頃來の東株は、人氣の恐怖し居れる矢先、銀行筋の繋ぎ物が連日數店より現はれたる爲めに下足一方にて、前日の如き堀留の某有力者が一手に當中を五百枚以上買取りたるに拘はらず、尙且つ投物に崩れて四五十圓の暴落にありたる處、本日は是等投物も稍や薄らぎ、市場注目の焦點たる中井よりの繋ぎ物も一段となれる爲に、諸株の暴落せるに對照すれば誠に僅かの低落に止まりたり。

三月廿七日

引返す

證據金の改正と、投物の一段落と、利喰買物の嵩みたるとが動機となり、諸株を通じて買物入り込みたる爲め、今本場は猛烈なる引返しを見せ、就中東鐵、郵船、富士紡の如きは前二日分の低落を一擧に跳ね戻したる程なりしが、併し此上げ足に就ては格別新材料のあるにあらず、單に餘り押したる反動高と見るより外なければ、未だ以て根抵より動かすべからざる點の買崩しとは評し難く、乍去證據金引下げの爲め玉數を增加することを得べければ、假令受取り切れざる手にても、此際先づ乘替へて置てとの思惑もあるに依り、目先投げも一寸控へ氣味の成行にもあり、後場は一寸落付の體を示し本場跳返しの度激しかりし株は小緩みを見せたれども、上げ足らぬ心地せし分は一抔の戻り足あり、氣配は何處迄も小堅き商態にて、弗々投げ玉なきにあらざれども利喰急ぎと、先限に對する買物相應に入り込みし爲め、何となく相場は一寸腰を据へたらしく此分にて落付きしとせば氣味ぢより見て、餘り下押しはあるまじく去りとて急激の戻しは却つて叩かるゝ憂あれば、目先此邊にて締り足を持續しつゝ、越月後又來ん材料を捉へて買煽る方現在に投げる買方の商略としては可なるべく、從つて受渡期迄は强含みの保合相場とならんと一般に見越されつゝありき。

三月廿八日

後場頓挫

今本場は引續き高直賣繋ぎの買埋めと、直りと見たる買方が小口ながら相應に現はれたる爲め、相場は依然好勢にして、只だ引尻新東株に至り、投げ玉一寸現はれた爲め三四圓方の不味を見せたるが、全體より見れば强含みと稱するに憚らず後場も立會鼻の氣配は、敢て惡しからざりしが、所謂投げの殘

玉が氣味の良好と共に再び現はれ來りたる爲め、又々賣方の乘ずる所となりて打叩かれしより、更に第二の投物を喚び氣勢全く頓挫し、相場は又々險惡に陷るに至り、爲に前後場を通じて富士紡以下の諸株は概ね四六圓内外の低落を告げ、東株の如きは親三十六圓方、新二十七圓の下押しとなるに至りぬ。

三月廿九日

納會區々

今朝は前日の某銀行取付説の眞相が遍く知れ亘りたると共に、場面は稍や落付の風情を示したれど而も尙ほ買方の恐怖に乘ずる軟派連合の突擊賣りあり、立合臺諸株の一寸小甘きを始め、鄭船其他端株類は崩れ立ち、又々鈍狀の商態を繼續せんず有樣なりしが、紡績株に至り、前日崩落の反對に、僅か一小機關の破綻の噂さに騷ぎ出すも大人氣なしとの含みありしものと見へ、買退きと新規の買物もありて稍や引締りの風情を示し、富士紡は一圓三十錢安なりしも同新は十錢高に支へ、鐘紡、下紡は各三圓高となり、以下商品、東株の如きは十圓前後の上げ足となりたるが、新東株は親との權衡もあり、旁た打叩かれて結局五圓安を見せ、月初より引續き蓋を開くれば、必ず何程か不味なる場面を持續しつゝ納會を告げたり。

從來買方たりし連中が軟化して賣方針を立て、前日來僅か一二日の好勢を戻りとして叩かん手筈より聯合的商略を取りしとの風説と、此氣先第百三十八銀行が内情困難の噂さを破綻なりと迄言ひ囃し且つ其他の某銀行も危險なりと云ひ、或は外交談判云々の流説さへ唱へられたるは何れも引際不味の商勢に轉じたる次第にあるが、事情斯くなりては軟材料のみが利くも是非なき所なるべし。

三月卅日

立會休業

△三月限受渡高　株式全盛時代に於て非常の高直を以て喰合はれたる空前の玉數も、爾來日に〳〵暴落に遇ひ玉數も從て消化され、眞に受渡すべき諸株は安直肩換はりしたもの殆ど全數とも言ふべき次第なれば、平均價格も前月に比すると充分の下級にあること別項の如し、今左に株數を掲上せん。

總數　十七萬八千六百七十

代金　千四百三十八萬六千六百二十圓

日露戰後の大相場

露光量違いの為重複撮影

一株平均七十九圓九十一錢六厘

△前月との比　參考の爲め己に落下の中途に於ける前月の受渡數に比せんに、株數に於て四萬四千五百十株を增加し、代金に於て十七萬六千七百二十圓を減じ、一株平均價格に二十七圓八十九錢を減せり、斯の如く數字上に反對の現象を示せるに見ても、暴落の度合の激甚なること推して知るべきなり。

△受渡株細別　鐵株六萬六千八百三十株、代金四百三十九萬九千三百七十圓、平均六十五圓八十二錢九厘、雜株十萬八千四百四十株、代金九百六十一萬四千二百六十圓、平均八十八圓六十五錢九厘、

合計十七萬五千二百七十株、代金千四百一萬三千六百三十圓、平均七十九圓九十五錢五厘

露光量違いの為重複撮影

一株平均七十九圓九十一錢六厘

△前月との比　參考の爲め己に落下の中途に於ける前月の受渡數に比せんに、株數に於て四萬四千五百十株を增加し、代金に於て十七萬六千七百二十圓を減じ、一株平均價格に二十七圓八十九錢を減せり、斯の如く數字上に反對の現象を示せるに見ても、暴落の度合の激甚なること推して知るべきなり。

△受渡株細別　鐵株六萬六千八百三十株、代金四百三十九萬九千三百七十圓、平均六十五圓八十二錢九厘、雜株十萬八千四百四十株、代金九百六十一萬四千二百六十圓、平均八十八圓六十五錢九厘、合計十七萬五千二百七十株、代金千四百一萬三千六百三十圓、平均七十九圓九十五錢五厘

玄人の大相場觀

大正九年株式豫想

東京株式取引所仲買人
令商店主　野口清三郎

▲上半期一大相場出現乎▼

大正九年度の株式界成行如何てふ大問題に向つて、適確なる斷定を下す事は素より難問題で、不明と言ふより外なきも、折角の出問に對し過去の經驗と事實とを歸納して豫想を試みる事とせん。昨年度の株式界は、曲折波瀾を演じ樂悲交々の裡に大勢は强調を持續して居た、殊に物價騰貴は著しく、政府當局も之れが引下策に苦心し、消極積極的兩策を實行したが、利目は薄かつた、結局投機熱抑壓の目的を以て、金利引上まで實施し、之加之銀行家をして資金の融通までに手加減を施すべく內示したとのであつたが、既設會社の事業擴張、新規計畫の會社が簇生し、財界は餘裕澤々たる情勢であつた

又十二月上旬通貨將に二十億圓に達せんとして居た、併し反面投機市場は警戒甚だ嚴にして、擧輕擧妄動飛付買を敢行するもの稀にて、越年せんとす、新春に入り局面如何に回轉するや、矢張り用愼警戒の念容易に解けず仕手の多數は依然採算を基礎とし、株式の內容、人氣の消長、財界四圍の情勢を考慮し、行動せんとするの氣構である、卽ち人氣は熱狂せざる丈、前途に爆發氣分が潛在して居る事は否定する譯に行かぬ、諸物價の騰貴率に比し、株式の市價騰貴の度低しと言ふは、苟も株式界に從事する者の等しく提唱するのみならず、一般世人も承認する處なれば、諸物價の騰貴一巡を告げたる揚句は、必然的株式界に人氣集注し來るは、自然の命數なりと信ぜらる、又物價騰貴は、物資缺乏より來りしは爭ふべからざる事實なると同樣、既設會社株式の數も、放資乃至投機の目的として思惑心を滿足せしむるに不足なるは明かなり、隨て株式界に人氣集注するに至らば一時的にせよ、當然爆發相場を演出するは逆睹するに難かるべし、殊に生糸の好況農作物の豐作は、地方民衆の資力を益々膨脹せしめ居れば、此一部は轉て循環的に株式界に反響し來るは又當然の結果なり、否既に地方に於て幾多の新規會社事業の勃興を見るにあらずや、今や都鄙を通じて、財力充實せる際なれば、放資に投

機に向ふは、滔々として水の低きに就くが如き情況なり、されば何時大相場の出現を見るやと言へば上半期にありと豫想す、這は上半期、少なくとも政治季節中幾多の惡材料突發し、其都度人氣衝動し大波瀾を演じたる揚句反動的大爆發を見るに至らん乎、更に實質上の材料よりして未だ增資を行はざる東株、鐘紡、米商株其他の紡績株乃至工業株雜株に至るまで、增資決行は兎に角、其機運に接近せる狀態は一般財界の趨勢に順應せざるべからざるの破目にあり、殊に最近銀行の大合同、若しくは增資は、抑も何を語りつゝあるや、株式界は現狀の儘挫折すべきものにあらず、併し自己の立場資力を忘れ法外なる思惑は絕對に手控へらるゝは勿論盲目的に進むは危險なり、一般が資力充實せる丈夫れ丈耐久力あるを以て、自然相場の波荒きを覺悟せざる可からず、神ならぬ身の豫想適中するや否やは保證の限りにあらざれど、幸に豫想の適中と世の參考資料となれば之に過ぎたる事なし云々(十二月)

株式界の白熱期

期して待つべし

飛將軍

前半期中に來らん

新年劈頭の相場、夫は如何であつても大正九年の大勢は依然悲觀の要なし、警戒裡に前進すべしと言ふのが當年株式戰場の戰術上の原則であらねばならぬ、或は時に猛然立つて追擊戰を續行せねばならぬ場合もあるであらう、何にしろ目先形勢の變化に應じて作戰を對應せしめねばならぬ、イヤ色々な攻擊方法を用ゐねばなるまいが、夫は畢竟大相場を期待する確信から割出されて來ねばならぬ、何を以て然か言ふか、夫を聞くのは野暮である、世の中は樣々でほんとうの病氣にならぬ内に精神的に病氣になる弱虫もある、何等悲觀する材料の無いのに、モウ悲觀病に罹つて弱氣ばかり吹いて居る者もある病氣は氣から起るものだと昔から云ふが、今の經濟界の一部には自分で病氣を作へて居る連中が大分ある樣だ、見よ物價の騰勢を、見よ株式の市況を、何れを見ても崩れんとして崩れず却つて高値に推進む力の輕視し難い氣配が、彼方此方に仄見えるでないか、今の株式市場は將に活動せんとする火山口を鍋蓋で押へて居るやうなもので、何時か爆發せねば止まぬ事は少しく財界の事情を知る者なら誰しも首肯する所であらう、だから悲觀論者や、夢遊病者や、退嬰萎縮論者が出鼻を折れば折る程爆發は激烈だ、今に見ろ賣方全滅の時期が來てソレコソ眞實の大病に囚はれるぞ、と言ひ度くなる、ソンナラ株界の大好況時期が何時來るかと云ふ事は讀者萬人の正に開かれんとする所であらうが曰く「言び難し」である。

諸君も考へて見給へ、他人に聞くばかりが能でない、米價は收穫時の今日でさへ益々高い生糸は悠々三千圓臺を突破して愈々昂勢である、米國邊ではイクラ高くとも無限の需要がある、露國では數年來農產收穫の不足の爲め、物資の缺乏は到底一兩年で恢復は出來ぬ、歐洲人が食糧不足の爲め米食を探る傾向が戰後著增して居るではないか、生糸も米も皆帝國農民の專賣特許品だ、農家の懷合は豐な

らざらんと欲するも得んやと言ひ度くなる、此素晴しい景氣は漸次株式の消化力に加はつて來て居る數年前迄東京株式取引所の株主は東京六分其他の地方四分位の散布狀態であつたものが、昨今では

六千七百七十名の株主中地方農民黨の株主四千九百名

の多きを占むる有樣である。

あまり話が微細な點迄亘るのでオレの秘訣を公開する樣なものだが、實際地方民の株式消化力は持久的漸進的である、日露戰後の浮薄な大相場ならモー疾くに出て居る筈であるが、今日の農民は其思想が投機から投資へ變化して居るから、定着性を帶んで來た、比較的浮動性が少くなつた、だから、地方人の此定着性が比較的株價の高低波瀾を調節して居る事が分明だ、此傾向から大相場を觀察して見よ去年から大相場大相場と聲はかり大きい。出さうで出ぬ、出なければならぬが何故出ぬだらうと疑問を抱いて居る、甚しい誤謬論者はモー大相場は出盡した、と途方も無い事を言ふが夫は全然間違ひだ、只地方農家の定着力が多少長く續いて居るから爆發しさうでせぬのだ、のみならず今日の相場は只の人氣では無いぞ人氣の裡に內容、實力がある、大勢がある、世界經濟界の縮圖が有の儘に潛んで居る、先づ東株を見よ新東が舊東株より高値に居る此の奇現象を何と考へる、一體東株は過去に於て大相場を演出するに大抵二箇年內外を費して居る、此の過去の實例を豫師とすれば、今回の相場の最抵は昨年の七月である、スレバ最高は二年後の本年七月頃とも言へるから、先つ二三月頃から株式の大活躍時代に入りはせぬかと思ふ、兎に角今半期中には來ると考へらるゝ、東株高低の經路は罫線學とやらを知らぬでも、大勢線とやらに寄らぬでも、苟も株式事情を知るものは凡てが諒解する所だらう、試みに東株の足取を造つて、其高値底値を連ね、大勢線を作つて見よ必ず首肯する所があるであらう、之は單に足取から言つたのであるが夫ればかりでなく、材料、人氣、凡ての點からヤハリ同じ結論に達する、要するに大正九年は日露戰後の明治四十年に相當するので、無意味の春高見越ではない、吾人の豫想は

屠蘇機嫌に擔き上げられた亂調子

の相場觀ではないのである、從つて只漫然樂觀に耽る譯には行かぬ、例へば政府は舊冬綿糸の輸出禁止をした、金利兩度の値上を斷行した、銀行は依然警戒裡に在る、財界の趨勢に依つては復た金利の引上げも避け難いかも知れぬ、砂糖の輸出禁止が飛び出るかも知れぬ、政治季節になれば種々な悲觀

材料が突發せぬとも限らぬ、併しながら市場の大勢はあく迄向上發展の餘地を存するのである、白熱的相場が一度は必ず現前せねばならぬ、ソシテ戀て悲觀時代が到來して、然る後でなければ戰時平調の經濟界に立ち直る事は到底出來ないのである、實に眼光を世界に放つて各國戰後の施設を見よ、何れも消極的財政策から積極的經濟政策に轉換せんとして、其時期の到來を促進しつゝある、大相場、白熱時代の萠芽が茲にも伺はれるではないか、只世人が大相場なるものは殆んど一本調子にヌルヌルと出て來るかの如く考ふるから不思議である、財界はソンナ單調なものでは無い、出所進退何れも微妙深遠の道理に支配されて、復雜多岐、其間に一道の脈絡相通ずるものである事をよく觀取せねばならぬ、此言は決して新年頭屠蘇の一杯氣焰ではないのである。

大相場の來否如何

岸林平

▲其程度如何は豫斷の限りに非ず▼

明けても、暮れても株式思惑者の頭を惱ますものは賣り乎、但しは買ひ乎の一ト言である、場面師は餘りに味ぢが好いから買つて來たと云ふ、連日の氣勢如何にも申分ない、之れでは目先き尙高しと見る外はない、ダマされたと思つて一番買つて來たと目先師は云ふ、恁んな調子で株式市場は絶えず市が榮えて居るのである、其處で目前の成行きを慮ると同時に大正九年初頭の春相場は如何、賣り乎但しは買ひ乎、それとし平凡調を辿るであらうが、否々果して大活躍相場が來るであらうか。若しもあるとすれば東株の八百圓相場何にかあらんやで命のあらん限り買ひ進まぬは嘘であるが、神ならでは知る由もない此の大相場の來否如何に就ては强弱共に萬人が萬人擧げて思案に餘る大問題であるので

ある。

高橋藏相は金利を引上げさせる、又地方に向つては投機の危險を言ひ含くめ、之れが抑壓に努め居るにも拘らず、相場は逆行して高張ると云ふので劫を煮やし大の不機嫌であると云ふ、又山本農相は外米の拂ひ下げを試みても米價は反對に上向く、綿糸綿布に對しては之れ亦荒療治を試みたがホンの當座丈でアトは知らぬ顏の半兵衞も宜しく益々騰貴するのでホト〳〵困じ果て今は匙を投げ、且つ嘆じて曰く、之れだから云はぬ事ではない、最初から吾が輩持論の通貨收縮策さへ取つたら恁んな苦るしみもせずに濟んだのである、然るに高橋藏相は之れに反對するのだから遂に此の有樣だと農相亦時局に對し不平黨の一人であるげな、金持はあるに任かせ不急な用事にも自働車を乘り廻す、地方の農家は米二俵賣れば金時計が買へると云つて懷ろ自慢をする、遂イ近頃迄農工銀行に厄介となつて居た抵當土地も普通もの反千圓にも二千圓にも昂りそれが飛ぶ樣に右から左へ賣れて行く、之れでは驕らざらんとするも得ずで持ちつけない金に自ら突つかれて株式放資と云ふやうな研究を始める、小人罪なく玉を抱いて罪ありとか、其處を着け目の會社屋は頻りに新會社を目論む、又出來星の現物屋は憶面もなく誇大な廣告を試みて地方人士の投機熱を唆る。

斯くして民衆化せる株式は日を逐ふて益々瀾蔓し、今は津々浦々、山の奥迄も株熱流行し、東株の相場を知らぬものは話せないと許り仲間外づれと云ふ奇現象を見るに至つた、曩に金利は引上げられる、投機抑制策は試みられる、銀行業者は中央は勿論地方到る處大警戒となり、株式賣買が旺盛であつて一地方の如きは全然信用の如何を論せず株式の貸付は今後御斷りと云ふ申合せ迄した處もあつたと聞くが些の反響もなく、幾多の理想賣物や智識階級に屬する資本家の繁ぎ物をも消化し極月初頭却て奔騰する此の勢の凡ならざるを眺めては暮れから大正九年の初春に大爆發相場、即ち大相場がなくつては納らぬかに思はれるのである。

少しでも相場が下押しを初めると、ソリや買ひ咎めの反動が來たぞ、逃がすなと許り軟派は鉾を揃えて出動を試みるが東の間に氣味ぢは直り再び上げ足を見せ他愛もなく、前きの高値を突破すると云ふ經過を見ても悲觀賣りは尙早と叫ばざるを得ぬではないか。

生糸上一番も愈々三千五百圓、只それ丈の聲でも一般買方をして意を强ふせしむるに足るものがあ

る、金利が上つて相場は逆に買物を喚ぶと云ふのは一見奇なる丈それ丈株熱の如何に高きかを察知すべしであつて之れを無視して買ひ煽るが如きは愚の骨頂なり、馬鹿も休み〳〵謂いなと聞いた風に賣り込む弱氣筋は遺憾乍らまだ盾の半面しか知らぬものである、素より熱で買つて來る相場ではないか熱には尺度がない標準がない、假令金利は一割しても二割しても今日紡績會社でも起せば直ちに五割も六割も儲けて行く事の出來る時世ではないか、又通貨の收縮策を繼續したからとて日本の富が急に減る譯でもないではないか、取り越し苦勞も好い加減にすべし、銀行で金を貸さねば借りない分の事だ、先づ以て吾が輩の實力を觀よ、其範圍で株式の買ひ思惑を試みる何の不可かあらんと敦圉くやら聳肩一番するやらで、テンカラ株は高いもの、ソシテ買つて儲けるものと決めて居る所謂群衆心理に大變化を招致せざ限りは經濟學者が何んと云はうが、行く處迄行かざる限り卽ち熱其ものが一度に飛散せぬ限り矢張り大相場があるものと見る方が兜街氣質の眞髓ではあるまいか。

アレ程警戒し居る銀行家中にすら强氣黨も却々尠なからぬそうで新設會社の濫設豈に意に介するに足らんやで、歐洲戰爭に依て意外にも大發展を遂げ更らに大世界に雄飛せんとする今日泡沫會社が簇出するは當然でそれが半ばブッ倒れたかとて驚くが如きは愚なりサ、今後の日本は何處迄も數年來蓄積し得た大なる實力を以て海外に向ひ一層商權の擴張を試みねばならぬ機運に迫つてのではないか然り無病の呻吟は智者の仕業に非らずと言ひ張る向きもあるげな。

際限も無き物價騰貴、思想界の動搖、原料高、製產費高、勞働問題等四圍の事情を顧みる時は最も高値に來て居る處の此株式は假令一枚たりと探算上買ふは嫌や寧ろ空らなりと賣つて置きたいのが人情であるが、賣れば直ちに引つかゝると云ふのがクドイ樣だが熱の作用である、げに恐るべきものは人氣の消長である、株式市場が物價調節論者に天下を讓づるのは未だ先きへ行つての事であらう、馬鹿と云はれても何んと罵しられても春相場は高いと看る外はない、それが果して驚くべき大相場であるや否やは素より判斷もしかねるが、大相場が實現されぬ限りは深押し亦望むべからずである、吾人は民衆化せる株式界異狀の發達に就ては實に何んとも云へむ只々驚いて居る一人である、大正八年十二月一日新甫二月限發會の好況を眺めつゝかくなん。

待たる大相場

林金鈴女

女の相場師、ソレハ幾らもあります、紐育ウオール街の株式市場などでは、時によると、見物席の半數が女である事も珍らしくないさうです、私共の店へ御出になる方々の内にも、隨分女の方で堅實な適確な前途の見込を立てて、目先の動搖にビクともなさらない投資家が澤山あります、名前は御預り致しますが此頃も某富豪夫人の御注文を承りに參りますと、次の様に仰せでした、卽ち今頃悲觀說を吐いて大相場が來るか來ぬかと言ふ樣な事を考へるのは時代遲れだ、株式を知らぬ人でも知れた者だ、なる程騰る物は下落する、急騰は急落は物の原則である位は三才の兒童も知つて居ますよ、「喰過ぎは下痢の下地」よく判つるじやありませんか、ソリヤ日露戰爭後

一時的經濟界の好況を齎したのとは全然違ひますよ

根底あり實力あり、世界の經濟戰裡に角逐する用意は大底出來てるのです、成程物價は底止する所を知らぬが之は戰時五ヶ年間に釀成された結果で、一朝一夕に平調に復るとは何としても思へません政府が下手な應急手當をすれば、ソレコソ取り返しの付かぬ事になりませう、永年の不攝生から來た胃病だと假定して御覽なさい、一回や二回の醫療で直りますものか、胃腸の大掃除が驟て株式の爆發ですもの今の悲觀論は恰も

噴火山上で舞踏してゐる樣ではありませんか

貴女、大勢は賣か買かと聞かれたらモウ後は言はぬでも知れてますよ只大相場がどんな風に來るが問題です、其來來るや處女の如く、嬌態嫵々として來るか、其來るや疾風の如く突如として來るが、外界の事情が今日此儘で惡材料が出盡しとして後は自然の趨勢に委せらるゝなら、大相場は意外に早く來ませう、議會が始まつた財界が政治に支配さるゝ事があれば高保合で長引ませう、人爲政策豫見に對しては豫見は私共には出來ませぬが、現在の手心なら左程長時日は要せぬであらう、古河合名會社の

井上公二さんが中外商業に經濟界の前途は樂觀して可也と言つて居るぢやありませか、彼の方の口吻を借りて言へば此金融潤澤な時に多少の無謀な投機者流があつても夫は止む得ない、株式の内容實質を精査して事業界に投資する事は聽て國力發展の基礎であつて吾人は却つて之を歡迎するとか書いてあつた樣に覺えて居ますは、ええ私は經濟記事や相場記事を讀まぬと其日の新聞を讀むだ氣がしません、ソレにモ一ッ妾は御幣を擔ぐ樣ですが株式賣買に「迷ひ」が一番惡いと思ふので、時々易を立てて決心するのです、笑つちやいけません、誠意誠心が其内に籠れば易も亦可也ではありませんが、株の易斷！　ソリヤ話せません、私の奥の手ですもの、ソンナラ卦の名丈を敎へて上げませう、來年は「水電屯（スイライチュン）」御判りになりますまい、一寸説明を加へれば龍水中に動く象です、龍は何時かは上天するでしよう、之れ以上は説明の限りでありません云々と夫人は語つて居られます、私共は其御話を其儘受入れても差支へ無いと信じます「來るか來るかと待たせて置て通り過たか夏の雨」ソンナ平凡な相場で今年は通しません事を斷言します。

來るべき大相場

東京米穀商品取引所仲買人
丸平商店主　平瀨彌代次

紡績株は暴騰の先驅乎

自分の本業は棉花商で米穀及綿糸仲買人は副業である殊に株式界の事情に至つては門外漢である、隨て其前途觀に就て語るべき資格はないが、株式も期米も定期綿糸も相場道より見れば其律は同一であると思ふ、又自分は棉花綿糸に重大なる關係を有する立場から株式中紡績及其他纖維工業株に向つては常に注意して居る、又事實に於て所有株の大部は之等紡績株である、此點からして紡績に就て自信のある處を披瀝し、世人の參考に資せんとす大體紡績株は定期市場に於ける花形株であつて主力株

であるから諸株は概ね紡績株により、支配せらるゝと言ふも敢て過言でない、世人動もすれば綿糸市價の騰落を以て紡績株を律せんとするは謬見である、會社の製品販賣法は先約にして常に原棉との採算を基礎として如何なる場合に於ても利益を見て賣約を行つて居る、今現在の市價と會社が現在受渡を行ひつゝある、品の過去に於ての約定値段とを比較せば其値鞘甚だしけれど其當時の原棉相場より打算して利益を獲得せるは明かである、殊に昨年度の綿糸需給不均衡は原棉相場を無視して、突飛高を告げた此の異常なる高値を以て會社は製品を先へ先へと約定を結で居るから、其利益の莫大なる事は言ふまでもない、多數の會社は來年一杯を賣約せしと言へば、其利益も想像するに難からざるべしだ、故に前季より本季本季より來季と逐次利益の增加を招來するは當然なりと思ふ、尙又世界的に綿糸綿製品の缺乏は事實で、戰時中歐洲諸國の紡績業が發展を阻害されたるのみならず、佛國及び白國の戰害を蒙りたる紡績原狀回復に至るまで、相當の時日を要すは勿論なるが加之米棉收穫の減少に原料の不足を來すは又必然なり、此間我紡績のみ有利の地位にあつて現在の如き市價を以て綿糸綿製品は消化され向後兩三年間好況持續するは逆睹に難かるべし、其譯は綿糸の禁輸を昨年十一月に政府は斷行し

續て綿糸布の關稅撤廢を決行せられたが、矢張綿糸市價は奔騰して行く卽ち綿布輸出は綿糸の禁輸を償ふて余りありだ、又世界一の高値にある綿布は滔々として輸出されてゐる、日本品より下鞘にある、英國品は東洋市場に出廻らないのは矢張英國は生産不足であるに依る、尙英國品は戰前に於て支那市場に於ける、綿布の三分の二を占めてゐたのだ此點から、戰後の市場回復策からしても精々東洋市場に製品を送らなければならぬ道理だ。如何に綿糸綿製品は世界的に欠乏してゐるかを證據立て余りありだ、此理由よりして旣設紡績會社の株式は價値あり大抵の會社は利廻りより見ても、買余地がある殊に鐘紡富士紡の如きは增資を行つてない丈前、途有望である又相場を目的とする人は東株に目を注ぐのが之は當然である、諸株は暴騰すれば東株は爆發する順序であるか、矢張り本年は恐らくは紡績株先驅をなすであらうと自分は信じてゐる、終りに之は一般定期界で成功せんと欲する人は參考にまで申上げる一般に素人は利喰を急ぎ引かされた度胸は太い、相場の小高下の時代は難平の利目があるが大相場には難平賣買は頗る不利益である、心機一轉は定期道の秘決である退證を請求されるまでにドテンをやらぬと駄目だ、もう此上幾何引かされる氣で難平をかけると言ふが如きは拙なるもの

であるもうと言ふ考が起つてゐるに拘らず、死地に陷る樣な事をやるのは相場と心中するやうなものだ心機一轉を金科玉條とすべしだ云々。

春高見越の人氣

＝相場活躍せん＝

加藤生

東京株式市況は此處兩三日、日銀第三次利上說が濃厚になつたので、人氣が多少萎縮し、買方は手詰を焦慮し、賣方は之を機會に賣込むから、一時頹勢を見るであらうがやはり警戒裡に擡頭せんとする氣配が漲つてゐる、現に日銀二回の利上げ並に農商務省の輸出禁止も、何れも相場面から見れば、却つて灰汁拔けの觀である、銀行家や、當局が峻烈の警戒をすればする程、投機抑壓の手段を講ずれば講ずる程、其反撥は却て激甚である、何にしろ民間の經濟力が豐富であるから、金策等は如何樣にしても出來る、今日の買手は市人ではない、田舍の手堅い連中である、借金をして株を買つて思惑をするのと違ふ、其證據は一般財界に反影して居る、現に前日來却つてコールは取手無しといふ正反對の奇現象を呈して、金利も翌日物一錢臺に墜落する、延いて長期物に對する警戒も勢ひ緩和せざる可

からざる狀況にある樣に見えるのでも分明でない乎。

最も此年末は、一年中の總勘定といふ大決濟を控へて居るから、資金關係に就ては、仲々樂觀を許さないだらうが、今日の模樣では年末も案外平穩無事に經過し株式市場も一昂一低の裡に昂進步調を取つて大正八年を終るであらう、元來人は人氣上の原則を等閑視するが、何時の時代でも、銀行家や爲政者の警戒嚴重なる時は、其警戒の嚴重なる程一般經濟が底固めをして、聽て爆發的景氣を出現する前提となるもので、之は過去の歷史が繰り返し繰り返し、吾人に敎へて居る所で、最早や今日の形勢は此歷史を繰り返すべき必然の徑路に立つて居るので無いかと思はるゝ、市場の多數者が異口同音に年末の金融逼迫は年中行事の一つで、若し之れによつて賣り込み來れが如き事あらば、好箇の買場所として、暗に春高を人氣の上に諷しつゝある次第である、又賣方の唯一の武器とする所の幾多の悲觀材料は已に出盡した、イヤ例令出るにしても最早や正々堂々と名乘りを上げて出るものは無い、例へば物價調節の如きも此れ以上策の施し樣なし、とは政府當局の寢言なりといふに非ず哉、今日世界の物價は其例物たるを問はず、日一日と缺乏の度を加へて來た、平和の到來は物資缺乏の眞實なる告

白で、今後數期間は到底容易に緩和せらるゝもので無い、常に大なる機關によりて充分なる調査を遂げつゝある各國政府及當業者の聲明する所は、皆此一事に歸着して居る、卽ち物價騰貴の最大原因、通貨膨脹の原因が已に斯くの如き形態であるから、容易に急轉直下的の暴落を招來すべしと信じ得られぬ道理である。

銀行業者の矛盾と言ふも可笑しいが、民間各銀行が競ふて小銀行の併合、大銀行の合併、又は大資本の增加を斷行して居る、言ふ迄もなく、銀行資本の增加は放資資金の增加を意味する、從つて我が財界の膨脹を說明する、此財力の膨脹を度外に措き信用證券の購買力を抑止せんとするのは本末を誤れる逆政なりと評せざるを得ん。

要するに株式界の前途は一に財界殊に地方に蓄積せる潛勢力の大小に依つて、其爆發の程度を異にするものであると見るのが公正な觀察である、今日地方が株式熱に罹つてゐると言つても、之を其資力から言へば、僅かに九牛の一毛である、地方人が追々と株券の有利なるを知り其危險率が世人の想像する程激甚でない事を會得するに到つたなら、恐ろしい迄に充實し切つた地方の遊資は雪崩を打つ

て株式市場に殺到するに違ひない株式市場は活躍せざらんと欲するも得ぬのである、而して其時期は最早や日一日と近づきつゝある、今日の春高見越人氣は決して偶然の春高見越では無い。

大正八年十二月十五日印刷
大正八年十二月二十日發行

定價金壹圓五拾錢

著者　小西榮三郎
東京市京橋區南八丁堀一丁目四番地
日本圖書出版株式會社取締役社長

發行人　小西榮三郎
東京市京橋區南小田原町二丁目十六番地

印刷者　金津三之助

印刷所　金津印刷所

版權所有

發行所　東京市京橋區京橋電話局前
日本圖書出版株式會社經營
利殖之友社
電話京橋二二〇三・四八四二番
振替東京四二五四〇番
電信暑號「リショク」

（大相場の來否及其特質奥付）

380
37

終